
JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 8.11 SP1 PeopleBook

2005 年 8月

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 8.11 SP1 PeopleBook
SKU E1_APPS811SP1APG-B JPN
Copyright © 2005, Oracle. All rights reserved.

本プログラム（ソフトウェアおよび文書）には、知的財産が含まれています。本プログラムは、使用および公開に関する制約が明記されたライセンス契約に従うことを条件として提供され、著作権、特許権などの知的財産権法および産業財産権法により保護されています。本プログラムのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは、他の独立したソフトウェアとの相互運用性の確保に必要とされる範囲または法的に規定された範囲を除き、禁じます。

本書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。本書の内容に問題があった場合は、当社まで書面によりご通知ください。また、当社は、本書の内容に全く誤りがないことを保証するものではありません。ライセンス契約に明示的に規定された場合を除き、形式、手段（電子的、機械的など）、および目的の如何にかかわらず、本プログラムを複写、複製、または転送することを禁じます。

本プログラムが、アメリカ合衆国政府、またはその代理として本プログラムを使用する者に提供される場合には、以下の条項が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

本プログラムは、原子力、航空、大量輸送、医療などの本質的に危険を伴う用途を目的として作成されていません。危険を伴う用途に本プログラムを使用する場合の障害対策、バックアップ、および冗長構成などの適切な措置を講じた安全性の確保は、ライセンス供与を受けた者の責任とし、これらの用途に使用された場合のいかなる損失や障害について、当社は一切責任を負いません。

本プログラムには、Web サイトへのリンクが含まれており、サードパーティのコンテンツ、製品、およびサービスへのアクセスが発生する場合があります。サードパーティの Web サイトの運用およびそのコンテンツについて、Oracle は一切責任を負いません。これらのコンテンツの使用上の全ての責任は、使用者が負うこととします。サードパーティから製品またはサービスを購入する場合は、その購入者とサードパーティの間の直接取引になります。(a) サードパーティの製品またはサービスに関する品質、(b) サードパーティとの契約におけるいかなる条件の遵守（製品またはサービスの提供、また、購入された製品またはサービスに関する保証義務など）について、Oracle は一切責任を負いません。サードパーティとの取引に伴ういかなる損失や障害について、Oracle は一切責任を負いません。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の会社名および製品名は所有各社の商標です。

オープン ソースの利用について

Oracle は、オープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアの使用または配布について責任を負いません。また、これらのソフトウェアまたはドキュメンテーションの使用によるいかなる損失や障害についても一切責任を負いません。Oracle の PeopleSoft 製品には以下のオープンソースソフトウェアが使用される場合があります、これらには下記の免責条項が適用されます。

この製品には、Apache Software Foundation 社 (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは現状のまま提供されており、商品性や特定の目的への適合性に対する保証はもとより、明示的にも暗示的にも、一切の保証はありません。Apache Software Foundation 社およびその共同提供者は、いかなる損害に対しても責任を負いません。これは、その損害が、直接的、間接的、付随的、特殊、典型的、または必然的であるか否かを問いません。また、代替品の購入や代替サービスの利用、有用性およびデータや利益の損失、業務の中断に対する保証もいたしません。本ソフトウェアの使用によるあらゆる損害の発生に対して、契約の記載や、重大な過失などによる権利侵害の有無にかかわらず、また、そのような損害の可能性について報告を受けていたとしても、Apache Software Foundation 社は一切責任を負いません。

目次

はじめに

この PeopleBook について	xi
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識.....	xi
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎.....	xi
印刷・製本されたドキュメンテーションの入手.....	xii
印刷・製本されたドキュメンテーションの注文.....	xii
追加情報.....	xiii
表記規則.....	xiii
表記規則.....	xiv
注意事項の表示.....	xiv
国、地域、業種の表記.....	xv
通貨コード.....	xv
ご意見・ご要望をお寄せください.....	xvi
全ての PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xvi

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 – まえがき.....	xxi
対象の製品.....	xxi
アプリケーションの基礎.....	xxi
この PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xxi

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 – はじめに.....	1
価格管理の概要.....	1
価格管理のビジネス プロセス.....	2
価格管理のインテグレーション.....	5
価格管理の導入.....	6
グローバル導入ステップ.....	6
アプリケーション別導入ステップ.....	6
(BRA) Application-Specific Implementation Steps.....	7
調達管理用の導入ステップ.....	7
受注管理用の導入ステップ.....	7

第 2 章

価格管理について	9
価格管理.....	9
価格管理の機能.....	9
調達管理における価格管理.....	13

第 3 章

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定	15
設定要件について.....	15
価格管理の固定情報の設定.....	16
価格管理の固定情報について.....	16
価格管理の固定情報の設定に使用するフォーム.....	17
システム固定情報の設定.....	17
価格管理固定情報の設定.....	19
価格管理の AAI の設定.....	20
価格管理の AAI について.....	20
事前設定.....	21
価格管理の AAI の設定に使用するフォーム.....	21
AAI の設定.....	21
(BRA) Setting Up Advanced Pricing for Repasse.....	22
Understanding Advanced Pricing for Repasse.....	22
Prerequisites.....	23
Forms Used to Set Up the Adjustment/Preference Name UDC (40/TY).....	23
Setting Up the Adjustment/Preference Name UDC (40/TY).....	23

第 4 章

基本価格設定の使い方	25
基本価格設定について.....	25
受注管理における基本価格設定について.....	26
価格の承認について.....	28
事前設定.....	33
調達管理における価格設定について.....	33
基本価格優先階層の検討.....	36
基本価格優先階層について.....	36
基本価格優先階層の検討に使用するフォーム.....	38
基本価格の優先階層の改訂.....	38
基本価格の設定.....	38
基本価格の設定について.....	39

事前設定.....	39
基本価格の設定に使用するフォーム.....	39
基本価格の設定.....	39
既存価格の有効化.....	40
既存価格を有効にする価格承認変換プログラム (R45210) について.....	40
価格承認変換プログラム (R45210) の実行.....	41
価格承認変換プログラム (R45210) の処理オプションの設定.....	41
 第 5 章	
スケジュールと調整の使い方.....	43
スケジュールと調整について.....	43
事前設定.....	48
価格管理階層の設定.....	48
価格管理階層について.....	48
価格管理の階層の設定に使用するフォーム.....	51
優先マスターの設定.....	52
価格設定階層の定義.....	52
調整定義の利用.....	53
調整定義について.....	53
調整定義の処理に使用するフォーム.....	55
調整定義の設定.....	55
請求書と購買オーダーについての販売促進情報の表示.....	56
価格調整の排他の指定.....	56
調整スケジュールの作成.....	56
調整スケジュールについて.....	56
事前設定.....	57
調整スケジュールの作成に使用するフォーム.....	57
調整スケジュールの作成.....	57
調整明細の設定.....	58
調整明細について.....	58
売上調整の基準コードについて.....	59
購買オーダー調整の基準コードについて.....	61
調整明細の設定に使用するフォーム.....	63
調整明細の設定.....	63
異なる通貨を使用した価格調整の新規作成.....	64
異なる通貨を使用した価格調整について.....	64
価格/調整の生成プログラム (R407201) の処理オプションの設定.....	65
価格/調整の生成プログラム (R407201) の実行.....	66

第 6 章

価格設定の使い方	67
価格設定について	67
価格設定ワークベンチの使い方	67
価格設定ワークベンチについて	68
価格設定ワークベンチの処理に使用するフォーム	70
価格設定検索クエリーの生成	70
価格設定検索クエリーの結果の表示	71
価格調整レコードの一括更新	72
顧客別価格表の使い方	73
顧客別価格表について	74
顧客別価格表の処理に使用するフォーム	75
価格表の作成と価格表構造の作成	75
調整用の価格表グループの指定	76
カラム パターンを使った価格表調整のグループ化	76
サーチ エージェントの作成	76
サーチ エージェントについて	76
サーチ エージェントの作成に使用するフォーム	77
サーチ エージェントの作成	77

第 7 章

購買構造の利用	79
購買構造について	79
価格設定用の購買構造の設定	81
購買構造の設定について	81
事前設定	82
価格設定用の購買構造の設定に使用するフォーム	83
価格設定用の購買構造の設定	83
住所録組織構造の表示および改訂 (P0150) の処理オプションの設定	84
購買構造の確認と改訂	84
購買構造の改訂について	84
購買構造の確認と改訂に使用するフォーム	85
購買構造の確認と改訂	85
直接価格調整の作成	85
直接価格調整について	85
事前設定	86
直接価格調整の作成に使用するフォーム	86
直接価格調整の作成	86

第 8 章

一時変更検索グループの定義	89
一時変更検索グループについて.....	89
事前設定.....	90
複合価格グループの使い方.....	91
複合価格グループについて.....	91
事前設定.....	92
複合価格グループの処理に使用するフォーム.....	93
複合顧客価格グループの設定.....	93
複合品目価格グループの設定.....	94
価格グループ組み合わせの生成.....	95
価格グループ組み合わせについて.....	95
顧客価格グループの生成.....	95
品目価格グループの生成.....	95
オーダー明細グループの定義.....	95
オーダー明細グループについて.....	95
オーダー明細グループの定義に使用するフォーム.....	96
オーダー明細グループの定義.....	97

第 9 章

補足調整の使い方	99
補足調整について.....	99
この章で使用する共通フィールド.....	100
無償品調整の作成.....	101
無償品調整について.....	101
事前設定.....	101
無償品調整の作成に使用するフォーム.....	102
無償品調整の作成について.....	102
無償品カタログの使い方.....	103
無償品カタログについて.....	103
事前設定.....	104
無償品カタログの処理に使用するフォーム.....	104
無償品カタログの作成.....	104
扱い高基準アップセルの使い方.....	105
扱い高基準アップセルについて.....	105
事前設定.....	106
扱い高基準アップセルの処理に使用するフォーム.....	106
扱い高アップセル価格の作成.....	106
丸め規則の使い方.....	106

丸め規則について.....	106
事前設定.....	107
丸め規則の処理に使用するフォーム.....	108
丸め規則の設定.....	108
扱い高基準の設定.....	109
扱い高基準について.....	109
事前設定.....	110
扱い高基準の設定に使用するフォーム.....	111
扱い高基準調整の有効化.....	111
扱い高基準情報の設定.....	111
リベート調整の使い方.....	111
リベート調整について.....	111
リベート見越し調整について.....	113
通常の購買リベートについて.....	114
仕入先販売証明リベートについて.....	114
階層別リベートについて.....	115
事前設定.....	116
リベート調整の処理に使用するフォーム.....	116
リベート規定値の定義.....	117
仕入先販売証明リベートの作成.....	118
変動価格調整の使い方.....	118
変動価格調整について.....	119
変動価格調整の処理に使用するフォーム.....	120
価格変動調整の作成.....	120
価格計算式調整の作成.....	120
通過逡減の使い方.....	120
通過逡減について.....	121
通過逡減の処理に使用するフォーム.....	122
通過逡減調整の作成.....	122
粗利益調整の作成.....	122
粗利益調整について.....	123
事前設定.....	123
粗利益調整の作成に使用するフォーム.....	123
目標粗利益調整の優先詳細の定義.....	124
目標粗利益調整の上限と下限の定義.....	125
期間延長条件調整の作成.....	125
期間延長条件調整について.....	125
事前設定.....	126
期間延長条件調整の作成に使用するフォーム.....	126
期間延長条件調整の優先詳細の定義.....	126

期間延長条件調整の支払期間の定義.....	126
シップ アンド デビット調整の使い方.....	126
シップ アンド デビット調整について.....	127
シップ アンド デビット調整明細について.....	129
事前設定.....	129
シップ アンド デビット調整の処理に使用するフォーム.....	130
シップ アンド デビット調整の定義.....	131
調整残高 (P45715) の処理オプションの設定.....	131
シップ アンド デビット調整残高の設定.....	131

第 10 章

価格再設定の使い方.....	133
価格再設定について.....	133
価格調整変更の検討方法について.....	133
価格調整レポートについて.....	134
価格調整の改訂レポートについて.....	134
先日付調整追加レポートについて.....	134
価格変更の影響を受けるオーダー レポートについて.....	135
バスケット マスターの使い方.....	135
バスケット マスターについて.....	135
事前設定.....	136
バスケット マスター情報の処理に使用するフォーム.....	137
バスケット マスター情報の設定.....	137
バスケット レベル調整の作成.....	138
拡張バスケット品目への調整の適用.....	138
拡張バスケット品目の品目レベルの調整について.....	139
事前設定.....	139
拡張バスケット品目への調整の適用に使用するフォーム.....	139
拡張バスケット品目への調整の適用.....	139
オーダー レベル調整の作成.....	140
オーダー レベル調整について.....	140
オーダー レベル調整の作成に使用するフォーム.....	140
オーダー レベル調整の作成.....	140
受注オーダーの価格再設定.....	141
受注オーダーの価格再設定について.....	141
オーダー照会後の価格再設定.....	141
バスケット レベルまたはオーダー レベルの価格再設定.....	141
自動価格再設定.....	141
調整の改訂.....	141

調整の改訂について.....	142
事前設定.....	142
調整の改訂に使用するフォーム.....	143
オーダー入力時の調整の追加.....	143
オーダー入力時の価格レベル分岐の変更.....	143
顧客のリポート情報の検討.....	144
 第 11 章	
販促 ID の使い方.....	145
販促 ID について.....	145
販促状況の設定.....	145
販促状況について.....	145
販促状況の設定に使用するフォーム.....	145
販促状況の追加.....	146
販売促進情報の入力および更新.....	146
販売促進の管理について.....	146
販売促進の追加に使用するフォーム.....	146
販売促進の追加.....	146
販売促進の関連付け.....	147
販売促進の関連付けについて.....	147
販売促進の関連付けに使用するフォーム.....	148
調整に対する販売促進の関連付け.....	148
オーダーに対する販売促進の関連付け.....	149
 付録 A	
EnterpriseOne 価格管理の標準ワークフロー.....	151
EnterpriseOne 価格管理の標準ワークフロー.....	151
価格承認.....	151
 EnterpriseOne 用語集.....	153
 索引	165

この PeopleBook について

PeopleBook には、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

ここでは、以下の事項について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎
- 印刷・製本されたドキュメンテーションの入手
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見・ご要望について
- PeopleBook で使用する共通フィールド

注: PeopleBook には、システムで使用されている全てのフィールドについて説明されているわけではありません。アプリケーションで共通して使用される主なフィールドは、共通フィールドとしてまとめて説明しています。全てのアプリケーションで共通するフィールドはこの PeopleBook に、各アプリケーションで共通するフィールドは、それぞれの製品ライン、PeopleBook、またはその章やセクションごとに、共通フィールドとしてまとめて説明されています。それ以外に説明が必要だと思われるものについては、処理や業務を実行する具体的なページの説明と併せて、フィールドやチェック ボックスの説明をそれぞれ記載しています。

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識

この PeopleBook の内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基本的な使い方を熟知する必要があります。

また、JD Edwards EnterpriseOne の入門トレーニング コースを少なくとも 1 つ修了していることが推奨されます。

この PeopleBook では、ユーザーが JD Edwards EnterpriseOne システムを操作でき、メニューやページ、フォームなどを使って情報を追加、更新、削除できることを前提としています。また、Web ブラウザと、Microsoft Windows または Microsoft Windows NT の操作に習熟していることも必要です。

ここでは、JD Edwards EnterpriseOne システムを操作できることを前提としているため、操作手順についての説明は省略しています。この PeopleBook では、JD Edwards EnterpriseOne システムを効果的に使用するために必要な情報や、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを導入するために必要な情報を提供します。

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

各アプリケーションの PeopleBook では、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

また、システムを設定したり設計するときに必要となる情報が、製品ラインで共通する『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている場合もあります。ほとんどの製品ラインについて『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』が用意されています。それぞれの PeopleBook のまえがきに、関連する『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』の情報が記載されています。

『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』で取り上げている項目は、製品ラインのどのアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものばかりです。JD Edwards EnterpriseOne システムを導入する場合、製品ラインの中から 1 つのアプリケーションだけを導入する、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する、または製品ライン全体を導入する、といういずれの場合でも、この『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている内容を十分に理解しておくことが必要です。基礎的な内容を理解することが、導入タスクに着手する出発点となります。

印刷・製本されたドキュメンテーションの入手

このセクションでは、印刷・製本されたドキュメンテーションの注文について説明します。

印刷・製本されたドキュメンテーションの注文

PeopleBooks CD-ROM に収録されているドキュメンテーションは、印刷・製本された形のものも用意されています。印刷・製本されたドキュメンテーションは、以下のいずれかの方法でご注文いただけます。

- Web サイト
- 電話（米国およびカナダのみ）
- 電子メール

Web サイト

PeopleSoft の Web サイトである Customer Connection から注文できます。Ordering PeopleBooks リンクをクリックすると、PeopleBooks Press の Web サイトにアクセスすることができます。このサイトは、PeopleSoft と印刷会社 MMA Partners 社が共同で運営しています。ご注文の際、クレジット カード、郵便為替、銀行小切手、または注文書をご利用いただけます。

電話（米国およびカナダのみ）

877 588 2525 (MMA Partners 社) までご連絡ください。

電子メール

peoplebookspress@mmapartner.com (MMA Partners 社) までご連絡ください。

関連項目:

PeopleSoft Customer Connection
<https://www.peoplesoft.com/corp/en/login.jsp>

追加情報

PeopleSoft Customer Connection Web サイトから、以下の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	[Updates + Fixes]
ビジネスプロセス マップ	[Support]、[Documentation]、[Business Process Maps]
データモデル	[Support]、[Documentation]、[Data Models]
エンタープライズ インテグレーション ポイント (EIP) のカタログ	[Support]、[Documentation]、[Enterprise Integration Point (EIP) Catalog]
ハードウェア要件とソフトウェア要件	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Hardware and Software Requirements]
インストール ガイド	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Installation Guides and Notes]
PeopleBook ドキュメンテーションのアップデート	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]
サポートポリシー	[Support]、[Support Policy]
製品出荷予定	[Support]、[Roadmaps + Schedules]
リリースノート	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Upgrade Guide]、[Upgrade Documentation and Software]、[Release Notes]
テーブルのロード順序	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Table Loading Sequences]
トラブルシューティング情報	[Support]、[Troubleshooting]
アップグレード関連のドキュメンテーション	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Upgrade Guide]

表記規則

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

PeopleBook は、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCode の関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しで、そのまま記述すべき PeopleCode の予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCode の構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー + キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら 2 番目のキーを押すという意味です。たとえば、Alt + W は、Alt キーを押しながら W キーを押すことを表します。
Monospace font (固定幅のフォント)	PeopleCode のプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
...(省略記号)	PeopleCode の構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ }(中かっこ)	PeopleCode の構文で、2 つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒 () で区切られています。
[](角かっこ)	PeopleCode の構文で、省略できる要素を示します。
&(アンパサンド)	PeopleCode の構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCode の変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

PeopleBook では、注意事項が以下のような形式で示されています。

注

JD Edwards EnterpriseOne システムを使って作業するときに注意すべき事項が書かれています。

注: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守るべき大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

JD Edwards EnterpriseOne システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照:”、または“関連項目:”という形で示しています。すぐ前で説明した情報に関連する他のドキュメンテーションが相互参照として示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常はセクションの見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています。

特定の国を対象とした見出しの例: 「従業員の採用 (FRA)」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「減価償却の設定 (中南米)」

国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO 標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO 標準の国コード」

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使って表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

通貨コード

金額は、ISO が定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO 標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO 標準の通貨コード」

ご意見・ご要望をお寄せください

PeopleBook についてのご意見、ご要望を下記にお寄せください。

〒154-0005
東京都世田谷区三宿 1-13-1
東映三宿ビル 5 階

日本オラクルインフォメーションシステムズ株式会社
エンタープライズ ランゲージ サービス マネジャー宛

TEL: 03-5251-8768

または、ETSJPN_US@ORACLE.COM へ電子メールでご連絡ください。

いただいた電子メール全てにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

全ての PeopleBook で使用する共通フィールド

以下 Enterprise の用語です。

指定日	どの日付までのデータが、レポートまたはプロセスの対象となるかを指定します。
ビジネスユニット	業務上、区分された上位レベルの組織の ID です。ビジネスユニットを利用して、1 つの大きな組織の中に地域別または部門別に複数のユニットを定義することができます。
名称	30 文字までのテキストを入力できます。
有効日	テーブル行が有効になる日付、またはアクションが開始される日付です。たとえば、元帳を 6 月 30 日に締める場合、元帳締めの有効日は 7 月 1 日となります。データを表示、変更できる時期も有効日により管理されます。この情報を使用するページやバッチ処理では、現在行が使用されます。
1 回限り、常時、実行しない	<p>“1 回限り”を選択すると、次のバッチ処理実行時にリクエストが実行されます。バッチ処理が実行されると、処理頻度は自動的に“実行しない”に設定されます。</p> <p>“常時”を選択すると、バッチ処理が実行されるたびに毎回リクエストが実行されます。</p> <p>“実行しない”を選択すると、バッチ処理が実行されてもこのリクエストは実行されません。</p>
プロセス モニター	このリンクをクリックすると、プロセス リスト ページに移動して、送信したプロセス リクエストのステータスを確認できます。
レポート マネージャ	このリンクをクリックすると、レポート リスト ページに移動して、レポート内容の表示、レポート ステータスの確認、レポートと配信リストの詳細を表示する内容詳細メッセージの照会を行うことができます。

リクエスト ID	レポートまたはプロセスの選択条件のセットを表す ID です。
実行	このボタンをクリックしてプロセス リクエスト ページにアクセスすると、プロセスまたはジョブの実行場所、およびプロセスの出力フォーマットを指定できます。
セットID	コントロール テーブル情報のセット、つまり、テーブルセットを表す ID です。テーブルセットを使用すると、コントロール テーブル情報や処理オプションをビジネス ユニット間で共有できます。これにより、データの重複やシステムのメンテナンス作業を減らすことができます。ビジネスユニット内のレコード グループにセットID を割り当てると、レコード グループ内の全てのテーブルは、そのビジネスユニットと、そのレコード グループに同じセットID を割り当てているその他のビジネス ユニットとの間で共有されます。たとえば、複数のビジネスユニットで共通する職務コードのグループを定義して共有することができます。職務コードを共有する各ビジネス ユニットには、そのレコードについて同じセットID が割り当てられます。
略称	15 文字までのテキストを入力できます。
ユーザー ID	トランザクションを実行するユーザーを表す ID です。
以下 EnterpriseOne の用語です。	
住所番号	エンティティのマスター レコードを識別する固有の番号です。住所番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナント、などの ID として使用できます。アプリケーションによっては、ページ上の住所番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員番号、応募者番号、加入者番号、などに相当する場合もあります。
仮定通貨コード	取引金額を表示する際に使用する通貨を指定する 3 文字のコードです。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号です。入力ページでは、ユーザーが手動でバッチ番号を割り当てるか、自動採番プログラム (P0002) によって自動的に割り当てることもできます。
バッチ日付	バッチが作成された日付です。このフィールドを空白のままにすると、自動的にシステム日付がバッチ日付として指定されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード (UDC) 98/IC の値を表示します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>空白: バッチが転記されていないか、承認待ちです。</p> <p>A: バッチの転記が承認され、貸借も一致していますが、まだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されました。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードが E に変更されます。</p>

U: ほかのユーザーがこのバッチを使用しているか、バッチが開かれている間に電源障害が発生したために、バッチが一時的に使用できなくなっています。

事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業所、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードです。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	個別に費用がトラッキングされる各エンティティを表すコードです。システムによっては、事業所とも呼ばれます。
カテゴリ コード	各カテゴリを表すコードです。カテゴリ コードは、ユーザー定義コードで、トラッキングや申告など、組織の業務要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	組織、資金、報告主体などを識別するコードです。会社コードは、F0010 に定義済みである必要があり、このコードで表される単位ごとに、完全な貸借対照表を備えている必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す 3 文字のコードです。EnterpriseOne では、国際標準化機構 (ISO) に準拠した通貨コードを提供しています。通貨コードは F0013 テーブルに格納されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられた会社番号です。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付と併せて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度によって次の番号を割り当てる場合、この会社番号に基づいて、その会社の次の番号が自動的に抽出されます。</p> <p>同じ伝票番号と伝票タイプが複数の当初伝票に割り当てられていても、伝票会社番号を使用すれば、目的の当初伝票を表示することができます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳入力、タイム シートなどの当初伝票を識別する番号です。入力ページでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、自動採番プログラムによって自動的に割り当てることもできます。
伝票タイプ	<p>取引のソースおよび目的を表すユーザー定義コード 00/DT の値 (2 文字) です。伝票、請求書、仕訳入力、タイム シートなどがあります。EnterpriseOne では、伝票タイプに以下のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛伝票</p> <p>R: 売掛伝票</p> <p>T: 時間/給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買伝票</p> <p>S: 受注伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、レコードなどがアクティブになる日付です。このフィールドは、プログラムによって意味が変わります。たとえば、以下のような日付を表すことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 住所変更が有効になる日付• 賃貸契約が有効になる日付• 価格が有効になる日付• 為替換算レートが有効になる日付

- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳の期間、年度を表す番号です。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社固定情報プログラム (P0010) で定義された現在の会計期間と会計年度が自動的に使用されます。

元帳日付

取引の転記先の会計期間を示すための日付です。取引に対してこの日付が入力されると、その会社に割り当てられている会計期間パターンと比較して、適切な会計期間および会計年度が抽出されます。日付の検証も併せて行われます。

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 – まえがき

この章では、以下の内容について説明します。

- 対象の製品
- アプリケーションの基礎
- この PeopleBook で使用する共通フィールド

対象の製品

この PeopleBook には、以下の製品についての情報も記載されています。

- JD Edwards EnterpriseOne 調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理

アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、この PeopleBook の姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 8.11 SP 1 PeopleBook』に記載されています。

この PeopleBook で使用する共通フィールド

調整制御コード

調整に関する追加の処理機能を指定するコードを選択します。

[印刷しない] を選択すると、調整金額は請求書または購買オーダーに印刷されません。調整金額は単価に加算されます。

[印刷する] を選択すると、調整金額は請求書または購買オーダーに印刷されます。調整金額は単価に加算されます。

[受注明細に追加する] を選択すると、F4211 テーブルが調整明細行情報で更新されます。現行の正味価格の計算には、このタイプの調整は含まれません。このコードはオーダー レベルの調整でのみ使用します。

[総勘定元帳に見越入力を作成する] を選択すると、見越し調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、F4074 テーブルが更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

[リベート] を選択すると、リベート調整が作成されます。F4078 テーブルがオーダー明細行の数量、重量、金額で更新されます。

[請求書への印刷] を選択すると、調整金額はオーダー合計に加算されますが、単価には含まれません。売上更新プロセスの実行時に、この調整に対して個別の総勘定元帳および売掛金の仕訳が転記されます。

[仕入先販売証明] を選択すると、仕入先販売証明のリベート調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、F4078 テーブルがオーダー明細行の数量、重量、および金額で更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

[丸め調整] を選択すると、価格調整明細の改訂プログラム (P4072) で設定した丸め規則に基づいて、丸め調整が作成されます。調整金額は単価に加算されます。

調整レベル

どのレベルで価格調整を計算するかを指定します。

行レベルを選択すると、受注明細行の情報に基づいて調整が計算されます。

バスケットレベルを選択すると、バスケット価格設定グループとして指定した全ての受注明細行を累計した情報に基づいて、調整が計算されます。バスケット価格再設定グループは、事業所品目プログラム (P41026) に含まれる [品目/事業所情報] フォームの [追加情報] タブで定義します。バスケットレベルまたはオーダーレベルの調整を定義する場合は、品目グループとオーダー明細グループの各フィールドはブランクにしておきます。

オーダーレベルを選択すると、オーダー価格設定グループとして指定した全ての受注明細行を累計した情報に基づいて、調整が計算されます。オーダー価格再設定グループは、事業所品目プログラムに含まれる [品目/事業所情報] フォームの [追加情報] タブで定義します。バスケットレベルまたはオーダーレベルの調整を定義する場合は、品目グループとオーダー明細グループの各フィールドはブランクにしておきます。

数量レベルを選択すると、複数の受注オーダーの累計値に基づいて調整が計算されます。累計値は、価格調整タイプ プログラム (P4071) で定義した調整方法に基づきます。

契約管理システムを使用している場合は、契約ペナルティスケジュールを処理するために、行レベルを選択して受注明細行レベルでペナルティを計算する必要があります。

調整名

調整定義を識別するユーザー定義コード (40/TY) の値を入力します。価格調整名で調整を定義します。

契約ペナルティスケジュールについては、4 タイプの各ペナルティに定義を追加します。

最小数量

最大数量

過少引当

過剰引当

基準コード

調整またはペナルティスケジュールの計算で係数値がどのように使用されるかを指定します。[基準コード] フィールドは、[係数] フィールドと連動しています。有効値は以下のとおりです。

- 1: 基本価格に係数が掛けられます。調整価格は、基本価格の一定の割合となります。
- 2: 現行の正味価格に係数が掛けられます。調整価格は、現行正味価格の一定の割合となります。
- 3: 品目原価に係数が掛けられます。調整価格は、品目原価の一定の割合となります。この基準コードは、バスケット レベルまたはオーダー レベルの調整には使用できません。
- 4: 品目原価に係数が加算されます。この基準コードは、バスケット レベルまたはオーダー レベルの調整には使用できません。

注: 基準コードの 3 または 4 を使用する場合は、価格調整明細フォームの詳細グリッドの [原価計算方法] フィールドに計算に使用する品目原価を指定します。

- 5: 価格が係数で調整されます。係数値がプラスの場合、その金額が価格に加算され、マイナスの場合はその金額が価格から減算されます。
- 6: 変動テーブルの調整金額が使用されます。[係数] フィールドに変動テーブルを指定します。
- 7: 計算式によって調整が計算されます。[係数] フィールドに計算式の名称を指定します。
- 8: カスタム プログラム (ユーザー定義のプログラム) によって調整が計算されます。[オブジェクト ライブラリ] フィールドにプログラム ID を指定します。

注: カスタム プログラムを使用する調整を定義する場合、そのプログラムは調整用に開発されたプログラムであり、ユーザーによるサポートを前提としている必要があります。当社では、カスタム プログラムの提供およびユーザーが開発したプログラムのサポートは行っておりません。

- 9: 単価の粗利益が係数と等しくなるように調整が計算されます。この基準コードは、バスケット レベル調整、オーダー レベル調整、または通過通減には使用できません。

契約ペナルティ スケジュールでは、全てのペナルティ スケジュールに 5 を指定してください。

受取先住所

リポート請求の生成時に使用される住所録番号を入力します。販売リポートの場合、受取先住所は、リポートが支払われる顧客を指定します。購買リポートまたは仕入先販売証明リポートの場合、受取先住所は、リポートを回収する仕入先を指定します。

購買構造と階層別リポートの直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を指定します。

顧客グループ

顧客グループを識別するユーザー定義コード (40/PC) の値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化することができます。

顧客No.

住所録で、従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、ロケーションなどの項目を識別する番号を入力します。

顧客価格グループ	顧客グループを識別するユーザー定義コード (40/PC) の値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化することができます。
有効終了日付	トランザクション、テキスト メッセージ、契約、制約、優先情報が失効または完了する日付を入力します。
係数	<p>オーダー行の調整方法を指定するコードを入力します。このフィールドの値は、[基準コード] フィールドの値と連動します。[基準コード] フィールドの定義内容によって、このフィールドに数字またはコードのどちらを入力するかが決まります。</p> <p>バスケット マスター プログラムで指定したバスケット集計規則とバスケット価格設定規則に応じて、このフィールドの情報を更新できます。拡張バスケットの品目に例外情報を入力しない場合は、標準バスケットの再価格設定が適用されます。</p> <p>基準コード別の入力方法は、以下のとおりです。</p> <p>1 - 5: 割増の場合はプラスの数値を入力します。たとえば、10 と入力します。割引の場合は、マイナスの数値を入力します。たとえば、10- と入力します。</p> <p>6: 変動テーブルに基づいて調整が行われます。[計算式コード] カラムに変動テーブルを識別するコードを入力します。</p> <p>7: 計算式によって価格が計算されます。[計算式コード] カラムに計算式を識別するコードを入力します。</p> <p>8: カスタム プログラムを使用して調整を計算します。[計算式コード] カラムにプログラム ID を入力します。</p> <p>9: 粗利益が係数と等しくなるように調整が計算されます。</p>
開始レベル	<p>調整または優先情報が適用される値を指定します。値は、レベル分岐の定義方法に応じて、数量、重量、金額のいずれかで指定します。</p> <p>通過逡減以外の場合は、値がレベル分岐の値と等しくなったときに調整が適用されます。たとえば、値が 10 の場合、10 またはそれ以上の数量がオーダーされたときに調整が適用されます。</p> <p>通過逡減の場合、レベル分岐の値を超えた数量がオーダーされたときに調整が適用されます。たとえば、値が 10 の場合、11 またはそれ以上の数量がオーダーされたときに調整が適用されます。</p>
係数単位	価格調整の係数と関連付けられる単位を指定するユーザー定義コード (00/UM) の値を入力します。この値は、整数の金額単位の調整のみに有効です。たとえば、レベル分岐を 10 ダースとし、1 EA あたり 1 USD 割引く調整を定義できます。
品目 No.	品目に割り当てられた番号を入力します。書式には、略式、明細、第 3 品目番号があります。
品目グループ	<p>品目の在庫価格グループを識別するユーザー定義コード (40/PI) の値を入力します。</p> <p>在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、オーダーされた品目の数量、金額、または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。</p>

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。

品目価格グループ

品目の在庫価格グループを識別するユーザー定義コード (40/PI) の値を入力します。

在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、オーダーされた品目の数量、金額、または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。

オーダー明細グループ

受注明細グループを識別するユーザー定義コード (40/SD) の値を入力します。受注明細グループを使用して、F4211 テーブルのフィールドに基づく価格設定を作成します。

このフィールドにコードを入力すると、オーダー明細グループの条件に一致する明細を持つオーダーにのみこの調整が使用されます。

契約ペナルティ スケジュールについては、ペナルティのユーザー定義コードが設定済みであり、オーダー明細グループとして定義されている必要があります。ペナルティ、またはペナルティ スケジュールを定義する適切なユーザー定義コードを入力します。

優先階層

優先タイプまたは価格調整階層を識別するユーザー定義コード (40/PR) の値を入力します。

価格階層を定義する際は、このコードで各テーブルを識別します。

その後、調整を作成する際、このコードを使用して、その調整に適用する階層を指定します。

優先タイプ

優先タイプまたは価格調整階層を識別するユーザー定義コード (40/PR) の値を指定します。

ユーザー定義コード (40/PR) では、特殊取扱コード フィールドの値 "1" は、システムでサポートされている優先情報であることを示します。各優先情報のこのフィールドは、ハードコードされています。

契約ペナルティ スケジュールについては、初めにペナルティ (PN) のユーザー定義コードを設定してください。次に、設定したコードをこのフィールドに入力します。

価格表グループ

価格表の価格調整グループを識別するコードを入力します。たとえば、価格調整を、割引、プロモーション、税、運送費などのカテゴリ別にグループ化することができます。価格表の設定では、価格表に表示するカラムを定義できます。価格表のカラム パターン フォームで、各ユーザー定義カラムに表示する価格表グループ名を指定できます。

価格グループ

品目の在庫価格グループを識別するユーザー定義コード (40/PI) の値を入力します。

在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、オーダーされた品目の数量、金額、または重

量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。

販促表示制御

請求書または購買オーダーに、調整の販促 ID を印刷するかどうかを指定します。

販促 ID

各販促活動の収益、原価、経費を追跡する ID 番号を入力します。

販促状況

販促 ID に関連付けられるユーザー定義の値を入力します。販促状況コードは、販促状況管理アプリケーションで管理されます。

順序 No.

価格調整を処理する順番を入力します。

このフィールドの値は、価格調整が処理される順番を示しています。順序 No. の値の間隔を空けて各番号を指定すると、後から価格調整スケジュール内に調整を追加できます。

補助元帳

調整タイプを使用して受注オーダーの価格設定を行うときに、F0911 テーブルの補助元帳フィールドの更新に使用される情報タイプを識別するユーザー定義コード (40/SI) を入力します。

規定値計量単位

CS (ケース)、BX (箱) など、在庫品目の数量単位を示すユーザー定義コード (00/UM) の値を入力します。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 – はじめに

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、以下の内容について説明します。

- 価格管理の概要
- 価格管理のビジネス プロセス
- 価格管理のインテグレーション
- 価格管理の導入

価格管理の概要

価格設定は、おそらく、業務において最も複雑な要素の 1 つであり、価格設定情報の計画、設定、および管理には相当の時間を要する場合があります。価格管理システムの設定は簡単であり、最小限の保守作業でシステムを管理することができます。価格管理を使用して、調達管理、受注管理、サービス管理、およびケース管理の各システムの価格設定を管理することができます。

販売組織において、価格管理の高度な価格設定機能が必要ではない場合は、受注管理の標準の価格調整モジュール（基本価格設定）を使用します。

価格管理を使用して、個別の販売促進や取引の価格を調整し、調整を価格構造（スケジュール）に組み込むことができます。同じスケジュール内で、価格調整を必要な数（無制限）だけ定義し、通常の割引と販売促進を組み合わせたことができます。無償品カタログの表示を設定して品目の販売促進を実施し、リポートを使用して、顧客がより大量の商品やサービスを購入するように仕向けます。

価格管理では、顧客と品目をグループ化することによって、さまざまな市場部門と製品ラインを関連付けることができます。したがって、品目別や顧客別に調整を定義する必要はありません。価格グループは、顧客別、品目別、顧客グループ別、または品目グループ別に定義できます。また、販売先、出荷先、親住所によって顧客を識別することができます。購買構造を使用して、顧客の価格設定の管理とカスタマイズを組織レベルに基づいて行います。

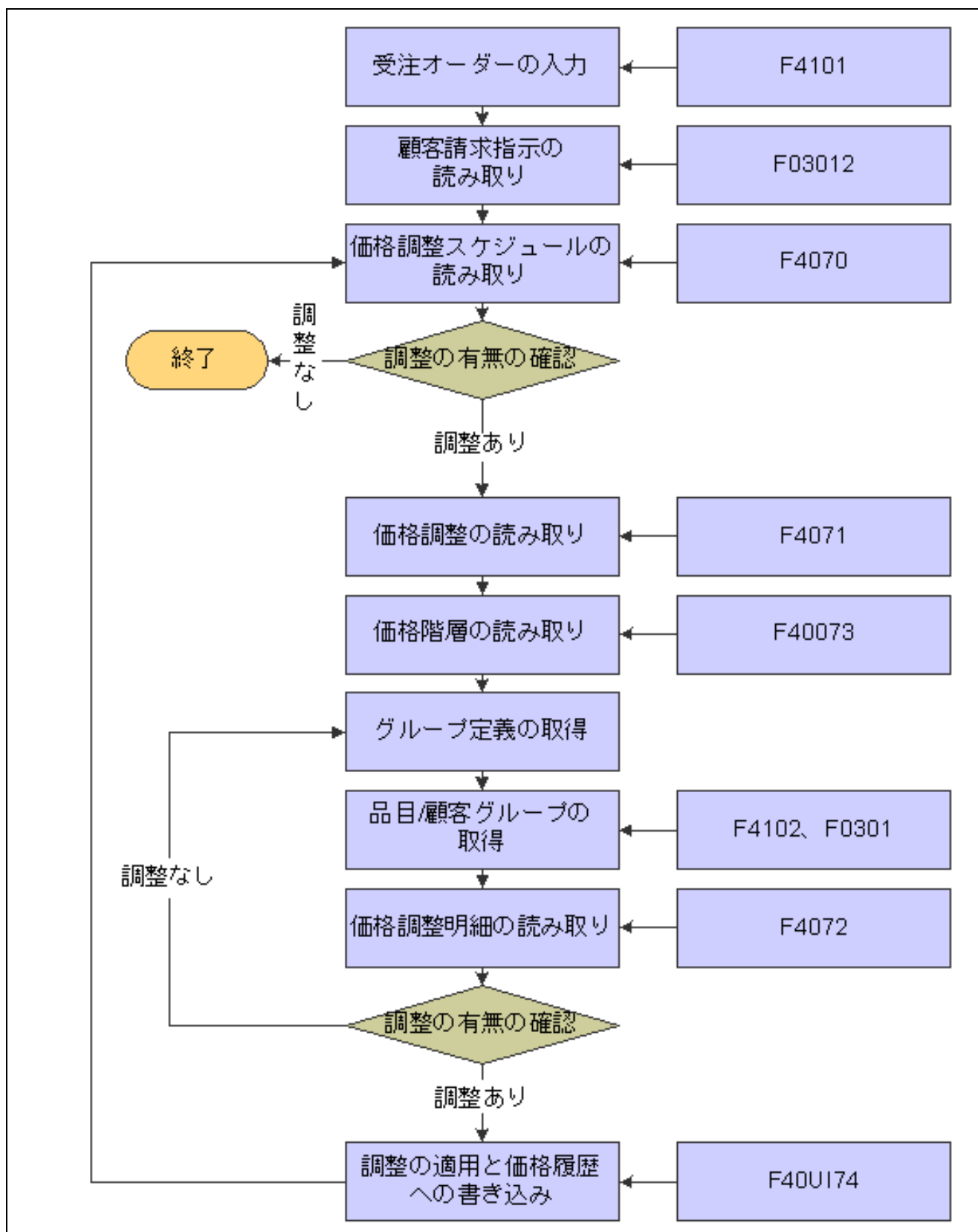
価格設定ワークベンチでは、1 つのフォーム上に全ての価格設定シナリオを表示できます。これによって、指定した顧客や各種のシナリオに関する全ての価格設定関連情報を確認できるため、何度も顧客検索を実行する必要がなくなります。

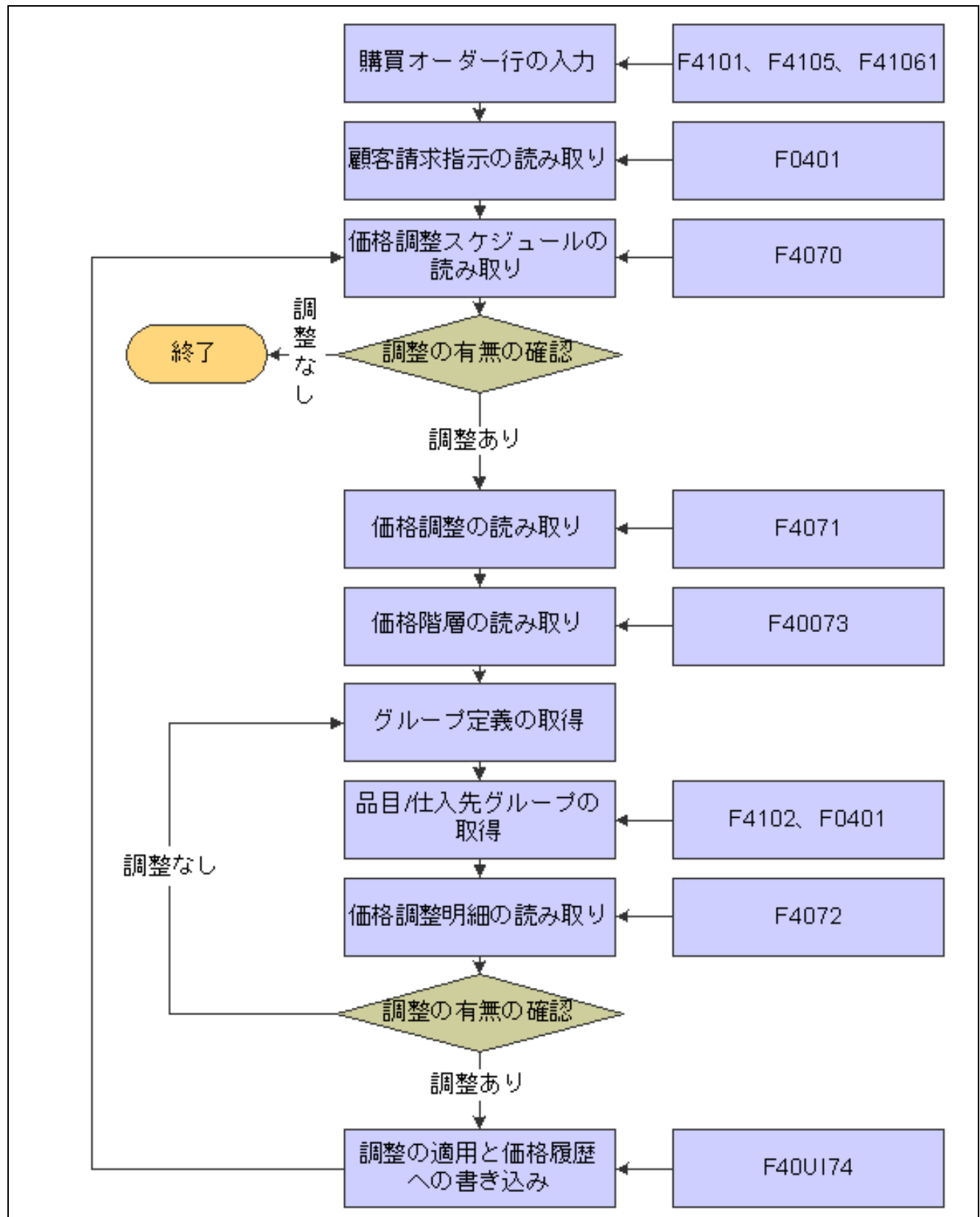
調達管理システムにおける価格管理では、行品目別に調整を処理できます。また、階層型の検索順序を作成できます。受注管理と同様に、価格管理を使用して無償品とリポートの設定とトラッキングを行うことができます。調整履歴をオンラインで確認することも可能です。

この PeopleBook では、調達管理および受注管理と連動する価格管理の、設定と導入に関する各機能について説明します。サービス管理とケース管理の上級価格設定に関する情報は、PeopleSoft EnterpriseOne Service Management 8.11 SP 1 PeopleBook と PeopleSoft CRM Support Applications 8.11 SP 1 PeopleBook に記載されています。

価格管理のビジネス プロセス

次の図は、受注管理と調達管理における価格管理のビジネス プロセスの流れを示しています。





調達管理の価格管理プロセス フロー

これらのビジネス プロセスについては、この PeopleBook の各ビジネス プロセスの章で説明します。

価格管理のインテグレーション

価格管理システムは、以下の JD Edwards EnterpriseOne システムと統合されます。

- 買掛管理
- 売掛管理
- 在庫管理
- 受注管理
- 調達管理
- サービス管理
- ケース管理
- 一般会計

インテグレーションに関する考慮事項については、この PeopleBook の導入に関する章で説明します。サードパーティ アプリケーションとのインテグレーションに関する補足情報については、PeopleSoft Customer Connection Web サイトを参照してください。

買掛管理

仕入先マスターに仕入先レコードを設定します。調整スケジュールや仕入先グループなどの仕入先情報が価格設定デフォルトとして使用されます。買掛管理システムでは、リベートと承認済みシップ アンド デビット請求情報のトラッキングと計算が行われます。

売掛管理

顧客マスターに顧客レコードを設定し、顧客別または顧客グループ別に価格グループを定義します。顧客請求指示では、価格設定デフォルトとして使用される調整スケジュールや顧客グループなどの顧客情報を設定します。売掛管理システムでは、リベートと価格設定情報のトラッキングが行われます。また、顧客への請求書に調整情報を印刷するようにシステムを設定できます。

在庫管理

品目と、販売および購入価格レベルを在庫管理システムで設定し、品目別または品目グループ別に価格グループを定義します。カテゴリ コードを使用して、品目グループを作成し、全事業所を対象に全品目の標準計量単位を設定し、指定した価格設定計量単位への変換を行うことができます。在庫管理システムでは、基本価格と価格調整の検索に複数の計量単位を指定できます。

受注管理

受注オーダーの処理時には、最初に品目の基本価格が検証され、次に標準価格調整の処理が省略され、価格管理による特定のスケジュールおよび調整のオーダーへの適用が行われます。

調達管理

購買オーダーの処理時には、最初に品目の単位原価が検証され、次に標準価格調整の処理が省略され、価格管理による特定のスケジュールおよび調整のオーダーへの適用が行われます。

サービス管理

価格管理階層を設定して、契約と作業オーダーに適用することができます。作業オーダーの処理時には、請求処理のために作業オーダーに適用する調整の計算に階層が使用されます。

ケース管理

価格管理階層を設定して、ケースに適用することができます。ケースの処理時には、請求処理のためにケースに適用する調整の計算に階層が使用されます。

一般会計

自動仕訳 (AAI) には、仕訳を自動作成するために使用されるルールが含まれています。AAI によって、価格調整を一般会計システムに仕訳する方法が指定されます。

価格管理の導入

このセクションでは、価格管理システムを導入するために必要な手順の概要について説明します。

導入の計画段階では、インストール ガイドやトラブルシューティング情報など、提供されているさまざまな情報を活用してください。これらのリソースの一覧は、『この PeopleBook について』のまえがきに、各リソースの最新バージョンの入手方法と共に掲載されています。

グローバル導入ステップ

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理のグローバル導入の推奨手順を示しています。

手順	参照
1. グローバル ユーザー定義コード (UDC) の設定	PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95: Foundation PeopleBook
2. 会社、会計期間パターン、およびビジネスユニットの設定	
3. 自動採番の設定	PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95: Foundation PeopleBook
4. 勘定科目と勘定科目表の設定	
5. 一般会計固定情報の設定	
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理の設定	
7. 元帳タイプ規則の設定	
8. 住所録レコードの入力	
9. 事業所固定情報、デフォルト事業所およびプリンタ、製造および流通 AAI、伝票タイプなどの在庫情報の設定	
10. 製造現場カレンダーの設定	
11. オーダー処理順序定義の設定	

アプリケーション別導入ステップ

次の表は、価格管理システムの導入に必要な手順を示しています。

手順	参照
1. システムおよび価格管理固定情報の設定	第 3 章、「JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定」、15 ページ
2. AAI の設定	第 3 章、「JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定」、15 ページ

(BRA) Application-Specific Implementation Steps

This table lists the additional required implementation step for the Advanced Pricing system for Brazil:

手順	参照
1. Set up the Adjustment/Preference Name (UDC 40/TY) and associate codes to special handling codes (UDC 76/CN).	第 3 章、「JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定」、15 ページ

調達管理用の導入ステップ

次の表は、調達管理における価格管理システムの導入に必要な手順を示しています。

手順	参照
1. オーダー行タイプの設定	
2. 仕入先および品目情報の設定	
3. 仕入先価格の定義	
4. (省略可)仕入先リベート契約の定義	
5. (省略可)陸揚費用の設定	

受注管理用の導入ステップ

次の表は、受注管理における価格管理システムの導入に必要な手順を示しています。

手順	参照
1. 顧客レコードの設定	
2. 品目および価格情報の設定	
3. 顧客請求指示の定義	
4. オーダー行タイプの設定	
5. (省略可)コミッションの設定	

第 2 章

価格管理について

この章では、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の概要と、以下の内容について説明します。

- 価格管理の機能
- 調達管理における価格管理

価格管理

変動する市況に対応して、価格設定戦略の改良や変更を迅速かつ効果的に行う能力は、市場における優位性の 1 つです。反応が遅い企業は、競合他社に無償で利益を譲ってしまうことになります。変化する価格設定の条件に企業が即応するには、柔軟な価格調整システムが必要です。

柔軟な価格設定システムの導入には、以下のような利点が伴います。

- 市場部門と製品特性に基づく正確な価格設定によって、収益性と競争力が向上します。
- 販売組織やマーケティング組織は、さまざまな市場部門をターゲットとして価格設定戦略を自由に作成できます。
- 競合他社の価格設定戦略や市況に対して、迅速かつ効果的に反応できます。

JD Edwards システムでは、以下の 2 つの価格調整ソリューションのいずれかを使用して、基本価格設定を調整することができます。

- 受注管理に含まれる標準の価格調整アプリケーション（基本価格設定）

価格設定において、価格管理によって提供される機能が必要ではない場合は、標準の価格調整を使用します。

- 基本価格構造と統合する価格管理

価格管理の機能

価格設定は、おそらく、業務において最も複雑な要素の 1 つであるため、価格設定情報の計画、設定、および管理には相当の時間を要する場合があります。価格管理によって、価格設定のためのシステム設定と管理を能率化できます。価格管理システムの設定は簡単であり、最小限の保守作業でシステムを管理することができます。

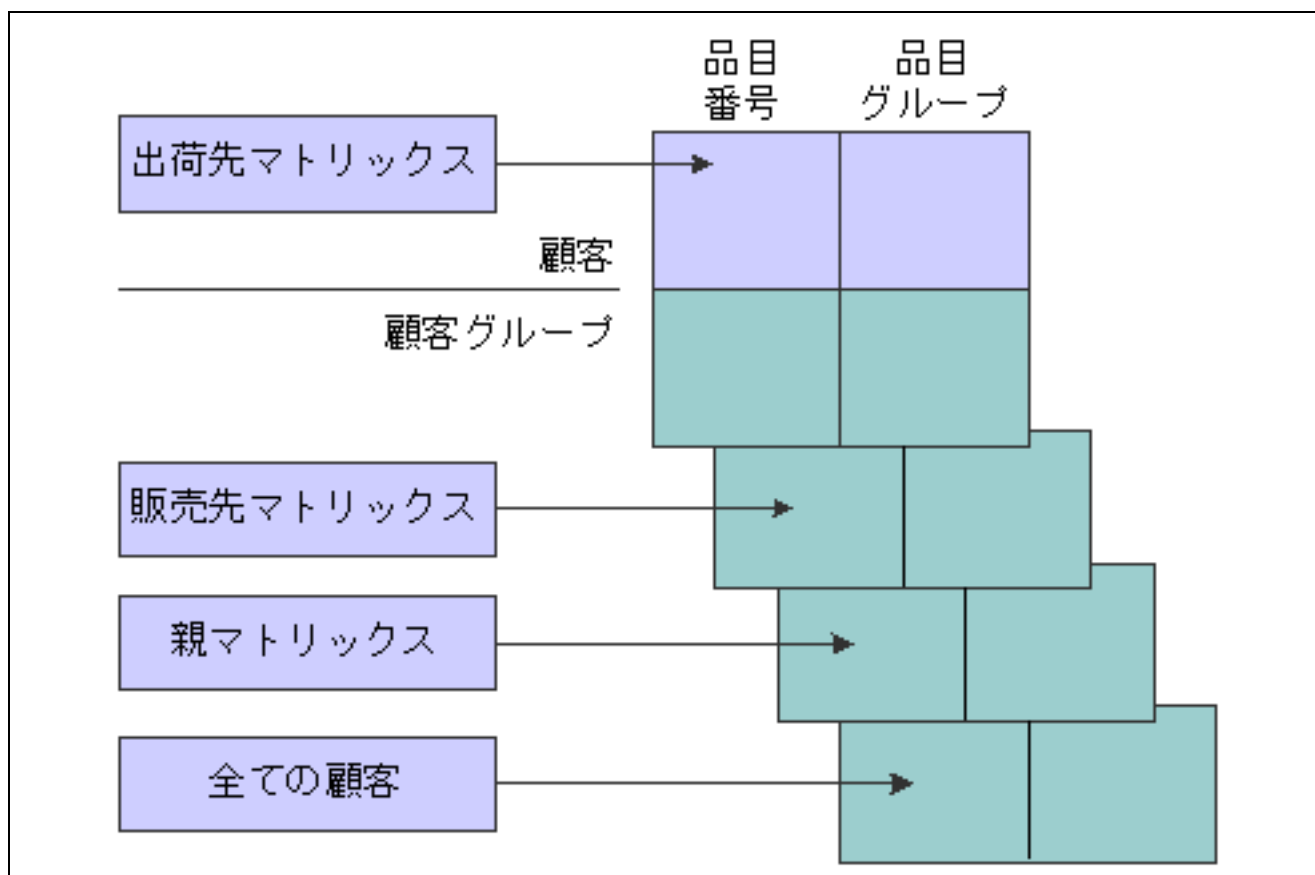
価格管理を使用すると、価格設定を柔軟に定義できます。個別の販売促進や取引の価格を簡単に調整し、調整を価格構造やスケジュールに組み込むことができます。各スケジュール内で定義できる調整の数に制限はありません。また、同じスケジュール内で通常の割引と販売促進を組み合わせることができるため、各受注オーダー行に対して複数の調整を適用できます。

顧客および品目グループ

顧客や品目のグループ化によって、広範な市場部門と製品ラインに対応することができます。顧客および品目のグループを使用すると、品目や顧客ごとに調整情報を設定する必要がなくなります。

価格管理によって、価格グループのより柔軟な処理が可能になります。個別の品目や顧客、または、グループ化した品目や顧客の調整を作成できます。顧客は、販売先、出荷先、または親住所によって識別されます。

次の図は、受注管理に含まれる基本価格設定と、価格管理の価格設定機能の相違を示しています。



基本価格マトリックスと価格管理マトリックスの比較

価格設定ワークベンチ

価格設定ワークベンチ プログラム (P45501) を使用すると、価格設定に関するさまざまな情報を単一のフォームで表示できます。価格設定に関する全てのシナリオと状況を特定できるため、価格設定構造の管理が簡素化され、顧客を照会する回数が削減されます。

レコードの照会のためのフィルタを作成すると、[価格調整の一括改訂] フォームを使用して、複数の価格調整レコードをまとめて更新したり、既存のレコードの変更やコピーによってレコードを新規作成できます。

顧客別価格表

価格管理情報に基づいて顧客別価格表の作成と管理を行い、それらを顧客に転送することができます。

調整の見越し

調整をオーダー行に適用する代わりに、その調整額の見越しを行うようにシステムを設定できます。この処理は、以下の金額を対象に行うことができます。

- 広告割引と共同割引
- コミッション
- 製品または顧客に基づくロイヤリティ

価格調整の各タイプ

調整を利用して、価格設定スケジュールを柔軟に定義できます。以下の情報に基づいて価格を調整できます。

- 基本価格の指定した割合
- 現行正味価格の一定の割合
- 原価金額の一定の割合
- 特定の金額
- 単独の受注オーダー一行に対して複数の割引を設定する際に使用する通過通減
通過通減は、数量、重量、または金額に基づきます。

- 数式

たとえば、受注オーダー明細の 1 つのフィールドを参照する数式を作成できます。また、価格が頻繁に変動する品目の価格設定を作成する必要がある場合は、変数テーブルからデータを取得する数式を作成できます。

- 一時変更価格

一時変更調整に定義した価格で基本価格を置き換える調整を作成して、価格を上書きすることができます。単価の計算に適用する丸め規則を指定し、その規則を調整に添付することも可能です。

- 会社独自のカスタム プログラム

調整用の価格表グループを指定できます。価格調整をグループ化し、割引、プロモーション、税、運送費を表すカテゴリにまとめることができます。

期限付き価格

各調整に対して、有効開始日付と有効終了日付を定義できます。たとえば、5 月の販売促進のための価格調整を設定するには、有効日付の範囲を 5 月 1 日から 5 月 31 日に定義します。

多通貨価格設定

価格設定とその管理を通貨別に行うことができます。複数の通貨で販売が行われる場合は、受注オーダーの通貨に基づいて、F4106 テーブルから通貨情報が取得され、価格管理システムの調整情報が取得されます。オーダーの通貨での価格調整が見つからない場合は、基本通貨が使用されます。

複数計量単位

在庫管理に含まれる計量単位換算 - 品目プログラム (P41002) を使用して、基本価格と調整の特定に使用する計量単位を複数指定できます。たとえば、検索時に使用する最初の計量単位にパレットを指定できます。検索結果が 0 件の場合は、2 次計量単位としてケースを指定でき、次に箱を指定できます。

規定値の規則を使用して、顧客が購入する金額に基づいて調整を設定することも可能です。複数計量単位を使用すると、定義済みの計量単位のレベル区切りとは異なる計量単位に基づく調整係数値を適用できます。

扱い高基準

扱い高基準を使用すると、製品または製品グループのオーダー入力時に割引価格を提供できます。この割引は、特定の顧客が長期にわたって複数回発注した製品のオーダー量に基づきます。割引の基準には、金額、パーセンテージ、または再調達価格を指定できます。扱い高基準調整は、単一レート価格調整または通過逡減価格設定のいずれかに基づいて設定できます。

扱い高アップセル

大量購入による値引きを顧客に提案する場合は、調整と、オーダー行がアップセル通知の条件を満たしていることを通知するタイミングを決定する基準値（パーセンテージ）を指定できます。

無償品

無償品とは、通常、製品の販売促進や展示を補助するために使用したり、オーダーされた製品に添付する販促物を指しています。たとえば、展示用ケース類、ポスター類、注目度を高めるために使用するその他の販促物などの製品を無償品に指定できます。

調整を定義する際に、無償品が適用される方法を定義します。無償品に対しては、どの調整でも関連付けることができます。また、1 つの無償品カタログに複数の無償品を定義できます。無償品カタログによって、顧客は、オーダーが基準を満たした場合に提供される無償品を選択できます。

レベル分岐

オーダーの数量、重量、または合計価格に基づく値引きによって、大量に商品を購入した顧客を優遇できます。調整タイプを定義する際には、使用するレベル分岐タイプを指定します。

購買構造

購買構造を使用して、顧客の価格設定の管理とカスタマイズを顧客の組織構造に基づいて行います。購買構造によって、顧客に適用する調整とリベートのカスタマイズが可能になります。

見越し

自動仕訳 (AAI) を使用して、ロイヤリティ、コミッション、およびリベートの負債勘定を設定することができます。見越しによってオーダーの価格が変更されることはありませんが、売上更新プログラム (R42800) を使用すると、適正な支出および負債の仕訳入力を作成されます。

リベート

顧客が物品やサービスをより大量に購入するように仕向けるために、リベートが使用されます。複数のオーダーの合計金額、合計数量、または合計重量に基づいてリベートを計算できます。リベートの規定値を定義して、クレジット オーダーの作成のためのルールを設定することができます。ターゲットの顧客または顧客グループに対し、製品の売上に基づいて、適切な仕入先販売証明リベートを作成できます。

柔軟な請求書印刷の詳細設定

調整情報を請求書に印刷するかどうかを指定する調整タイプ定義です。

価格再設定調整

1 つのオーダーの数量、重量、または金額を累計し、その合計数量、合計重量または合計金額に基づいて割引を適用することができます。

オンライン価格交渉

顧客のオーダーを受ける際に、価格交渉を行い、結果を検討できます。顧客との合意に達するまで、価格計算を変更することができます。価格の変更に従って利益率が自動的に計算されるため、規定済みのガイドラインの範囲内で取引が行われていることを確認できます。

価格承認

価格の作成や変更を行う必要がある場合には、承認を得るために新規価格または変更した価格を自動的に送信するプロセスを設定できます。価格承認の処理はワークフロー管理によって行われます。

シップ アンド デビット契約処理

電子産業の市場の価格変動に基づく契約を流通業者と結ぶサプライヤは、シップ アンド デビット処理の機能を使用して、契約の定義、調整および処理を行い、契約に従って発生する請求を管理できます。価格管理では、シップ アンド デビット機能を使用できます。

調達管理における価格管理

価格管理は、製品の単純な販売促進から複雑な顧客取引まで、多様な価格設定戦略に対応できるように設計されています。価格管理の機能を調達管理に統合することで、仕入先から提供される価格分岐について、より詳細な情報を得ることができるようになります。また、レートと調整の詳細を管理できます。

調達管理に統合される価格管理の機能は、以下のとおりです。

- 各行品目への複数の調整の適用
- 調整機能の詳細定義
- 階層型の調整検索順序
- オーダー個別の価格設定特性
- 無償品処理
- 調整履歴のオンライン検討

購買オーダーに関する特定の操作が必要なセクションは、“調達管理における価格管理の使い方” という見出しで特定することができます。

第 3 章

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、設定要件の概要と以下の方法について説明します。

- 価格管理の固定情報の設定
- 価格管理の自動仕訳 (AAI) の設定
- (BRA) Set up Advanced Pricing for Repasse

設定要件について

会社のニーズに応じて価格管理を設定できます。価格管理と受注管理のインテグレーションによって、効率性と正確性が向上します。

次の表は、価格管理の設定機能の概要を示しています。

機能	説明
システム固定情報	固定情報により、システムに対して以下のように情報が供給されます。 <ul style="list-style-type: none">• システム固定情報によって、システム全体のデフォルト情報が決まります。• 価格管理固定情報によって、価格設定情報が決まります。• バッチ制御固定情報(アプリケーション固定情報)によって、アプリケーションに管理者承認とバッチ制御が必要かどうかが決まります。• 事業所固定情報によって、事業所内の日次トランザクションが制御されます。• 保管場所フォーマットによって、事業所での品目保管場所を識別する方法が決まります。• 品目引当可能数量によって、各事業所にある品目数量の計算方法が決まります。
AAI (自動仕訳)	AAI によって、会計情報と総勘定元帳との関係情報が受注管理システムに提供され、一般会計システムとの連携が可能になります。
Brazilian Price Adjustment Codes	Advanced Pricing is integrated with the Brazil Sales Order Tax Calculator to compute calculations such as trade, pricing rule, ICMS (Imposto Sobre Circulação de Mercadorias e Serviços) repassed discounts, and free port zone discounts.

在庫管理、調達管理、受注管理、一般会計など、他のシステムで以下の価格管理機能を設定する必要があります。

機能	説明
住所録の改訂	顧客グループの作成に使用するカテゴリコードを入力できます。
品目マスター	販売および購入のレベルを定義できます。品目レベル、事業所、または事業所内の保管場所で、受注オーダーの価格を定義できます。 購買オーダーでは、購買価格レベルを使用して、F4105 テーブルと F41061 テーブルのどちらから単位原価を取得するかが識別されます。
事業所品目情報	品目グループの作成に使用するカテゴリコードを入力できます。
顧客請求指示	価格設定デフォルトとして使用される調整スケジュールや顧客グループなどの顧客情報を設定できます。
仕入先指示	価格設定デフォルトとして使用される調整スケジュールや仕入先グループなどの仕入先情報を設定できます。
陸揚費用	陸揚費用を設定して、配送料金や仲介業者の手数料など、品目の仕入価格以外の原価を指定できます。
標準計量単位	全事業所の全品目を対象に標準計量単位を設定し、指定した価格設定の計量単位に換算することができます。

価格管理の固定情報の設定

このセクションでは、価格管理の固定情報の概要と、以下の設定方法について説明します。

- システム固定情報
- 価格管理固定情報

価格管理の固定情報について

実行する機能を指定するには、システム固定情報を設定します。たとえば、複数の事業所があり、各事業所の品目で異なる計量単位が使用されている場合、システム固定情報を設定して、事業所ごとに計量単位の自動変換を行うことができます。システム固定情報は全ての事業所に適用されます。事業所ごとにシステム固定情報を変更することはできません。

価格管理では、受注オーダーと購買オーダーの価格調整の取得方法をシステム固定情報に定義します。基本価格と調整の設定時には、さまざまな計量単位や有効日付範囲を使用できます。トランザクション計量単位、購買計量単位、または基本計量単位のいずれかに基づいて、購買明細行の計量単位が取得されます。また、オーダー処理における特定の日付に基づいて価格を取得することも可能です。たとえば、品目が出荷された日付とオーダーが入力された日付で、販売価格を比較することができます。

注: 調達管理と連携して価格管理を使用する場合は、[システム固定情報] の [販売価格基準日] を使用して、購買オーダーの有効な基本価格または調整を取得するために使用される日付を指定することができます。システム日付、オーダー（トランザクション）日付、要求日付、または品目の受領日を価格の基準日に指定できます。調達管理では、出荷日付とは、実際には商品を受け取った日付（入荷日付）を意味します。請求日付のオプションは使用できません。

価格管理固定情報を使用して、受注管理、調達管理、または両方で価格管理を使用するかどうかを制御します。また、受注オーダーや購買オーダーの調整の価格の計算式に、特殊文字を割り当てることも可能です。価格の承認を必須にするかどうかも指定できます。

システム固定情報と同様に、価格管理固定情報は全ての事業所に適用されます。事業所ごとに設定を変更することはできません。

価格管理の固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[システム固定情報]	W41001F	[受注管理システム・セットアップ] (G4241)、[事業所固定情報] [事業所固定情報の処理] フォームで、[フォーム] メニューの [システム固定情報] を選択します。	システム固定情報の設定と確認を行います。
[価格管理固定情報]	W41001D	[事業所固定情報の処理] フォームで、[フォーム] メニューの [価格管理固定情報] を選択します。	価格管理固定情報の設定と確認を行います。

システム固定情報の設定

[システム固定情報] フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - システム固定情報	
OK(O) キャンセル(L) ツール(T)	
<input type="checkbox"/> 事業所別に計量単位を換算する <input checked="" type="checkbox"/> 平均原価のリアルタイム更新 <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー/化学システムの使用 <input checked="" type="checkbox"/> インターネットPPATメッセージ使用 <input type="checkbox"/> 科学計算法 <input checked="" type="checkbox"/> 顧客セットの使用 <input checked="" type="checkbox"/> 出荷日付規則(昇順)	
重複ロットの許可	3
販売価格の計算に使用する計量単位	2
購買価格の計算に使用する計量単位	
販売価格基準日	4
購買レポートのカテゴリ・コード	
優先スケジュール	DMDSCH
優先調整の計算に使用する計量単位	

[システム固定情報] フォーム

[販売価格の計算に使用する計量単位]

受注オーダー処理、サービス/保証管理、およびシップ アンド デビット処理で基本価格と価格調整の取得に使用する計量単位を指定するユーザー定義コード (UDC) 40/SU を入力します。さまざまな計量単位を使用して、基本価格を F4106 テーブルに定義し、価格調整を F4072 テーブルに定義することができます。

指定した計量単位で基本価格や価格調整が見つからない場合は、その品目の基本計量単位が使用されます。

[販売価格基準日]

F4201 テーブルと F4211 テーブルの価格有効日付の更新方法を表す値を入力します。受注管理システムでは、価格有効日付を使用して F4201 テーブルから基本価格を取得し、F4211 テーブルから価格調整を取得します。

[購買価格の計算に使用する計量単位]

UDC 40/PU の値を入力して、購買オーダーの処理時に F41061 テーブルから取得される購買基本価格の計量単位を指定します。調達管理で価格管理を使用する場合には、このフィールドに値を入力します。

トランザクションや価格設定の処理で指定した計量単位のレコードが存在しない場合は、その品目の基本計量単位を使用して処理が繰り返されます。

[購買レポートのカテゴリ・コード]

UDC 43/RU の値を入力して、組み込み比較の基準に使用されるカテゴリコードを指定します。調達管理との連携で価格管理を使用する場合には、このフィールドに値を入力します。

[優先スケジュール]

UDC 40/AP の値を入力して、優先情報の決定時に使用される詳細優先スケジュールを指定します。詳細優先スケジュールによって、詳細優先情報機能で使用される優先情報が決まります。優先スケジュールは UDC で直接管理することはできませんが、価格調整スケジュール プログラム (P4070) を使用して管理することができます。詳細優先情報を使用する場合は、このフィールドに値を入力します。

[優先調整の計算に使用する計量単位]

UDC 40/RU の値を入力して、受注オーダーの処理中に詳細優先情報の調整を取得するために使用される計量単位を指定します。F4072 テーブルの詳細優先調整は、さまざまな計量単位で定義できます。詳細優先情報を使用する場合は、このフィールドに値を入力します。

トランザクションや価格設定の処理で指定した計量単位のレコードが見つからない場合は、その品目の基本計量単位を使用して処理が繰り返されます。

価格管理固定情報の設定

[価格管理固定情報] フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - 価格管理固定情報	
OK(O) キャンセル(L) ツール(T)	
<div> <div> <div>販売価格管理を使用する (Y/N)</div> <div>Y</div> </div> <div> <div>調達価格管理を使用する (Y/N)</div> <div>Y</div> </div> <div> <div>価格承認必須 (Y/N)</div> <div>N</div> </div> <div> <div>価格調整の決定方法</div> <div></div> </div> </div> <div> <div>記号</div> <div> <div>変動テーブル識別記号</div> <div>&</div> </div> <div> <div>計量単位識別記号</div> <div>%</div> </div> <div> <div>通貨コード識別記号</div> <div>!</div> </div> <div> <div>データベース・フィールド識別記号</div> <div>?</div> </div> </div>	
<div>購買構造</div> <div> <div>価格設定の構造タイプ</div> <div></div> </div> <div> <div>出荷先住所の使用</div> <div><input type="checkbox"/></div> </div>	<div>販売管理固定情報</div> <div> <div>販売管理システムの指定</div> <div>1</div> </div> <div> <div>販売が複数ある場合の指定</div> <div>0</div> </div>

[価格管理固定情報] フォーム

[販売価格管理を使用する (Y/N)]

システム内で品目の価格がどのように決定されるかを指定します。価格管理モジュールがシステムに組み込まれている場合は、この機能を使用できます。

Y: 価格管理システムが使用されます。

N: 価格管理システムは使用されません。

[変動テーブル識別記号]

価格管理の変動テーブルの識別に使用する文字を指定します。ここで指定するアルファベット、数字、数学関数などの文字をテーブル名の先頭に付加すると、そのテーブル名は価格計算数式のためのテーブル名として認識されます。ただし、記号 +、-、×、÷ は、このフィールドでは無効です。

[計量単位識別記号]	価格管理の計算式の計量単位の識別に使用する文字を指定します。ここで指定するアルファベット、数字、数学関数などの文字を計量単位の先頭に付加すると、そのエントリは価格計算数式のための計量単位として認識されます。ただし、記号 +、-、×、÷ は、このフィールドでは無効です。
[通貨コード識別記号]	価格管理の計算式の通貨コードの識別に使用する文字を指定します。ここで指定するアルファベット、数字、数学関数などの文字を通貨コードの先頭に付加すると、そのエントリは価格計算数式のための通貨コードとして認識されます。ただし、記号 +、-、×、÷ は、このフィールドでは無効です。
[データベース・フィールド識別記号]	価格管理データベース フィールドの識別に使用する文字を指定します。ここで指定するアルファベット、数字、数学関数などの文字をデータベース フィールド名の先頭に付加すると、そのデータベース フィールドは価格計算数式のためのデータベース フィールドとして認識されます。ただし、記号 +、-、×、÷ は、このフィールドでは無効です。
[調達価格管理を使用する (Y/N)]	購買価格の計算に価格管理を使用するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。 Y: 価格管理を使用して購買価格を計算します。 N: 標準の価格調整を使用して購買価格を計算します。
[価格承認必須 (Y/N)]	全ての価格変更を価格承認ワークフロー経由で処理するかどうかを指定する値を入力します。 Y: 価格承認ワークフローが適用されます。 N: 価格承認ワークフローは適用されません。

価格管理の AAI の設定

このセクションでは、価格管理における AAI の概要、事前設定、および設定方法について説明します。

価格管理の AAI について

AAI には、仕訳入力の自動作成で使用するルールが含まれています。一般会計システムへの転記を行う各プログラムでは、AAI が使用されます。

ロジスティクス システムでは、使用が予想される会社、伝票タイプ、および元帳クラスの固有の組み合わせごとに AAI を作成する必要があります。各 AAI は、ビジネスユニット、主科目、補助科目で構成される特定の勘定科目に対応します。

AAI を定義すると、トランザクションが正しく記録されるようになります。売上更新プログラムを実行すると、在庫勘定、売上原価 (COGS) の経費勘定、およびオーダーの収益勘定の仕訳が作成されます。運送費、税、またはオーダーに関するその他の料金の勘定を相殺することもできます。

AAI を使用すると、受注オーダー トランザクションによってさまざまな仕訳入力がかどのように作成されるかを指定できます。各 AAI には、以下の情報の組み合わせが含まれています。

- 会社
- 伝票タイプ
- 元帳クラス コード
- 勘定科目

多様な組み合わせの作成によって、仕訳入力をさまざまな相手勘定に関連付けることができます。たとえば、電話によるオーダーを、店頭でのオーダーとは別の勘定科目に記録できます。

注: 調達管理で使用する価格管理では、購買オーダーの調整に AAI は使用されません。たとえば、伝票と領収書の照合時に、単位原価に適用される追加的な割引の仕訳は作成されません。

価格管理システムで使用する AAI

次の表は、価格管理システムで使用する AAI を示しています。

AAI	説明
4270 – 価格調整	売上更新プログラム (R42800) によって作成される仕訳入力の売上割引勘定を指定します。
4280 – 未払リベート	相殺仕訳の見越し勘定を指定します。
4234 – シップ アンド デビット	売上原価による売上の減損として認識される一時的な見越し勘定を指定します。

業務のニーズに合わせて既存の AAI の検討と改訂を行った後に、追加の AAI 項目の設定が必要になる場合があります。

事前設定

このセクションの操作を実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 勘定科目マスター情報が設定されていることを確認します。
- 会社が設定されていることを確認します。
- トランザクション タイプが設定されていることを確認します。
- 伝票タイプが設定されていることを確認します。
- 元帳クラス コードが設定されていることを確認します。
- トランザクションを記録する勘定科目コードを指定します。

価格管理の AAI の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[勘定科目の改訂]	W40950D	[受注管理システム・セットアップ] (G4241)、[AAI (自動仕訳)] [AAI の処理] で、AAI を検索して [選択] をクリックします。	AAI の設定と改訂を行います。

AAI の設定

[勘定科目の改訂] フォームにアクセスします。

[主科目]	勘定科目コードの中で、サブカテゴリに分割する原価コード（労務費、材料費、設備費など）を入力します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。
	注: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを 6 桁に設定した場合は、6 桁の全てを使用します。たとえば、「456」と入力することと「000456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6 桁にするために 3 つのスペースが自動的に追加されます。
[補助科目]	主科目のサブセットを入力します。補助科目には、主科目の取引の明細が記録されます。 注: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを 6 桁に設定した場合は、6 桁の全てを使用する必要があります。たとえば、「456」と入力することと「000456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6 桁にするために 3 つのスペースが自動的に追加されます。 このフィールドをブランクにすると、作業オーダーの原価コード フィールドに入力した値が使用されます。

(BRA) Setting Up Advanced Pricing for Repasse

This section provides an overview of Advanced Pricing for Repasse, lists prerequisites, and discusses how to set up the Adjustment/Preference Name UDC (40/TY).

Understanding Advanced Pricing for Repasse

The Advanced Pricing system is integrated with the Brazil Sales Order Tax Calculator to compute:

- Trade discounts
- Pricing rule discounts
- ICMS repasse discounts
- Free port zone discounts

Except for Interest on Installment Payments, the Brazil Sales Order Tax Calculator considers these values when generating notas fiscais.

You must set up UDCs for price adjustment names. Each Brazilian price adjustment name should have a special handling code that corresponds to the price adjustment names that Advanced Pricing uses. The tax calculator uses these adjustment names to determine which category codes to use. In this list, the first name is the UDC and the second name is the special handling code.

注: The special handling code names are identical to names found in UDC table 76/CN, but the system uses them for different purposes.

This table lists and describes the codes:

Codes	Description 01	Special Handling
CLIENTE	Percentage discount for a customer.	PTRADE
REGRAS	Percentage discount payable due to rules of advanced pricing.	PRULES
LOSEASON	Low season percentage discount.	PRULES
REPASSE	Percentage discount on ICMS.	PREPAS
ZONAFRC	Percentage discount on Free Zone or Free Trade.	PZONE

The names of the pricing adjustments are found in UDC 40/TY. You must manually add this special handling code name after setting up a new adjustment. For example, for the tax calculator to find the repasse discount (REPASSE), you must enter PREPAS as a special handling code in the special handling column of UDC 40/TY.

Prerequisites

Before you complete the tasks in this section:

- Verify that a master record exists for the preference hierarchy.
- Verify that customer information is set up in the Address Book and the Customer Master.
- Verify that customer billing instructions are set up for customers.
- Verify that item information is set up in the F4101, F4102, and F41021 tables.
- Verify that you have set up customer and item price group names in the UDC 40/PC.

Forms Used to Set Up the Adjustment/Preference Name UDC (40/TY)

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
Work With User Defined Codes	W0004AA	Brazilian Localization Setup (G76B41B), User Defined Codes – Brazil	Locate specific UDC tables.
User Defined Codes	W0004AI	On Work With User Defined Codes, locate the UDC table 40/TY. Select the row for the code REPASSE, and then click Select.	Set up specific values for a UDC.

Setting Up the Adjustment/Preference Name UDC (40/TY)

Access the User Defined Codes form.

Special Handling

Specify the code that indicates special processing requirements for certain UDC values. The value that you enter in this field is unique for each UDC type.

The system uses the special handling code in many ways. For example, special handling codes that are defined for Language Preference specify whether the language is double-byte or does not have uppercase characters. Programming is required to activate this field.

Type Prepas in this field to set up a special handling code for repasse.

第 4 章

基本価格設定の使い方

この章では、基本価格設定、受注管理の基本価格設定、価格の承認、調達管理の価格設定の各概要と、以下の方法について説明します。

- 基本価格優先階層の検討
- 基本価格の設定
- 既存価格の有効化

基本価格設定について

受注オーダーまたは購買オーダーを入力すると、事業所、顧客、仕入先、数量などの特性に基づいて、品目の価格が取得されます。受注オーダーまたは購買オーダーに対して価格調整が行われる前には、価格調整が適用される基本価格が必ず取得されます。基本価格の取得後、価格管理が有効であるか確認されます。価格管理が有効な場合、在庫価格設定規則などの標準の価格調整が省略され、価格管理の適用可能なスケジュールや調整が検索されます。

価格設定には、以下の 3 種類があります。

- 基本価格設定
- 標準の価格調整（価格管理プログラムを使用せずに基本価格を調整する方法）
- 価格管理による価格調整（価格管理プログラムを使用して基本価格を調整する方法）

受注オーダーまたは購買オーダーに入力した価格は、システムによって取得される基本価格を上書きします。標準または価格管理による価格設定のいずれかを使用して、基本価格に対する調整を作成できます。

受注オーダーの場合、顧客グループと品目グループを設定し、品目、品目グループ、顧客、および顧客グループの組み合わせに対して価格を割り当てることができます。価格設定階層により、価格の検索方法が決まります。基本価格の取得には、必ず基本価格優先階層が使用されます。価格構造は、品目と顧客のさまざまな組み合わせに対して定義する価格設定に対応できるよう十分な柔軟性を備えている必要があります。

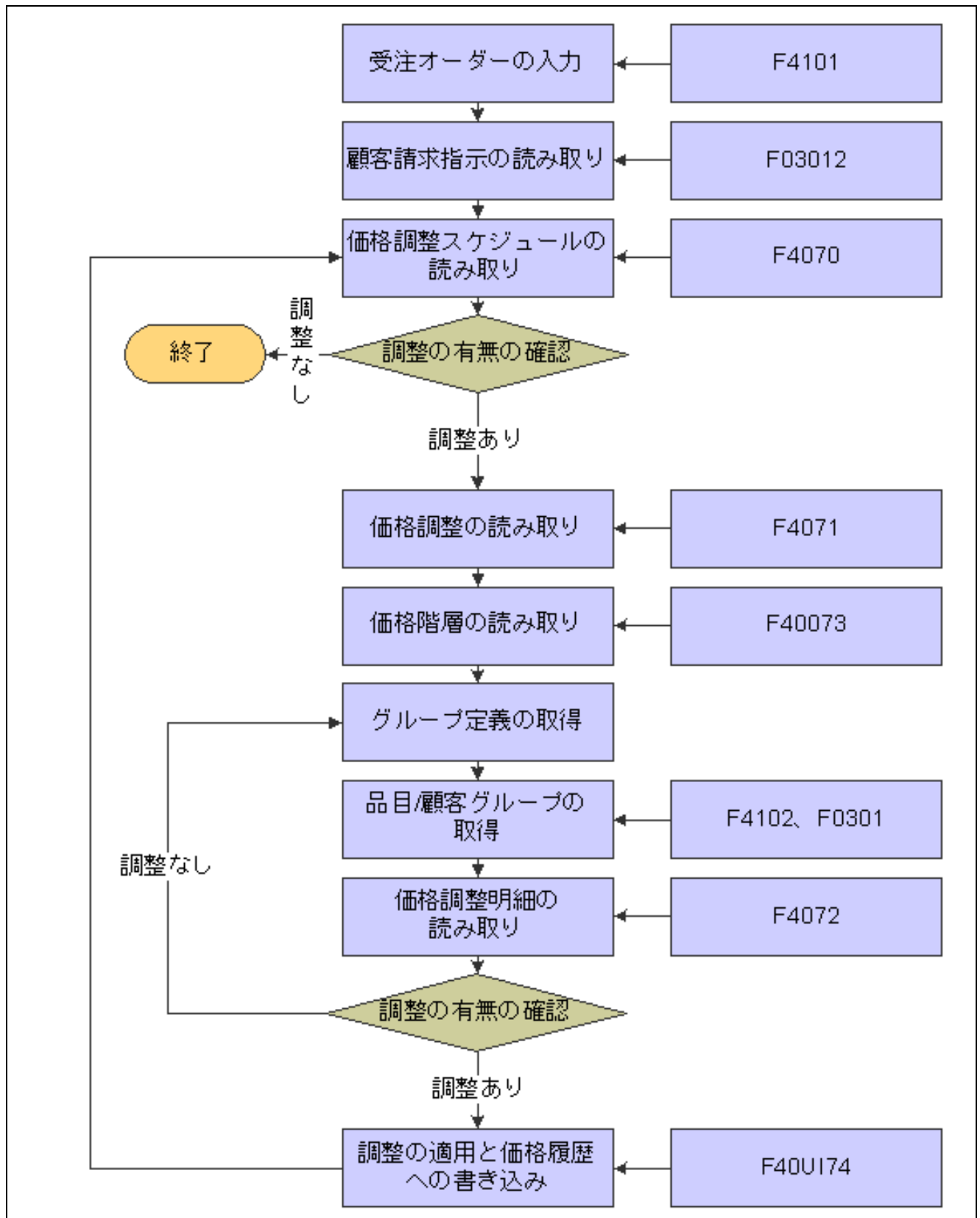
基本価格、価格管理の調整/スケジュールへの変更または追加は、承認プロセスを経るよう設定できます。EnterpriseOne ワークフロー管理により、価格の承認プロセスが自動化されています。

購買オーダーの場合、仕入先グループと品目グループを設定して、品目と仕入先の組み合わせに価格を割り当てることができます。購買オーダーの単位原価が、購買価格レベルに基づいて取得されます。また、必要に応じて仕入先カタログも併せて使用されます。基本価格優先階層は、購買オーダーの価格情報の取得には使用されません。

受注管理における基本価格設定について

受注オーダーを入力すると、事業所、顧客、数量などの特性に基づいて、品目の価格が取得されます。基本価格の取得後、価格管理が有効であるか確認されます。価格管理が有効な場合、在庫価格設定規則などの標準の価格調整が省略され、価格管理の適用可能なスケジュールや調整が検索されます。

次の図は、受注オーダーの価格の計算方法を表しています。



価格レベル

品目マスターの改訂プログラム (P4101) に品目を入力する際は、販売価格レベルを入力する必要があります。この販売価格レベルにより、品目の基本価格の定義方法が決定されます。たとえば、基本価格を品目別に定義するか、品目と事業所別に定義するかなどです。価格を定義するレベルについて次の表に示します。

レベル	説明
品目	1つの品目に対して全般的に適用される価格を1つ定義します。事業所、ロット、および保管場所情報を含めることはできません。
品目/事業所	品目/事業所の各組み合わせに対して異なる価格を設定します。保管場所およびロット情報を含めることはできません。
品目/事業所/保管場所	保管場所およびロット別に価格設定を定義する場合、事業所情報を定義することも可能です。

参照: 第 4 章、「基本価格設定の使い方」、「基本価格優先階層の検討」、36ページ

品目価格グループと顧客価格グループ

価格グループは、価格設定体系を構築するための 1 つの手段です。顧客価格グループを設定することにより、複数の顧客と品目の価格を個別に入力および更新する代わりに一括で処理することができます。たとえば、“PREFER (優先)” という名称の顧客価格グループを作成し、このグループの顧客が、他の顧客よりも 20.00 USD 安い価格で自転車を購入できるように設定できます。品目価格グループを設定すると、複数の品目価格の入力および更新を個別にではなく一括で処理できるようになります。たとえば、“BIKES (自転車)” という名称で、色の異なる同じような自転車をグループ化して 1 つの価格を定義できます。

簡易価格グループと複合価格グループの 2 つのタイプの価格グループを設定できます。簡易価格グループは、ユーザー定義コード (UDC) で識別されます。品目については、価格グループ名を UDC 40/PI として設定し、“品目/事業所情報” で品目を価格グループ名に割り当てます。顧客については、価格グループ名を UDC 40/PC として設定し、“顧客請求指示” で顧客を価格グループに割り当てます。

価格設定構造をさらに柔軟に使用するには、複合タイプの顧客および品目価格グループを定義します。複合顧客価格グループまたは複合品目価格グループでは、特定の住所録および品目カテゴリコードに基づいてサブグループを作成できます。複合価格グループを使用すると、同じグループに属する顧客に地理コードなどのカテゴリコードに基づいて異なる価格を割り当てることができます。

関連項目:

第 4 章、「基本価格設定の使い方」、「基本価格の設定」、38ページ

価格の承認について

価格が変更された場合に、社内の担当者に自動的に通知されるように設定できます。この通知の受信者は、変更価格を検討し、承認または却下の判断を下します。変更価格は“一時保留”の状態で作成され、承認処理が完了するまでその価格は使用されません。価格承認の処理経路は EnterpriseOne ワークフロー管理によって設定されます。

以下の価格が、価格承認処理の対象となります。

- 基本価格（受注用）
- 調整明細
- 価格変動
- 価格計算式
- リバート規定値

価格承認は、受注ベースの価格設定やスケジュールで使用することを目的としており、仕入先価格設定または調達管理の価格設定では使用できません。価格が承認されると、オーダー入力プログラムで使用可能となり、その後のオーダーで使用できるようになります。価格が却下された場合、その価格はオーダーで使用できません。

価格承認は、受注管理と価格管理のオプション機能です。この機能を使用するには、価格管理固定情報で有効にし、システム全体に適用する必要があります。

注: 価格の保守管理バッチ プログラムでは、ワークフロー処理は起動されません。これらのプログラムで作成された価格は自動的に承認されます。

一時保留価格と現行価格

承認状況は、システムに入力された全ての価格に割り当てられます。価格承認状況コードは、基本価格テーブルと価格管理テーブルで参照でき、ユーザー定義コード (45/AS) に保存されています。

次の表は、価格承認の状況コードを示しています。

価格承認状況コード	説明
一時保留	新しい価格または変更価格が作成されると、承認状況は“一時保留”に設定されます。一時保留価格の承認状況コードは1です。
現行	全ての承認担当者が、新しい価格または変更価格を承認すると、価格の状況は、“現行”に変更されます。状況が“現行”になると、その新しい価格に全ての価格取得機能が適用されます。オーダーに適用される価格は、状況が“現行”の価格のみです。それ以外の状況の価格は無視され、オーダーの価格設定に使用されません。承認状況コードがblankの場合は、その価格が“現行”であることを示します。
却下	価格が少なくとも1人の承認担当者によって却下された場合は、価格状況は、“却下”に変更され、その価格はオーダーに適用されません。さらに、ワークフローメッセージが価格変更の作成者に送信され、価格が却下されたことが通知されます。却下された価格の承認状況コードは2です。

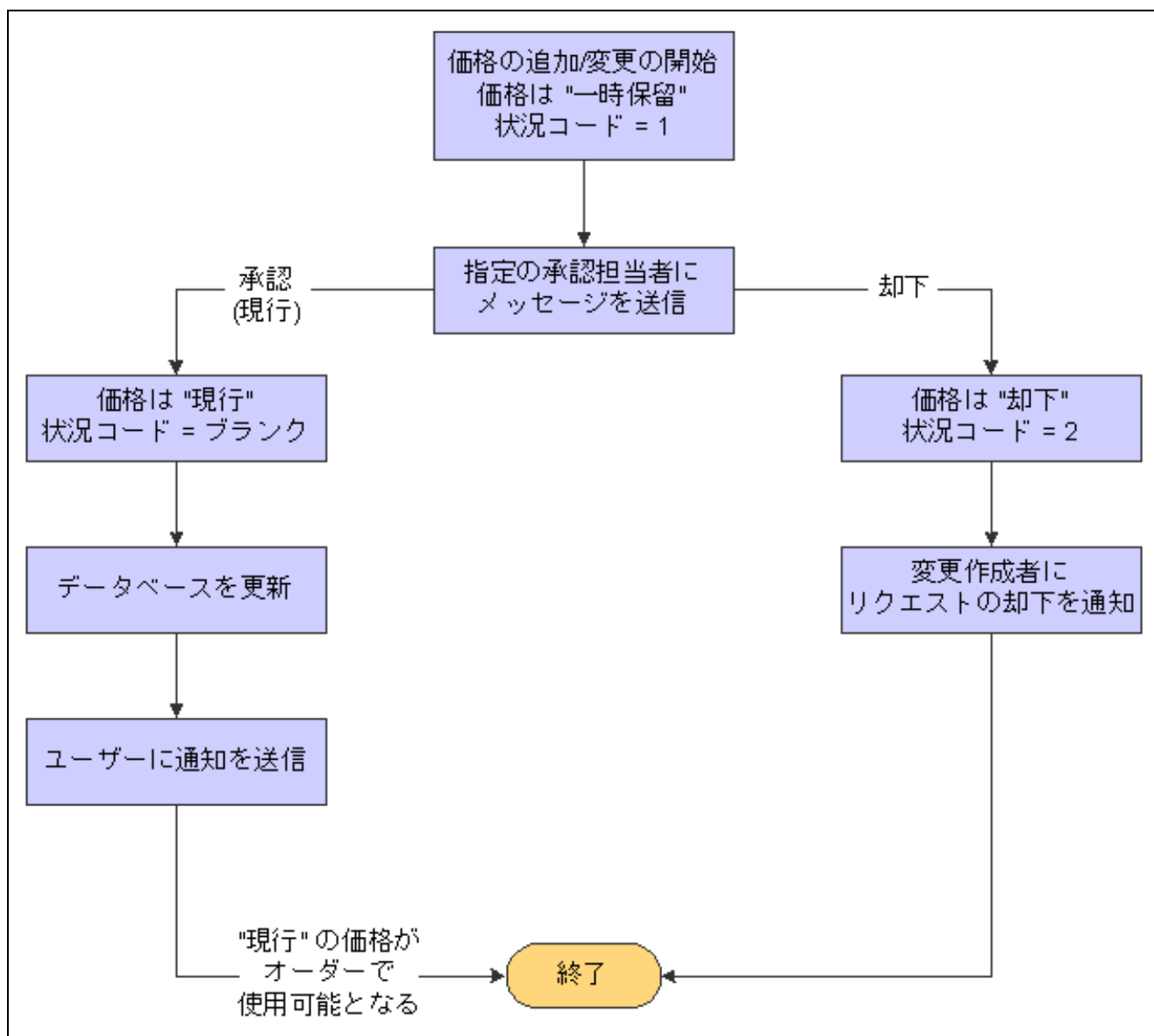
価格承認状況コード	説明
一時保留削除	削除機能により、価格がシステムから消去される可能性があることを示します。状況が“一時保留削除”の価格は、削除リクエストが承認されるまで現行（有効）のままとなります。“一時保留削除”の価格が承認されると、その価格は、“取消”と指定されます。
置換え	価格変更が有効となり、既存の価格が更新されると、当初価格は“置換え”と指定され、オーダー入力では使用されなくなります。

価格承認ワークフロー

価格承認処理が有効に設定されていると、基本価格や調整スケジュールの変更を自動的に検出できます。価格変更が検出されると、ワークフロー処理により、承認または却下を行う担当者にメッセージが自動的に送信されます。

ユーザーが価格を作成または変更すると、その変更が承認処理のために送信されたことをそのユーザーに通知するメッセージが表示されます。新しい価格または変更価格は、指定された全ての承認担当者によって承認されるまで、オーダーには反映されません。

次のフローチャートは、新規/変更価格が、ワークフロー処理によってどのように処理されるかを示しています。



価格承認のワークフロー

価格承認処理では、当初価格は新規価格または変更価格から切り離して扱われ、変更されません。そのため、変更価格が承認待ちの間、当初の価格を引き続き使用できます。

たとえば、次の販促期間で、ある品目の変更が必要な場合、[基本価格の改訂] または [価格調整明細の改訂] フォームで価格を変更できます。同じ価格を照会すると、当初の現行の基本価格と、新しい保留中の価格の 2 つの価格が存在します。

同じ有効期間に複数の価格が存在できます。“価格承認必須”を有効にした時点でシステム内に存在する価格は、自動的に承認されます。既存の価格の状況コードは全て、ブランク、つまり“現行”の状況コードに設定されます。

参照: PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Workflow Tools

承認要求

変更を検討する承認担当者は、従業員待ち行列マネージャまたは価格のスピード承認 (P450303) でメッセージを受け取ります。メッセージには、価格変更が承認待ちであることが示されています。

従業員待ち行列マネージャ

従業員待ち行列マネージャ内で変更を承認または却下するには、承認担当者は、“価格調整は変更されました”というメッセージをクリックし、次にワークフロー承認ボタンをクリックします。承認担当者がメッセージを承認または却下するためのフォームが表示されます。このフォームでは、承認担当者は承認や却下についての補足情報を監査用に追加できます。

承認担当者が価格を却下すると、待ち行列からメッセージがクリアされ、ワークフロー アクティビティは完了となります。当初の価格情報がシステム内に保持され、変更が却下されたことを通知するメッセージが変更作成者に送信されます。承認担当者が価格を承認した場合は、新規価格でデータベースが更新され、以前の価格は無効となります。

この時点で、ワークフロー システムにより、価格が承認されたことを通知するメッセージが新規/変更価格の作成者に送信されます。

価格のスピード承認

価格のスピード承認とは、従業員待ち行列マネージャに代わるもう一つの承認方法で、合理的に承認処理を実行できます。複数の価格変更を一度に承認する必要がある場合に、価格のスピード承認プログラムを使用します。価格のスピード承認にアクセスすると、指定した承認者に対する全てのメッセージが表示されるため、まとめてそれらのメッセージを承認または却下できます。したがって、価格変更が大量にある場合でも即座に承認することができます。

価格のスピード承認プログラムへは、[上級操作] メニュー (G423114) からアクセスできます。[価格変更のスピード承認] フォームから、各価格変更を承認または却下できます。価格変更を承認または却下するには、グリッド ローに承認状況を直接入力するか、または、1 つ以上のグリッド ローを強調表示にし、[ロー] メニューから [承認] または [却下] を選択します。

また、価格履歴や価格変更についての追加情報を [ロー] メニューから参照することもできます。さらに、処理オプションを設定して、プログラムの開始時に承認コードをロードすることもできます。

ワークフローの設定

価格承認処理は、[ワークフロー管理] の [グループの改訂] フォームで事前定義された配布リストに対して全てのメッセージを送信するようにコード化されています。この配布リストは、価格変更の承認担当者の実際の人数が正しく含まれるように修正することができます。

承認担当者を価格承認処理のカテゴリでグループ化して、配布リストを設定します。ワークフロー管理の配布リストの処理 (P02150) を使用して、親 (管理者など) を追加し、次に子 (その管理者の下で働く従業員など) をその親に追加します。

ワークフロー配布リストを作成する際は、次の点に注意してください。

- 配布リストに含める全てのメンバーが住所録に入力済みであることを確認してください。また、配布リスト構造を設定する前に、配布リストの住所番号を住所録に設定する必要があります。
- 配布リストが設定される 2 つの構造について理解しておく必要があります。

下位レベルの受信者からメッセージに対する回答がない場合、メッセージの承認処理を一時的に変更できます。

次の条件が 1 つでも満たされている場合、一時変更オプションを使用できます。

- 承認者が住所録に定義されている。
- 承認者が、メッセージの受信者より上位レベルのグループのメンバーである。
- メッセージが未開封である。

関連項目:

PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Workflow Tools

事前設定

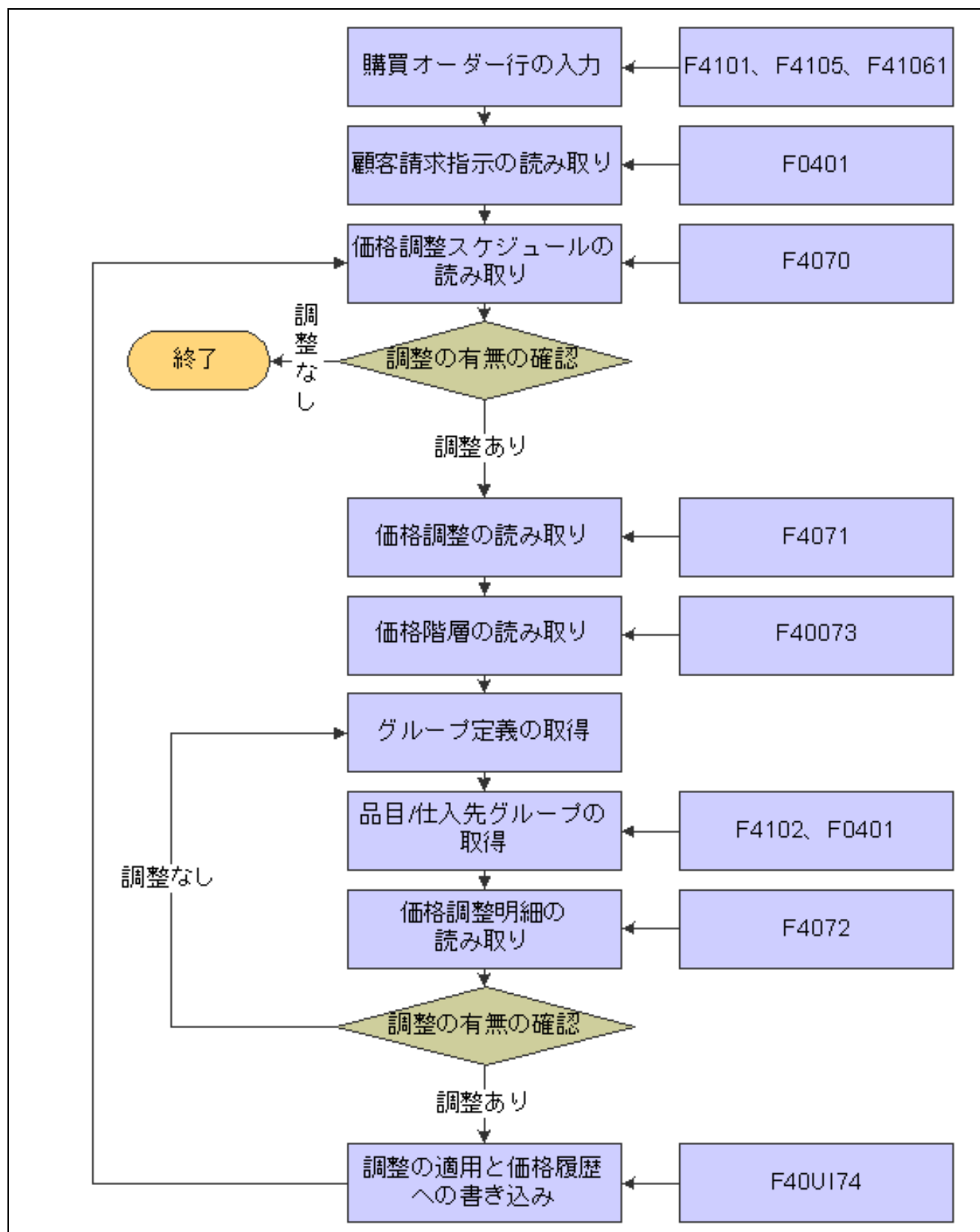
このセクションの操作を実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- [価格管理固定情報] フォームで [価格承認必須 (Y/N)] オプションを有効にします。
- 価格承認変換プログラム (R45210) を実行し、全ての既存価格を有効にします。

調達管理における価格設定について

購買オーダーを入力すると、事業所、仕入先、数量、品目などの特性に基づいて、単位原価が取得されます。購買オーダーに対して価格管理による価格調整が行われる前に、まず単位原価が取得されます。品目の購買価格レベルに応じて、F41061 または F4105 テーブルのいずれかから単位原価が取得されます。単位原価の取得後、価格管理が有効であるか確認されます。調達管理に対して価格管理が有効な場合、調達管理で設定されている標準の価格調整が省略され、価格管理の適用可能なスケジュールや調整が検索されます。

次のフローチャートは、購買オーダーの価格の計算方法を表しています。



価格管理と調達管理のインテグレーションのフローチャート

購買価格レベル

品目マスターの改訂プログラムに品目を入力する際は、購買価格レベルを入力する必要があります。この購買価格レベルにより、品目の基本価格の定義方法が決定されます。基本価格は購買オーダーの単位原価となります。購買価格を定義するレベルについて次の表に示します。

購買価格レベル	説明
仕入先/品目	仕入先の1つの品目に対して全般的に適用される価格を1つ定義します。仕入先原価はF41061テーブルから取得されます。
仕入先/品目/事業所	仕入先、品目、事業所の各組み合わせに対して異なる価格を設定します。仕入先原価はF41061テーブルから取得されます。
在庫原価	品目に指定した在庫原価レベルと購買原価計算方法に基づいて、原価を設定します。在庫原価はF4105テーブルから取得されます。仕入先の価格を設定していない場合は、在庫原価がデフォルトとして購買オーダーで使用されます。

在庫原価

次の品目原価の確定に使用する原価計算方式を指定します。

- 売上と売上原価
- 購買オーダー

たとえば、品目の売上原価は加重平均原価計算方式を使用して決定し、購買オーダーの品目単位原価は最終仕入原価計算方式に基づいて決定するように設定できます。

ユーザー定義コードを使用して原価計算方式を定義できます。ただし、01 から 19 の原価計算方式はあらかじめシステムにより予約されています。事前定義された原価計算方式には、次の 8 種類があります。

- 最終原価法
- 加重移動平均法
- メモ
- 現行
- 先日付
- ロット
- 標準
- 購買 - 基本原価追加なし

原価計算方式ごとに金額を入力して、品目原価を決定します。品目原価を検討する場合は、金額を入力した方式のみが表示されます。

入力する品目原価が販売、在庫、購買に割り当てる原価計算方式に基づかない場合は、警告メッセージが表示されます。警告メッセージを無視すると、その原価計算方式にはゼロ原価が割り当てられます。

仕入先価格

品目を購入する仕入先に基づいて、品目価格を設定できます。購買オーダーを入力すると、仕入先に対する品目の単位原価が取得されます。仕入先に基づいて購買オーダーの単位原価を取得するには、購買価格レベルを設定しておく必要があります。事業所レベルで仕入先価格を管理する場合、品目をカタログに追加する際に事業所を入力する必要があります。カタログの各品目に対して、異なる事業所を入力できます。

カタログとは、各品目とその価格をグループにまとめたものです。各カタログは仕入先に固有のものです。仕入先価格はカタログ別に入力する必要があります。仕入先から購入する品目の全てを 1 つのカタログにまとめたり、季節要因による変動や製品ラインなどの条件別に仕入先品目を分類して、複数のカタログを作成することもできます。同じ品目で価格が異なる場合は、それぞれの価格の有効日付を設定して複数のカタログに入力できます。また、購買数量に基づいた価格分岐も指定できます。

カタログの名称を指定しないで仕入先の品目価格を入力すると、仕入先のデフォルト カタログが自動作成されます。仕入先に対して 1 つのカタログのみを設定する場合は、デフォルト カタログを使用するのが便利です。購買オーダーに品目を入力すると、単位原価を取得するために仕入先のカタログが検索されます。まず、デフォルト カタログが最初に検索され（存在する場合）、次にその他のカタログがアルファベット順に検索されます。単位原価が検索された後、有効日付が検証されます。現在日付が有効日付範囲内にある場合は、購買オーダーにその単位原価が入力されます。

基本価格優先階層の検討

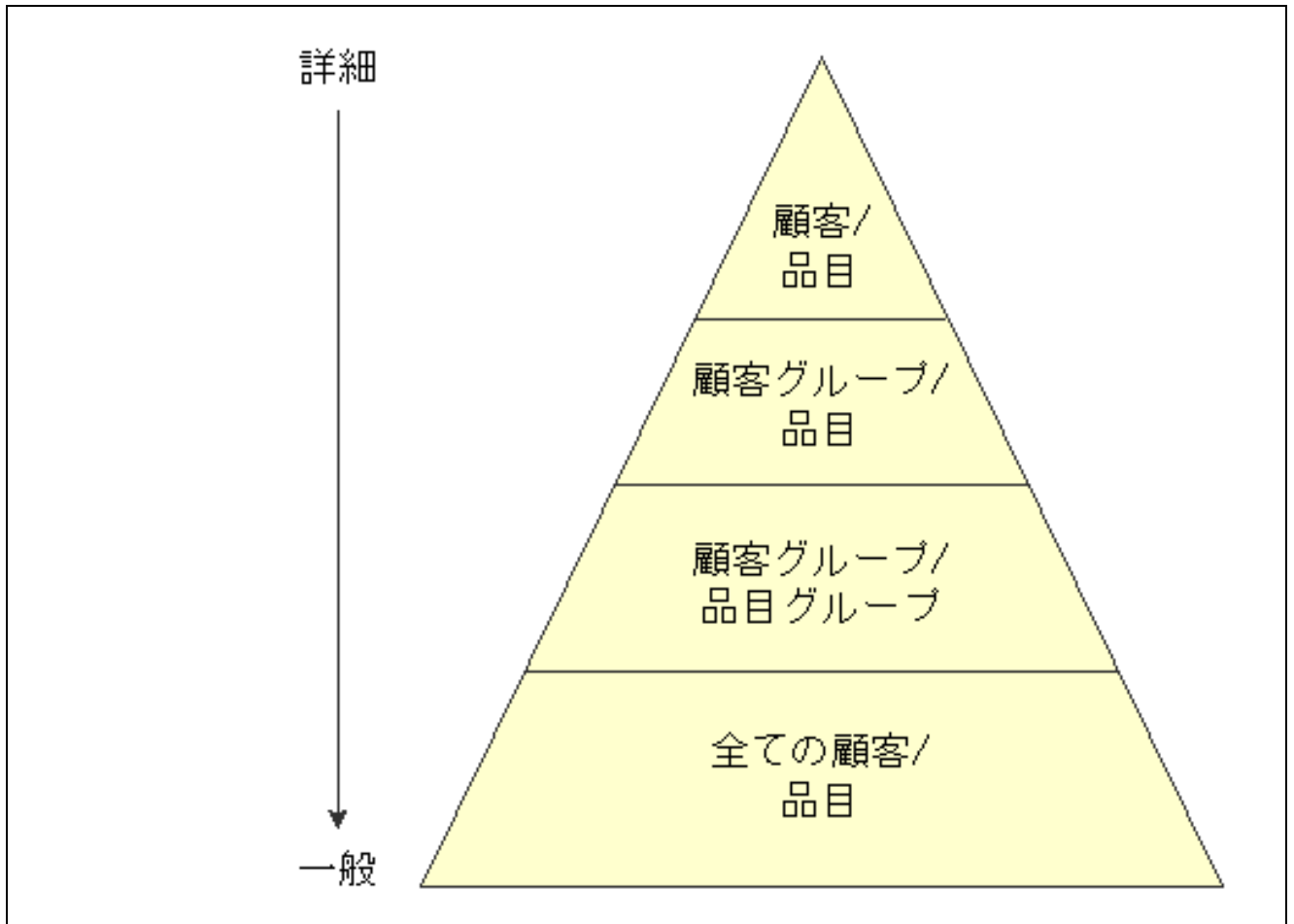
このセクションでは、基本価格優先階層の概要とその検討方法について説明します。

基本価格優先階層について

基本価格の取得時には、基本価格レコードの検索順序を決定するために基本価格の優先タイプ (51) に設定した階層が使用されます。基本価格階層は、顧客、品目、顧客グループ、品目価格グループの組み合わせから成るマトリックスです。ローとカラムの交差部分を使って階層順序を決定します。

価格階層は、最も詳細なレベルから最も一般的なレベルまで設定する必要があります。

次の図は、最も詳細なレベルから最も一般的なレベルまでの価格優先階層を表しています。



最も詳細なレベルから最も一般的なレベルを表す基本価格優先階層

受注オーダーの入力時に、定義済みの階層に基づいた組み合わせが検索されます。以下に組み合わせの例を示します。

- 品目と顧客
- 品目と顧客グループ
- 品目グループと顧客
- 品目グループと顧客グループ
- 品目グループのみ
- 品目のみ

重要: 基本価格設定では、優先階層に最大 14 までの番号を入力できます。ただし、価格設定階層の数は、3 または 4 に制限してください。この階層の数は、F4106 テーブルの検索が行われる回数を表します。したがって、階層の数を増やすごとに処理にかかる時間が長くなります。

基本価格優先階層の検討に使用するフォーム




フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[優先階層の改訂]	W40073D	<p>[価格管理] (G4222)、[優先階層]</p> <p>[優先階層の処理] フォームで基本価格の優先階層 (タイプ 51) を検索して、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>基本価格設定階層 (51) を定義するには、ローとカラムが交差するフィールドに連続した番号を入力して、[OK] ボタンをクリックします。</p>	優先階層の設定と改訂を行います。

基本価格の優先階層の改訂

[優先階層の改訂] フォームにアクセスします。

優先階層 - 優先階層の改訂

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

優先タイプ	51			基本価格
		品目 No.	品目グループ	
出荷先	顧客 No.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
	顧客グループ	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
販売先	顧客 No.	<input type="text" value="1"/>	<input type="text"/>	
	顧客グループ	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="3"/>	
親	顧客 No.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
	顧客グループ	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
すべての顧客		<input type="text"/>	<input type="text"/>	

[優先階層の改訂] フォーム

基本価格の設定

このセクションでは、基本価格の設定の概要、事前設定、および基本価格の設定方法について説明します。

基本価格の設定について

品目の価格は、国内通貨と必要な数のその他の通貨で設定できます。たとえば、1 つの品目に対して米ドルとユーロで基本価格を設定することが可能です。

通貨コードと計量単位はいずれも、F4106 テーブルのキーとなります。多通貨を使用している場合は、次の順序で価格検索が行われます。

- 顧客通貨とユーザー指定計量単位
- 顧客通貨と品目の基本計量単位
- 国内通貨とユーザー指定計量単位
- 国内通貨と品目の基本計量単位

一致する項目がない場合、処理は価格設定階層構造の次のレベルに進み、同じ順序で検索が行われます。

事前設定

このセクションの操作を実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 価格設定階層が定義されていることを確認します。

参照: [第 4 章、「基本価格設定の使い方」、「基本価格優先階層の検討」、36 ページ](#)

- システム固定情報で販売価格基準日が設定されていることを確認します。

基本価格の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[優先階層の選択]	W40073F	[価格管理] (G4222)、[基本価格の改訂] [優先基本価格の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	基本価格を設定する優先階層を指定します。(優先階層の選択肢は、基本価格優先階層の設定内容に基づいています。)
[基本価格の改訂]	W4106K	[優先階層の選択] フォームで優先階層を選択します。	基本価格の入力と改訂を行います。

基本価格の設定

[基本価格の改訂] フォームにアクセスします。

基本価格の改訂 - 基本価格の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) ロー(R) ツール(T)

品目No. 220 Touring Bike, Red

価格調整

☐ 単価

☒ パーセント

☐ 返品価格

☐ 金額

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

すべてのカラムを表示

		事業所コード	保管場所	ロットNo.	単位	通貨コード	単価	有効開始日付	有効付
<input type="checkbox"/>		M30	1 ...A..		EA	USD	650.0000	1997/04/18	200
<input type="checkbox"/>		M30	1 ...A..		PL	USD	6,200.0000	1997/04/18	20
<input type="checkbox"/>		M30		PL	USD	6,200.0000	1997/04/18	20
<input type="checkbox"/>		M30		PL	USD	6,200.0000	1997/04/18	20
<input type="checkbox"/>		M30	1 ...A..2		PL	USD	6,200.0000	1997/04/18	20
<input type="checkbox"/>		M30	1 ...A..2		EA	USD	650.0000	1997/04/18	20
<input type="checkbox"/>		M30	1 ...A..2		EA	USD	650.0000	1997/04/18	20
<input type="checkbox"/>		M30	1 ...A..2		PL	USD	6,200.0000	1997/04/18	20

[基本価格の改訂] フォーム

- [単価]

[単価] カラムを変更する場合にオンにします。[単価] カラムが変更されないようにするには、オフにします。
- [返品価格]

受注管理の返品オーダーを入力する場合は、オンにします。返品オーダーを入力するには、F40205 テーブルで符号反転フラグを“Y”に設定した行タイプを使用します。返品価格は全て F4106 テーブルに保存されます。

既存価格の有効化

このセクションでは、既存価格を有効にする価格承認変換プログラムの概要と、以下の方法について説明します。

- 価格承認変換プログラムの実行
- 価格承認変換プログラムの処理オプションの設定

既存価格を有効にする価格承認変換プログラム (R45210) について

価格管理固定情報で価格承認必須オプションを有効にした場合は、価格承認変換プログラム (R45210) を実行して既存の価格と調整を変換する必要があります。

価格承認変換プログラムを実行すると、選択した全ての価格の状況が“現行”に設定されます。まず、テスト モードでレポートを実行して、変換される価格の数を確認します。次に、最終モードでレポートを実行して、実際に価格を変換します。全ての価格が変換されるように、データ選択はオフにしておきます。

重要: 価格を有効にするには、このプログラムを実行する必要があります。プログラムを実行しない場合、全ての既存価格が非アクティブと見なされ、有効になりません。

価格承認変換プログラム (R45210) の実行

価格承認変換プログラムを実行するには、バッチ バージョンにアクセスし、[バッチ・アプリケーション] フィールドに「R45210」と入力します。

価格承認変換プログラム (R45210) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

以下の処理オプションを使用して、価格承認の実行方法を指定します。

テスト/最終モード

価格承認変換をテスト モードで実行するか最終モードで実行するかを指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: テスト モード

1: 最終モード

第 5 章

スケジュールと調整の使い方

この章では、スケジュールと調整の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 価格管理階層の設定
- 調整定義の利用
- 調整スケジュールの作成
- 調整明細の設定
- 他通貨での新規価格調整の生成

スケジュールと調整について

調整とは、価格設定計画や販売促進についての一連の情報を示します。受注管理では、調整を使用して、顧客に対して展開した販売促進をモニターできます。調達管理で価格管理を使用する場合は、仕入先によって提供される販売促進をモニターできます。

調整を作成したら、調整スケジュールに組み込みます。調整スケジュールには、価格の計算に使用される情報が含まれます。各調整スケジュールには、必要な数の調整を含めることができます。調整を定義し、各調整の明細を設定してください。

調整を定義した後で、調整明細を確認することができます。調整明細では、無償品、価格設定の計算式、価格変動コードなどの処理を定義できます。価格設定階層では、調整明細に含まれる調整の使用順序を定義します。

スケジュールに調整を追加するには、以下の項目を指定して調整定義を作成する必要があります。

- 調整明細に含まれる調整の検索順序を制御する価格設定階層を指定します。
- 請求書に調整を印刷するかどうか、価格設定をバスケットレベルで行うかオーダーレベルで行うか、または調整が数量、金額、重量に基づく一時変更価格かどうかを指定します。
- AAI（自動仕訳）を使用して元帳クラスを指定します。

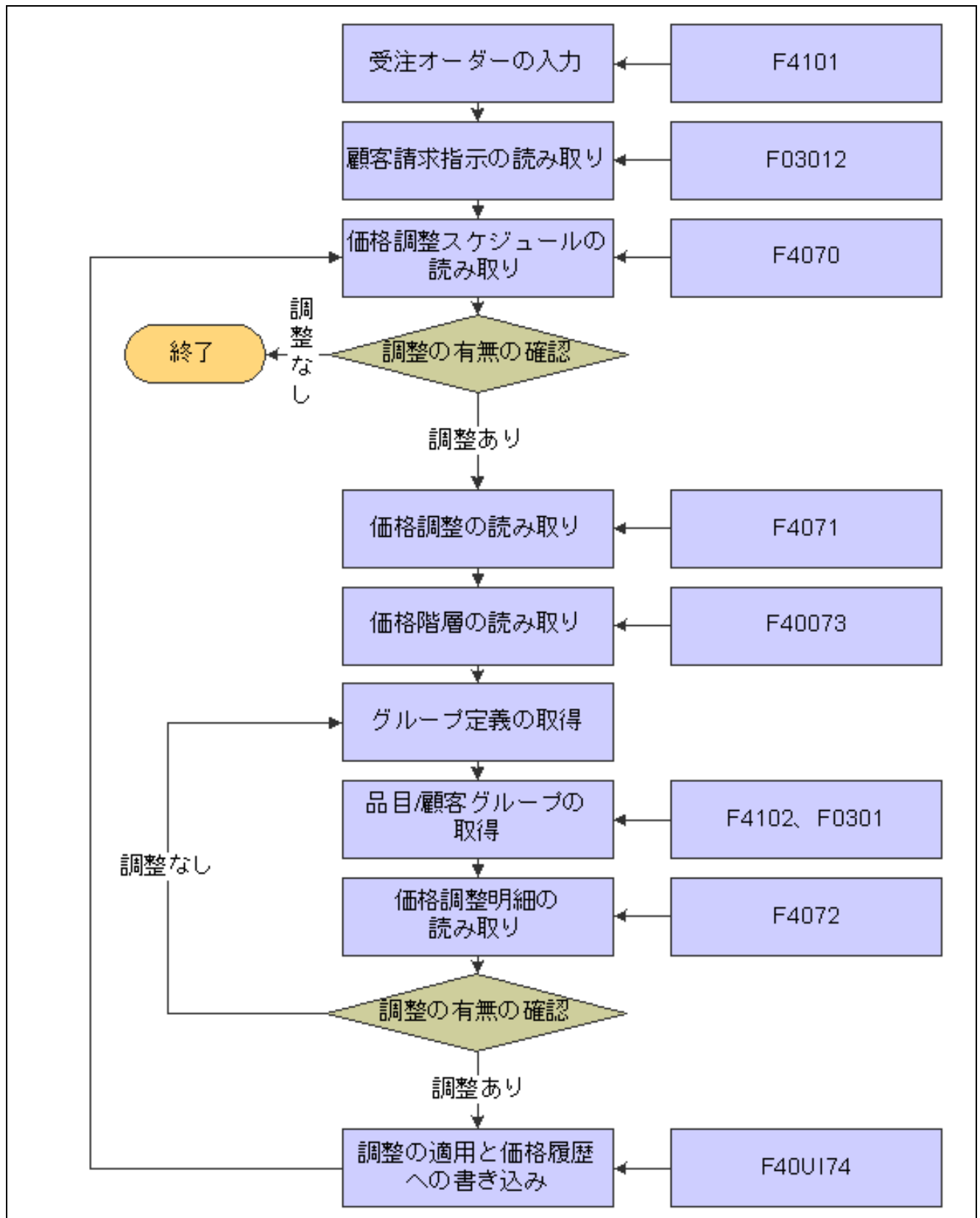
次の図は、複数の調整からスケジュールを設定する方法を示しています。



複数の調整からの調整スケジュールの設定

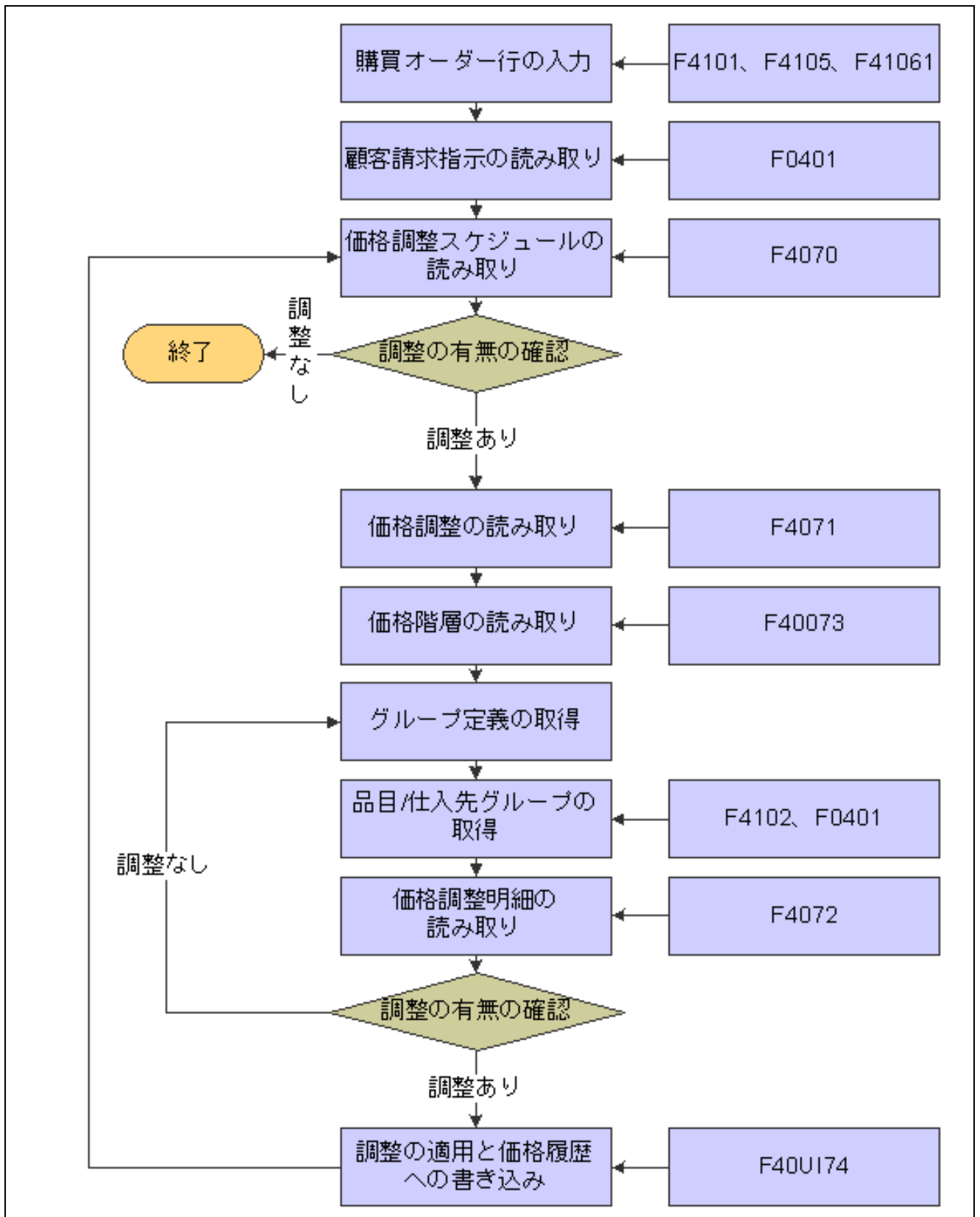
注: 追加料金や特別税など、必要な価格要素に対しては、必須価格調整を定義できます。価格調整は、受注オーダー、転送オーダー、直送オーダーの入力時に特定の品目に対して必須にしたり、追加料金や特別税に対応するために必須にすることができます。価格スケジュールに必須調整が含まれるとき、その必須調整が指定した顧客と品目の受注オーダーに対して定義されていない場合には、エラーが発生してオーダー明細行は処理されません。

次の図は、受注オーダーの調整と調整スケジュールの使用方法を示しています。



価格管理と受注管理のインテグレーションのフローチャート

次の図は、調達管理で価格管理を使用する場合の購買オーダーの調整と調整スケジュールの使い方を示しています。



価格管理と調達管理のインテグレーションのフローチャート

事前設定

このセクションの操作を実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 基本価格が設定されていることを確認します。

参照: 第 4 章、「基本価格設定の使い方」、「基本価格の設定」、38ページ

- 仕入先価格または在庫原価が設定されていることを確認します。

価格管理階層の設定

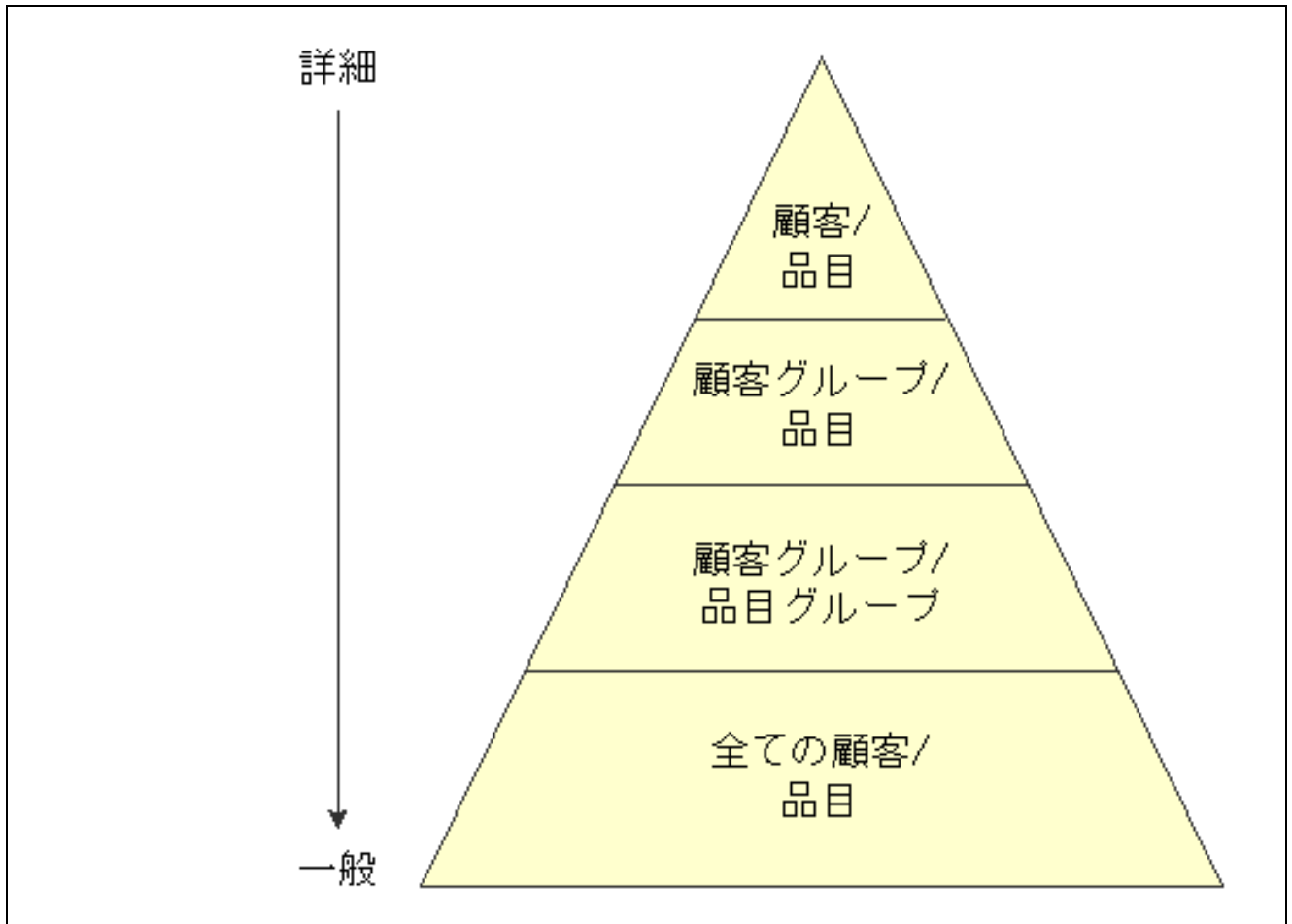
このセクションでは、価格管理階層の概要と、以下の方法について説明します。

- 優先マスターの設定
- 価格設定階層の定義

価格管理階層について

価格調整は、受注オーダーの価格に対して、価格設定階層に設定した順序で適用されます。システム内では、この価格設定構造を使用して、基本価格の取得、および価格の調整と更新の計算が行われます。このため、詳細な条件の組み合わせから一般的な条件の組み合わせの順で検索されるように、階層を設定します。

次の図は、一般的な顧客の価格設定階層を示しています。



顧客の価格設定階層

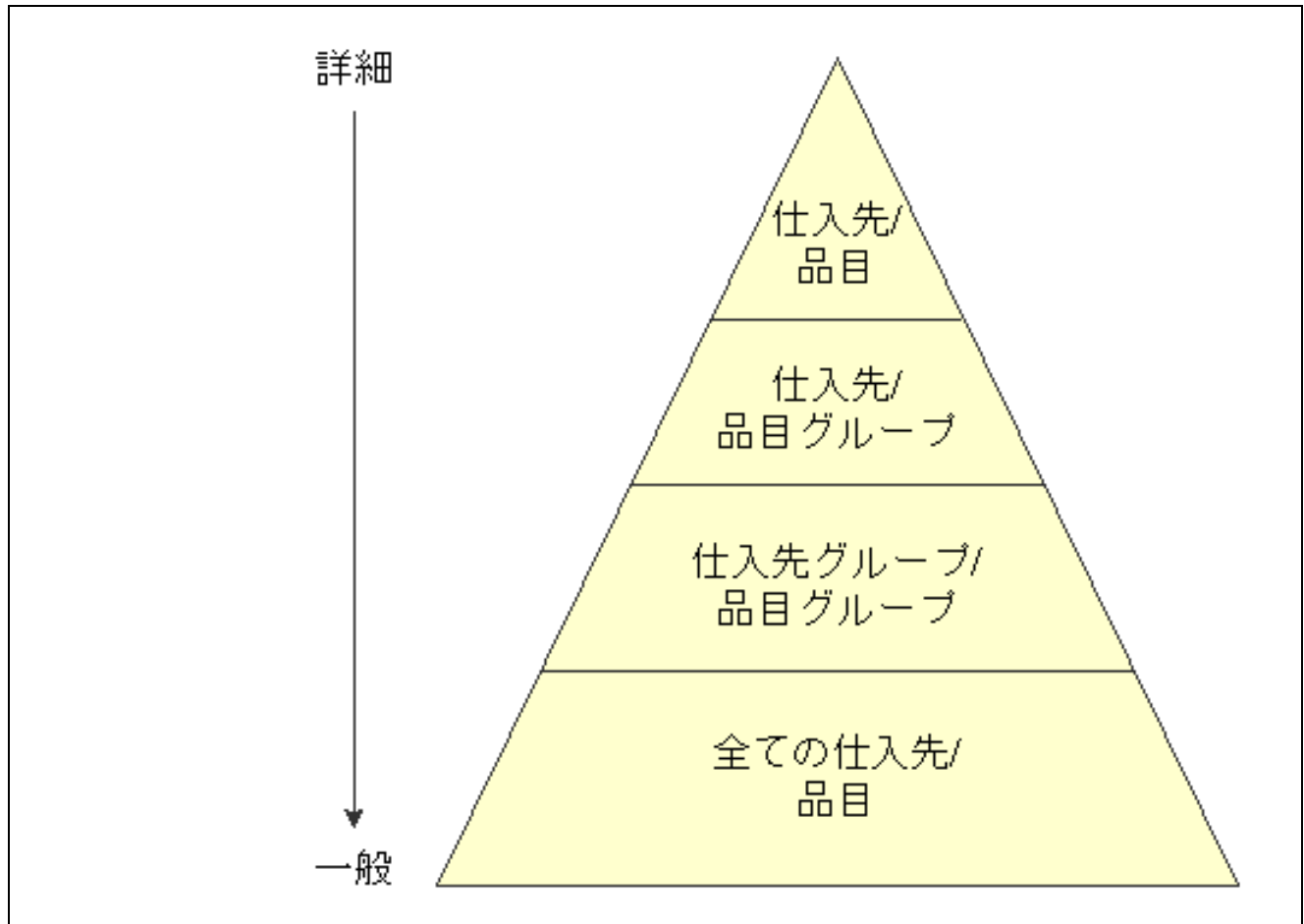
たとえば、季節的な販売促進では、特定の品目を注文した全ての顧客が割引の対象となるように順序を定義できます。しかし、顧客の地域に基づいて若干の割引を行う場合は、最初に詳細な情報が検索されるように階層を設定します。この場合は、以下のように順序を設定します。

- 顧客グループと品目
- 全ての顧客と品目

調達管理における価格管理の使い方

価格調整は、購買オーダーの単位原価に対して、優先階層に基づいて適用されます。システム内では、この価格設定構造を使用して、単位原価の取得、および価格の調整と更新の計算が行われます。通常は、詳細な条件の組み合わせから一般的な条件の組み合わせの順で検索されるように階層を設定します。

次の図は、仕入先の一般的な価格設定階層を示しています。



仕入先の価格設定階層

注: 調達管理で価格管理を有効にした場合は、受注オーダーの調整を入力するのと同じフォームおよび同じ方法で購買オーダーの調整を入力します。ただし、顧客フィールドと顧客グループ フィールドの情報は、仕入先および仕入先グループの情報として処理されます。

購買オーダーの入力時に該当品目に対して特定の仕入先が最初に検索されるように、優先階層を設定することができます。その仕入先と品目に対応する調整が見つかった場合は、自動的にその調整が単位原価に適用されます。調整が見つからなかった場合は、この特定の仕入先と、この品目が属する品目グループに対する価格調整が検索されます。購買オーダーの調整の優先階層の順序は、以下のように設定できます。

- 仕入先と品目
- 仕入先と品目グループ
- 全ての仕入先と品目

優先マスターの設定

価格設定階層を定義するには、“優先マスター” というマスター レコードをその階層に対して作成する必要があります。基本価格設定では、1 つの優先階層 (51) しか使用できません。価格管理では、必要な数の優先階層を作成できます。

階層を定義したら、その階層を調整定義に関連付けます。調整定義ごとに 1 つずつ階層を作成することも、1 つの階層を複数の調整定義に対して使用することもできます。複数の調整定義に使用できる階層をいくつか設定することをお勧めします。

優先マスターを使用して階層のマスター レコードを定義する場合、以下のフィールドは価格設定では使用しません。

- [優先分類]
- [順序 No.]
- [有効日付の使用]
- [有効数量の使用]

価格設定階層の定義

[優先階層の改訂] フォームを使用して、価格調整を適用する順序を指定します。このフォームには、顧客および顧客グループを示す行と、品目および品目グループを示す列があります。各行と列の交差するフィールドに番号を入力して、価格設定階層の順序を指定します。「1」を入力した組み合わせから価格の検索が開始され、その顧客と品目の組み合わせに定義されているレコードが検索されます。その組み合わせに調整明細が見つからなかった場合は、階層の次の組み合わせ（順序「2」を入力した組み合わせなど）が自動的に検索されます。

検索で最初に見つかった組み合わせが自動的に選択されます。このため、最も詳細な価格設定方法から一般的な価格設定方法へという順序で階層を設定することをお勧めします。

階層の順序は 21 まで入力できますが、3 または 4 までとしておくことをお勧めします。番号の数だけ検索が行われるため、多くの番号を入力すると処理時間が長くなります。

価格管理の階層の設定に使用するフォーム




フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[優先マスターの改訂]	W40070D	<p>[価格管理] (G4222)、[優先階層]</p> <p>[優先階層の処理] フォームで [追加] ボタンをクリックします。</p> <p>[優先階層の改訂] フォームで、[フォーム] メニューから [マスターの改訂] を選択します。</p>	優先マスターレコードの設定と改訂を行います。
[優先階層の改訂]	W40073D	<p>[優先階層の処理] フォームで [追加] ボタンをクリックします。</p>	<p>優先階層の定義と改訂を行います。</p> <p>行と列が交差する各フィールドに 1 から順に番号を入力して、検索する順序を指定します。価格設定階層の定義では、番号を 1 から入力します。番号を飛ばして入力することはできません。</p>

優先マスターの設定

[優先マスターの改訂] フォームにアクセスします。

優先階層 - 優先マスターの改訂

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

優先タイプ	03
記述	Revenue Business Unit
優先分類	LG ロジスティクス優先情報
順序No.	3

☒ 有効日付の使用

☐ 有効数量の使用

[優先マスターの改訂] フォーム

[優先分類]

優先プロファイル フォームの優先情報をグループ化するために使用する分類コードまたはタイトルを入力します。

[順序No.]

ここに入力する順序で、ユーザーは有効な環境の表示順序を設定できます。

[有効日付の使用]

優先情報について、有効日付範囲のフィールドを表示するかどうかを指定します。優先情報に対して有効日付と有効数量を入力する場合、有効日付範囲を表示することができます。

有効値は以下のとおりです。

オン: この優先情報について、優先プロファイルの改訂フォームに有効日付フィールドが表示されます。

オフ: この優先情報について、有効日付フィールドは表示されません。

[有効数量の使用]

この優先情報について、数量の範囲を使用するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

オン: この優先情報について、優先プロファイルの改訂フォーム (P40300 と P40300EC) に [開始数量] フィールドと [終了数量] フィールドが表示されます。

オフ: 数量範囲フィールドは無効または非表示になります。

有効数量のフィールドは省略可能なフィールドで、優先レコードの設定前に無効にすることができます。ただし、優先レコードの設定後に無効にすることはできません。

有効数量を割り当てる場合は、有効日付を割り当てる必要があります。

価格設定階層の定義

[優先階層の改訂] フォームにアクセスします。

優先階層 - 優先階層の改訂

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

優先タイプ

51

基本価格

		品目 No.	品目 グループ
出荷先	顧客 No.		
	顧客グループ		
販売先	顧客 No.	1	
	顧客グループ	2	3
親	顧客 No.		
	顧客グループ		
すべての顧客			

[優先階層の改訂] フォーム

調整定義の利用

このセクションでは、調整定義の概要と以下の方法について説明します。

- 調整定義の設定
- 請求書と購買オーダーについての販売促進情報の表示
- 価格調整の排他的指定

調整定義について

調整は、価格設定計画や販売促進などの特定の価格設定の状態を示すレコードです。調整をスケジュールに追加するには、調整定義を作成して調整の特性を指定する必要があります。これにより、以下の項目が決まります。

- 価格が検索される順序
- 調整が請求書に印刷されるかどうか
- 調整は、バスケット、オーダー、行のどのレベルに適用されるか
- 調整は、数量、金額、重量のどれに基づいて行われるか
- 調整は一時変更価格かどうか
- 価格管理の入力データを AAI に基づいて適切な勘定科目に仕訳するために使用する元帳クラス
- 調整が必須かどうか

注: 必須価格調整は、追加料金や特別税などの必要な価格要素に対して定義します。価格調整は、受注オーダー、転送オーダー、直送オーダーの入力時に特定の品目に対して必須にしたり、追加料金や特別税に対応するために必須にすることができます。

受注オーダーで、指定された顧客と品目に対して定義されていない必須の調整が価格スケジュールに含まれていると、そのオーダー行はエラーとしてハイライトされ、オーダーは処理されません。エラーメッセージが表示された場合は、オーダー明細の情報を確認してください。受注オーダー行の調整スケジュールへの関連付けを解除するか、またはその顧客を全ての調整に対して有効にするための情報を入力して必須の調整が適用されるようにします。

販売促進情報

価格調整に関連する販売促進情報を入力できます。価格/引当可能数量の照会プログラム (P4074) を使用して販促 ID と記述がオンラインで自動的に表示されるようにするかどうか、および請求書印刷 (R42565)、購買オーダー印刷 (R43500)、ピッキングリストの印刷 (R42520) の各レポートで販売促進の記述が印刷されるようにするかどうかを指定できます。

価格調整の排他

受注オーダーまたは購買オーダーを使用するとき、顧客に対して、価格調整の対象となる販売促進が複数適用可能になる場合があります。このような場合、1 つの調整を排他として指定すると、特定のオーダー明細行において、同じグループ内で他の調整を同時に適用することはできなくなります。たとえば、1 つの品目について休日用の販売促進と食料品店用の販売促進の両方の対象となる顧客については、その品目に対して両方の販売促進の調整が同時に適用されるようにするか、またはいずれかの販売促進調整を排他に設定することができます。この際、販売促進割引の排他を設定する、しないにかかわらず、見越し金額、税金、手数料の計算などの特定の内部調整は、行品目に対して有効のままとすることができます。

排他調整の重複の解決

オーダーを入力する際、1 つの受注明細行に対して複数の排他調整が適用されている場合には、排他調整が重複して設定されていることを示す警告メッセージが表示されます。[ロー] メニューの [価格履歴] をクリックすると、重複している排他調整を確認できます。排他調整の重複を解決しないと、受注オーダーまたは購買オーダーが処理される前に、そのオーダーについて最終の警告メッセージが表示されます。

排他調整の重複は、以下の 2 つの方法で解決できます。

- 調整の取り消し

[価格履歴] フォームで、[ロー] メニューの [調整の取消し] をクリックします。ダイアログ ボックスが表示され、排他調整を取り消すか、または同じ排他調整グループ内の他の調整を取り消すことができます。

- 調整の承認

[価格履歴] フォームで、[ロー] メニューの [排他調整フラグの変更] をクリックして、排他フラグをオフにします。これにより、調整の排他の設定が解除されます。

排他調整の重複を解決しないと、オーダーは保留になります。重複する調整が残っている場合には、受注オーダー入力 (P4210) で [オーダー保留] タブの [排他調整保留] 処理オプションを使用するか、または購買オーダー (P4310) で [処理] タブの [排他調整保留] 処理オプションを使用して、保留コードを指定します。重複が解決されると、保留されているオーダーは保留オーダーのリリース (P43070) プログラムによってリリースされます。

調整定義の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[調整制御の修正]	W4071C	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義] [調整タイプの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	調整定義を適用する調整を指定します。
[価格調整の定義]	W4071A	[調整制御の修正] フォームで [調整名] フィールドに値を入力して、[OK] ボタンをクリックします。	各調整定義の条件を指定します。 価格調整に関連する販売促進情報を入力します。

調整定義の設定

[価格調整の定義] フォームにアクセスします。

[レベル分岐タイプ]

以下のいずれかを選択して、F4072 テーブルにおけるレベル分岐の方法を指定します。

[数量レベル分岐] を選択すると、受注オーダーで指定された数量に基づいて正確な調整値が決まります。計量単位別に調整分岐を設定することができます。

[重量レベル分岐] を選択すると、受注オーダー明細行の品目に割り当てられている重量に基づいて、適切な調整レベル分岐が決まります。

[金額レベル分岐] を選択すると、受注オーダー明細行の合計金額に基づいて、適切な調整レベル分岐が決まります。通貨換算が有効になっている場合は、全ての金額レベルの分岐がその通貨コードの小数点形式で保存、表示されます。

[基本価格変更 (Y/N)]

基本価格を一時変更価格で上書きする場合にオンにします。調整を使用して基本価格に対する割引や割増の計算を行う場合はオフにします。

契約ペナルティ スケジュールの場合は、このチェック ボックスをオフにします。

[手作業による追加/変更許可 (Y/N)]

調整タイプを手動で追加するか、または受注オーダーの入力時に価格調整フォームから変更するかどうかを指定します。

[排他調整グループ]

ユーザー定義コード (45/AG) の値を入力し、調整定義を調整グループに関連付けます。排他調整オプションを選択して、同じ調整グループに属する調整を排他調整として定義することができます。排他調整オプションを選択すると、1 つのグループ内で複数の調整が適用された場合には警告メッセージが表示されます。

[排他調整]

指定した調整グループ内の 1 つの調整を排他調整に指定するかどうかを指定します。このチェック ボックスをオンにすると、1 つの調整グループ内で複数の調整が適用された場合には警告メッセージが表示されます。

[レポート・コード 1]

ユーザー定義コード (45/P2) の値を入力し、6 つのレポート コードから価格調整定義に関連付けるコードを 1 つ指定します。このレポート コードを使用して調整をグループ化します。

- [価格表から除外する]** 価格調整を価格表プログラム (P45520) の処理対象から除外するかどうかを指定します。
- オン: 価格調整を除外します。
- オフ: 価格調整を除外しません。
- [アップセル調整]** 受注オーダーの入力時に、調整をアップセル処理の対象とするかどうかを指定します。このチェック ボックスをオンにした場合、選択した調整階層に対して 1 つのエントリのみを指定できます。
- [調整必須]** 調整を必須とするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
- オン: この調整は必須となります。
- オフ: この調整は任意となります。

請求書と購買オーダーについての販売促進情報の表示

[価格調整の定義] フォームにアクセスします。

関連項目:

第 11 章、「販促 ID の使い方」、145 ページ

価格調整の排他の指定

[価格調整の定義] フォームにアクセスします。

- [排他調整グループ]** ユーザー定義コード (45/AG) の値を入力し、調整定義を調整グループに関連付けます。排他調整オプションを選択して、その調整グループに属する調整を排他調整として定義することができます。排他調整オプションを選択する際、1 つのグループ内で複数の調整が適用された場合には警告メッセージが表示されます。
- [排他調整]** 指定した調整グループ内の 1 つの調整を排他調整に指定するかどうかを指定します。このチェック ボックスをオンにすると、1 つの調整グループ内で複数の調整が適用された場合には警告メッセージが表示されます。

調整スケジュールの作成

このセクションでは、調整スケジュールの概要と調整スケジュールの作成方法について説明します。

調整スケジュールについて

価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが 1 つ以上含まれます。調整スケジュールは、調整定義と調整明細で構成されます。

顧客を調整スケジュールに割り当て、価格が自動的に計算されるようにします。調整スケジュールでは、価格調整タイプを受注オーダーの価格に適用する順序を指定します。価格調整スケジュールへの顧客の割り当てには、顧客請求指示を使用します。受注オーダーを入力すると、販売先住所に関連付けられたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。

各調整スケジュールには、必要な数の価格調整を含めることができます。調整の追加や既存の調整の変更はいつでも行えます。調整スケジュールは、必要に応じて明細行レベルで上書きすることができます。

調達管理で価格管理を使用する際の注意事項

調整スケジュールを仕入先に割り当て、価格が自動的に計算されるようにします。調整スケジュールでは、価格調整タイプが購買オーダーの価格に適用される順序を指定します。仕入先への調整スケジュールの割り当てには、仕入先への指示を使用します。購買オーダーを入力すると、仕入先住所に関連付けられたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。

注: 調達管理で価格管理を使用する場合は、各仕入先に対して調整スケジュールを 1 つのみ割り当てることができます。

事前設定

調整スケジュールを作成するには、価格調整の作成と調整定義の設定を行う必要があります。

調整スケジュールの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整スケジュールの改訂]	W4070C	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整スケジュールの改訂] [調整スケジュールの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	調整スケジュールを作成します。
[調整明細の処理]	W4072B	[調整スケジュールの処理] フォームでレコードを検索して選択します。 [価格調整スケジュールの改訂] フォームで調整レコードを選択して、[ロー] メニューの [調整明細] をクリックします。	調整スケジュールの各調整の調整明細または調整定義を改訂します。

調整スケジュールの作成

[価格調整スケジュールの改訂] フォームにアクセスします。

価格/調整スケジュールの改訂 - 価格調整スケジュールの改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

価格調整スケジュール

MFG

Manufacturing

住所No.

レコード 1 - 6

グリッドのカスタマイズ

		順序No.	調整名	記述	販促ID	販促名	有効開始日付
<input type="checkbox"/>		10	SEASONAL	需要のシフトタイミング			2006/05/
<input type="checkbox"/>		20	ROYALTY	製造ライセンス料の見越し			2006/05/
<input type="checkbox"/>		30	ELECCMRC	EDIトランザクション値引			2006/05/
<input type="checkbox"/>		40	FREIGHT	重量別運賃			2006/05/
<input type="checkbox"/>		50	BSKTREPC	バスケットレベル価格再設定			2006/05/
<input type="checkbox"/>							

[価格調整スケジュールの改訂] フォーム

[価格調整スケジュール]

価格調整スケジュールを識別するユーザー定義コード (40/AS) の値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが 1 つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客を関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所に関連付けられたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで上書きすることができます。

契約管理の場合、このフィールドは契約ペナルティ スケジュールとして使用されます。契約ペナルティ スケジュールの情報によって、ペナルティの条件適用基準が決まります。

調整明細の設定

このセクションでは、調整明細、受注オーダー調整の基準コード、購買オーダー調整の基準コードの概要と、調整明細の設定方法について説明します。

調整明細について

調整明細は、価格調整の計算に使用するパラメータです。価格管理の調整明細には、価格設定を柔軟に行うための基準コードが含まれています。調整定義を調整スケジュールに追加する際に、調整明細を定義できます。調整明細では、無償品、価格設定の計算式、価格変動コードなどの処理を定義できます。価格設定階層を使用して、調整明細に含まれる調整が適用される順序を定義します。

調整が自動的に計算されるようにするには、基準コードを使用する全ての価格調整について、[価格調整明細の改訂] フォームの [基準コード]、[係数]、[計算式コード] フィールドに値を入力する必要があります。

関連項目:

第 9 章、「補足調整の使い方」、「無償品調整の作成」、101 ページ

第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、111 ページ

売上調整の基準コードについて

次の表は、売上調整の基準コード、係数、計算式コードの設定方法を示しています。

調整タイプ	設定情報
基本価格パーセント	<p>基本価格に係数が乗算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「1」を入力します。 • [係数] フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
現行正味価格パーセント	<p>現行正味価格に係数が乗算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「2」を入力します。 • [係数] フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
原価パーセント	<p>品目原価に係数が乗算されます。この計算を行うには、価格調整明細の[原価計算方法]フィールドで品目原価を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「3」を入力します。 • [係数] フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
原価 + 金額	<p>品目原価に係数が加算されます。この計算を行うには、グリッドの[原価計算方法]カラムで品目原価を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「4」を入力します。 • [係数] フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。 • [原価計算方法] フィールドに原価計算方法コードを入力します。
追加金額	<p>価格が係数で調整されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「5」を入力します。 • [係数] フィールドに、ペナルティパラメータに基づいてプラスまたはマイナスの数値を入力します。

調整タイプ	設定情報
追加変動金額	<p>調整金額は、F4075 テーブルから取得されます。品目の価格が頻繁に（毎日のように）変動する場合は、変動価格を設定します。変動価格テーブルを使用して価格と有効日付を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「6」を入力します。 • [計算式コード] フィールドに、変動テーブルを示すコードまたは名前を入力します。 <p>調整明細行を選択して [ロー] メニューの [価格変動] をクリックすると、[価格変動コードの処理] フォームにアクセスします。</p> <p>F4075 テーブルの価格を基本価格として使用する場合は、このテーブルを関連付ける調整が一時変更調整に定義されていることを確認してください。これにより、他の価格は F4075 テーブルの価格に変更されます。</p>
追加計算式金額	<p>計算式を使用して価格調整が計算されます。計算式の構成要素は、特殊文字を使って示す必要があります。これらの特殊文字は、価格設定固定情報のシステム設定時に定義します。計算式は、標準的な記号を使って実行されます。カッコ内の計算が最初に行われ、続いて乗算、除算、足し算、引き算が行われます。たとえば、90*&GOLD は、品目の調整価格が金の現行価格の 90% であることを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「7」を入力します。 • [計算式コード] フィールドに、計算式を示すコードまたは名前を入力します。 <p>計算式にフィールド名を返すには、テーブルフィールドの記述フォームにアクセスして F4211 テーブルのフィールドを含めます。これにより、フィールド名が自動的に挿入されます。フィールド名の前には、システム固定情報で指定したフィールド名を示す文字が挿入されます。F4211 テーブルの全てのフィールドを計算式で使用することはできません。</p>

調整タイプ	設定情報
ユーザー プログラム追加金額	<p>ユーザー定義のプログラムが呼び出され、価格調整が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「8」を入力します。 • [計算式コード] フィールドに、カスタムプログラムのプログラム ID を入力します。レベル分岐に指定する関数の名前は 8 文字以下にする必要があります。また、ビジネス関数名は調整明細で指定した名前と同じにする必要があります。 <p>注: 当社では、カスタムプログラムの提供とサポートは行っていません。</p>
粗利益	<p>粗利益に基づいて価格調整が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「9」を入力します。 • [係数] フィールドに粗利益率を入力します。たとえば、価格を 10% 調整する場合は「10」と入力します。

購買オーダー調整の基準コードについて

次の表は、購買オーダー調整の基準コード、係数、計算式コードの設定方法を示しています。

調整タイプ	設定情報
仕入先価格/在庫原価パーセント	<p>仕入先価格または在庫原価に係数が乗算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「1」を入力します。 • [係数] フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
現行正味仕入先価格/在庫原価パーセント	<p>現行正味価格に係数が乗算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「2」を入力します。 • [係数] フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
原価パーセント	<p>[基準コード] に「3」を入力すると、エラーが表示されます。調達管理では、仕入先価格/原価パーセントを選択する場合、基準コード 1 を使用する必要があります。</p>
原価 + 金額	<p>[基準コード] に「4」を入力すると、エラーが表示されます。調達管理では、金額を単位原価に加算する場合、基準コード 5 を使用する必要があります。</p>
追加金額	<p>係数を使用して、仕入先価格または在庫原価が調整されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「5」を入力します。 • [係数] フィールドに、ペナルティパラメータに基づいてプラスまたはマイナスの数値を入力します。

調整タイプ	設定情報
追加変動金額	<p>調整金額は、F4075 テーブルから取得されます。品目の仕入先価格または在庫原価が頻繁に（毎日のように）変動する場合は、変動価格を設定します。変動価格テーブルを使用して価格と有効日付を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「6」を入力します。 • 計算式フィールドに、変動テーブルを示すコードまたは名前を入力します。 <p>調整明細行を選択し、[ロー]メニューの[価格変動]をクリックすると、[価格変動コードの処理]フォームにアクセスします。</p> <p>F4075 テーブルの単位原価を価格として使用する場合は、このテーブルを関連付ける調整が一時変更調整に定義されていることを確認してください。これにより、他の価格は F4075 テーブルの価格に変更されます。</p>
追加計算式金額	<p>計算式を使用して価格調整が計算されます。計算式の構成要素は、特殊文字を使って示す必要があります。これらの特殊文字は、価格設定固定情報のシステム設定時に定義します。計算式は、標準的な記号を使って実行されます。かっこ内の計算が最初に行われ、続いて乗算、除算、足し算、引き算が行われます。たとえば、計算式 $90 * \&GOLD$ は、品目の調整価格が金の現行価格の 90 %であることを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「7」を入力します。 • [計算式コード] フィールドに、計算式を示すコードまたは名前を入力します。 <p>計算式にフィールド名を返すには、テーブルフィールドの記述フォームにアクセスして F4311 テーブルのフィールドを含めます。これにより、フィールド名が自動的に挿入されます。フィールド名の前には、システム固定情報で指定したフィールド名を示す文字が挿入されます。F4311 テーブルの全てのフィールドを計算式で使用することはできません。</p>
ユーザープログラム追加金額	<p>ユーザー定義のプログラムが呼び出され、価格調整が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [基準コード] フィールドに「8」を入力します。 • [計算式コード] フィールドに、カスタムプログラムのプログラム ID を入力します。 <p>注: 当社では、カスタムプログラムの提供とサポートは行っていません。</p>

注: 調達管理で価格管理を使用する場合は、顧客グループではなく仕入先グループ名を入力する必要があります。

調整明細の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[調整明細の処理]	W4072B	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整詳細の改訂] [調整明細の処理] フォームで、調整明細レコードを設定する価格調整のコードを入力して[検索]をクリックします。	調整明細を設定します。
[価格調整明細の改訂]	W4072A	[調整明細の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。 [優先階層の選択] フォームでレコードを選択して、[選択] ボタンをクリックします。	調整明細を設定します。 [優先階層の選択] フォームで選択したレコードによって、[価格調整明細の改訂] フォームに表示されるフィールドが決まります。

調整明細の設定

[価格調整明細の改訂] フォームにアクセスします。

価格/調整詳細の改訂 - 価格調整明細の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

価格調整コード

REGIONAL

地域競合

品目 No.

2410

Helmet

顧客価格グループ

TERGRP

地域顧客

レコード 1 - 3

		開始レベル	規定値 計量単位	係数	基準 コード	基準名	係数 単位	部分数量へ の値引	通貨 コード	有効開始 日付	期 日
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0.0001	EA	5.0000-	2	現行正味		1	USD	2005/05/01	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0.0100	EA	10.0000-	2	現行正味		1	USD	2005/05/01	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

[価格調整明細の改訂] フォーム

[原価計算方法]

品目原価を計算する際の基準を指定するユーザー定義コード (40/CM) の値を入力します。原価計算方法 01 から 19 までは、システム用として予約されています。基準コード 3 または 4 を使用する場合は、このフィールドに値を入力してください。

[計算式コード]

価格計算式を識別するユーザー定義コード (40/FM) の値を入力します。価格計算式は全て F4076 テーブルに保存されます。基準コード 7 を使用する場合は、このフィールドに値を入力してください。

異なる通貨を使用した価格調整の新規作成

このセクションでは、異なる通貨を使用した価格調整の概要と以下の方法について説明します。

- 価格/調整の生成プログラム (R407201) の処理オプションの設定
- 価格/調整の生成プログラム (R407201) の実行

異なる通貨を使用した価格調整について

価格/調整の生成プログラム (R407201) を実行すると、複数のレコードに対し、異なる通貨を使用して新しい価格調整を一度に作成できます。このプログラムでは、実際金額を使用する場合も使用しない場合も、既存のレコードに基いて、新しい価格調整が生成されます。

価格/調整の生成プログラムは、異なる通貨を使用して複数の価格調整レコードを作成する必要がある場合に特に役立ちます。たとえばこのプログラムは、価格調整レコードにない通貨を使用する顧客と取引する場合などに使用します。1 つのレコードに対して新しい価格調整を作成する必要がある場合は、価格管理調整明細改訂フォームで既存のレコードを更新します。このプログラムを実行する必要はありません。

価格/調整の生成プログラムでは、以下の処理が行われます。

- どの通貨を新しいレコードに使用するか混乱が起きないように、1 度に 1 つの通貨について新しい価格調整が作成されます。
- 新しい価格調整レコードは、各単位に 1 つのみ作成されます。通貨ごとに 1 つの価格レコードが作成されるわけではありません。

たとえば、カナダドル (CAD) 建ての既存の価格に基づいて、新しい価格調整レコードを日本円 (JPY) で生成するとします。既存のレコードに JPY の価格調整がある場合、同じキーを持つレコードが 2 つ存在することになるため、新しい JPY のレコードは生成されません。ただしこのルールは、レコードに関連付けられた各通貨コードの失効日付が異なる場合は当てはまりません。失効日付によっては、複数の価格調整レコードが新しく作成される場合があります。

- 新しい価格調整レコードは、既存レコードと共にアルファベット順に並べ替えられます。

実際金額を使用した価格調整

実際金額を使用した価格調整の場合、価格/調整の生成プログラムでは、以下の処理が行われます。

- 元の価格調整レコードがコピーされます。
- 処理オプションで指定した通貨コードと為替レートに基づいて、新しい価格調整が計算されます。
- 新しい通貨と金額、またはそのいずれかを使用して、価格調整レコードが作成されます。

実際金額を持つレコードの価格調整 (基準コードが 4 (原価 + 金額) または 5 (追加金額) など) を新規に作成できます。また、金額に基づくレベル分岐の価格調整を新規に作成することもできます。基準コードが 7 (計算式) の金額の価格調整を新しく作成することはできません。

たとえば、100 CAD の価格調整に基準コード 5 (追加金額) が割り当てられている場合に、JPY で新しい価格調整を作成するとします。為替レートは 1 CAD = 75.11881 JPY で、乗数法を使用して JPY への換算が行われます。この場合、新しい価格調整値は 75,119 JPY (100 CAD × 75.11881 JPY = 75,118.81) となります。

実際金額を使用しない価格調整

実際金額を使用しない価格調整の場合、価格/調整の生成プログラムでは、以下の処理が行われます。

- 元の価格調整レコードがコピーされます。

- 元の係数値が保持され、通貨コードが処理オプションで指定したコードに変更されます。
- 新しい通貨コードを使用して、新規の価格調整レコードが作成されます。

実際金額のない調整価格レコードの価格調整（基準コードが 1（基本価格パーセント）など）を新しく作成することができます。

たとえば、基本価格の 90 パーセントの価格調整（通貨：CAD）に、基準コード 1 が割り当てられている場合に、JPY で新しい価格調整を作成するとします。この場合、新しい価格調整値は JPY で 90 パーセントとなります。実際金額を使用しない調整の場合、元の係数値 (.9) は保持され、通貨コードのみが変更されます。

価格/調整の生成のデータ選択

通常は調整コードを使用して新しい価格調整を作成しますが、データ選択の他の値を使用して作成することもできます。

価格/調整の生成プログラム (R407201) の処理オプションの設定

価格/調整の生成プログラムを実行する際は、次の処理オプションを使用して、新しい価格調整の作成に使用する通貨と為替レートを指定します。

処理

処理オプションは EnterpriseOne の導入時に設定されますが、プログラムを実行するたびに変更できます。

1. 処理モード

この処理オプションをブランクのままにすると、プログラムはテスト モードで実行され、監査レポートのみが作成されます。監査レポートを検討して、生成されたレコードが正しいかを確認します。監査レポートに問題がある場合は、処理オプションとデータ選択の値を変更してプログラムをテスト モードで再実行してください。

「1」を入力すると、プログラムは最終モードで実行され、ファイルが更新されて監査レポートが作成されます。テスト モードで作成された監査レポートに問題がなければ、プログラムを最終モードで実行してください。監査レポートで新しい価格調整レコードを確認します。価格管理調整明細の改訂フォームで新しいレコードを確認することもできます。新しいレコードは、既存のレコードと共に、アルファベット順でフォームに表示されます。また、金額はデータ辞書に設定されている表示小数点以下桁数に従って丸められます。必要に応じて、価格管理調整明細の改訂フォームで新しいレコードを手動で調整してください。たとえば、50,000 円 (JPY) のレコードに対して 675.1155 カナダドル (CAD) の価格調整レコードを新しく作成する場合、新しい価格を 675 CAD に変更できます。

2. 価格レコードの決定に使用する日付

生成する価格レコードを決定するために使用する日付を入力します。価格の失効日がこの日付以降の場合、新しい価格レコードが作成されます。この日付をブランクにすると、システム日付が使用されます。

通貨

処理オプションは EnterpriseOne の導入時に設定されますが、プログラムを実行するたびに変更できます。

1. 換算先の通貨コード

換算先の通貨コードを指定します。新規レコードの通貨コードです。

2. 換算元の通貨コード

換算元の通貨コードを指定します。通貨コードは、基本通貨コードまたは顧客通貨コードを示します。新しい価格調整の基本となる元の通貨コードです。

- 3. 為替レート** 為替レートを指定します。国内通貨の金額を計算するために、外貨の金額に乘算する数値（為替レート）です。このフィールドには最大で小数点以下 7 桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下 7 桁の数値に調整されます。
- 4. 為替の計算** 現行価格に為替レートを乗算するには「1」を入力します。現行価格を為替レートで除算するにはブランクにします。

価格/調整の生成プログラム (R407201) の実行

[定期処理] メニュー (G4231122) から、価格/調整の生成プログラムを選択します。

第 6 章

価格設定の使い方

この章では、価格設定の概要と、以下の方法について説明します。

- 価格設定ワークベンチの使い方
- 顧客別価格表の使い方
- サーチ エージェントの作成

価格設定について

良質な顧客サービスを提供するためには、価格表示と価格設定の操作を迅速に行う必要があります。価格管理システムで価格を設定すると、以下の作業を行うことにより、価格の表示と管理が可能になります。

- 特定の品目グループの価格設定を表示するクエリーを作成する。
- 顧客別の価格表を作成する。
- 全ての価格をパーセント単位で増加する（例：15%）。
- 基本単位だけでなく、任意の単位で価格を検索する。

価格調整レコードの一括更新

価格設定ワークベンチ プログラムを使用して、レコードに対してクエリーを実行するフィルタを作成すると、複数の価格調整レコードを同時に管理および更新できます。また、既存のレコードを変更またはコピーして、新しいレコードを作成できます。

売上調整レコードは、[価格調整の一括改訂] フォームで、希望の改訂結果を得られるまで変更できます。たとえば、各カラムの上の一時変更ローを使用して、詳細グリッドに表示されている全てのレコードに新しい値を適用したり、他のパラメータを設定して計算方法を指定したりできます。たとえば、ビジュアルアシストを使用して、カラムの全てのレコードに適用する調整を選択したり、[一括更新エンジン] フォームで、金額、数量、容量、パーセントなどの情報を指定できます。

注: 価格調整レコードの一括更新では、通過遞減や拡張バスケット調整は表示されません。

価格調整レコードは、F4072 テーブルに書き込まれます。

価格設定ワークベンチの使い方

このセクションでは、価格設定ワークベンチの概要と以下の方法について説明します。

- 価格設定検索クエリーの生成

- 価格設定検索クエリーの結果の表示
- 価格調整レコードの一括更新

価格設定ワークベンチについて

価格設定ワークベンチ プログラム (P45501) を使用すると、価格設定に関するさまざまな情報を単一のフォームで表示できます。このプログラムでは、価格設定に関する全てのシナリオと状況を特定できるため、価格設定構造の管理が簡素化し、顧客を照会する回数を減らすことができます。以下の価格設定構造を対象とする検索クエリーを生成できます。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目
- 品目グループ
- 調整

表示する対象を決定したら、クエリーの新規作成、既存クエリーの詳細表示、既存クエリーの再生成、クエリーの削除を行うことができます。レコードに対するクエリーを作成したら、価格と調整にアクセスして調整を簡単に変更できます。また、価格構造の変更部分を迅速に検証することもできます。クエリー条件に応じて、以下のプログラムとオプションが使用できます。

- 価格調整の定義 (P4071)
- 価格調整明細の改訂 (P4072)
- 価格調整の一括改訂 (P45550)
- カテゴリ コードの改訂
- 未処理顧客グループ
- 未処理品目グループ

表示するレコード タイプを指定するには、表示順序ユーザー定義コード (45/FO) を使用します。この値によって、詳細グリッドのカラムおよびローの形式と内容が特定され、また、解決処理の方法も特定されます。

価格設定ワークベンチの情報の処理には、以下のテーブルが使用されます。

- F4510
- F4511W

価格設定検索クエリー

[コントロール・パネル] フォームで価格設定の検索クエリーを作成すると、既存の価格設定検索クエリーが同じパラメータを使用していないかどうかを確認されます。同じパラメータを使用している場合は、既存のクエリーを上書きするかどうかを確認するフォームが表示されます。処理待ち行列に価格設定検索クエリーがあると、エラー メッセージが表示され、価格設定ワークベンチ解決ステップ プログラム (R45502) は実行されません。待ち行列に価格設定検索クエリーがないか、または既存のクエリーを上書きする場合は、価格設定ワークベンチ解決ステップ プログラムが実行され、価格設定検索クエリーが生成されます。

価格設定検索クエリーが生成されている間には、価格設定ワークベンチ プログラム (P45501) で、他の価格設定検索クエリーの検索を続行できます。クエリーに関連するレコード数によって、価格設定検索クエリーの生成には時間がかかる場合があります。

クエリー レコードは、価格設定ワークベンチ プログラムで表示できます。クエリーの詳細は、クエリーに指定した表示順序の値に基づいて表示されます。たとえば、“01” (顧客) のクエリーを指定すると、顧客番号への明示的参照の詳細レコードのみを表示するか、顧客への暗示的参照の詳細レコードのみを表示するか、または両方のレコードを表示するかを選択するオプションが表示されます。“03” (顧客グループ) のクエリーの場合は、これらのオプションは表示されません。有効日付に基づいてレコードをフィルタ処理するオプションは、全てのクエリーの詳細フォームに表示されます。

また、クエリーの詳細フォームには、調整定義や調整明細などの全ての価格調整アプリケーションにアクセスできるロー メニュー オプションも表示され、このロー メニューから、調整レコードを変更および管理できます。

注: 処理中のクエリーを選択すると、そのクエリーの有効な詳細レコードを全て表示できない場合があります。

生成されたクエリーの情報は、F4510 テーブルに保存されます。詳細レコードは、クエリーの作成時に生成され、F4511W テーブルに保存されます。

対象フォームで、[フォーム] メニューの [照会結果の再生成] をクリックすると、生成済みのクエリーを再生成できます。クエリーの再生成を行うと、クエリーから情報が取得されて既存クエリーが削除され、価格設定ワークベンチ解決ステップ バッチ プログラムによってクエリーが再生成されます。再生成されたクエリーを表示するには、[検索] ボタンをクリックします。クエリーの生成が完了する前にクエリーを再作成すると、エラーが発生します。

生成済みの価格設定検索クエリーは削除することができます。価格設定検索クエリーを削除する場合は、価格設定ワークベンチ クエリー詳細の削除 (R45503) プログラムにより、選択した価格設定検索クエリーに一致する詳細レコードが全て削除されます。生成が完了していない価格設定検索クエリーを削除すると、孤立レコードが F4511W テーブルに残る場合があります。

価格設定ワークベンチの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格ワークベンチの処理]	W45501K	[価格照会](G423113)、[価格設定ワークベンチ]	既存の価格設定ワークベンチクエリを検索して選択します。
[コントロール・パネル]	W45501A	[価格ワークベンチの処理] フォームで、[追加]をクリックします。 [コントロール・パネル]で、顧客、顧客グループ、品目などの表示順序を指定します。 [フォーム]メニューの[クエリの生成]をクリックします。	価格設定の検索クエリを生成します。
対象フォーム	W45501D, W45501E, W45501F, W45501G, W45501I	[価格ワークベンチの処理] フォームで、価格設定の検索クエリレコードを検索して選択します。 選択した価格設定検索クエリに応じて、異なるフォームが表示されます。たとえば、顧客(01)の価格設定検索クエリを選択すると、[対象顧客]フォームが表示されます。また、品目(05)の価格設定検索クエリを選択すると、[対象品目]フォームが表示されます。価格設定検索クエリを選択すると、選択したクエリに対応するフィールドが表示されます。	価格設定の検索クエリの結果を表示します。
[価格調整の一括改訂]	W45550A	対象フォームで、[フォーム]メニューの[一括管理]をクリックします。 または、[上級操作](G423114)の[価格調整の一括改訂]をクリックします。 [価格調整の一括改訂]フォームで、サーチエージェントを検索し、[グリッドのみ更新]をクリックして[OK]をクリックします。	価格調整レコードを一括更新します。

価格設定検索クエリの生成

[コントロール・パネル] フォームにアクセスします。

[表示順序]	<p>ユーザー定義コード (45/FO) から、価格設定ワークベンチに表示する価格設定レコードを選択します。</p> <p>たとえば、顧客や顧客グループ別に価格設定レコードを表示することができます。[表示順序] フィールドで指定した値に応じて、異なるフィールドが表示されます。このフィールドを終了すると、表示内容はリフレッシュされます。</p>
住所番号	[表示順序] フィールドで 01 (顧客) を指定した場合は、このフィールドに住所番号を入力します。
顧客価格グループ	[表示順序] フィールドで 03 (顧客グループ) を指定した場合は、このフィールドに顧客価格グループを入力します。
品目番号	[表示順序] フィールドで 05 (品目) を指定した場合は、このフィールドに品目を入力します。
品目価格グループ	[表示順序] フィールドで 06 (品目グループ) を指定した場合は、このフィールドに品目価格グループを入力します。
価格調整コード	[表示順序] フィールドで 08 (調整詳細) を指定した場合は、このフィールドに価格調整コードを入力します。
[会社]	このフィールドには、会社を入力します。入力した会社の顧客カテゴリコードに基づいて、顧客グループ別に照合が行われます。ブランクにすると、会社 00000 がデフォルトの会社として使用されます。業種別処理が有効になっている場合は、顧客に対して会社ごとに異なるカテゴリコードを使用できます。
[事業所コード]	<p>事業所を入力します。入力した事業所の品目カテゴリコードに基づいて、品目グループ別に照合が行われます。ブランクにすると、全ての事業所が検索されますが、特に品目グループクエリーでは、検索時間が非常に長くなる場合があります。このため、事業所を入力するようにしてください。事業所品目レコードごとに、異なるカテゴリコードを使用できます。</p> <p>注: [会社] フィールドと [事業所コード] フィールドは、品目グループまたは顧客グループの照合時に使用するカテゴリコードを特定する場合にのみ使用します。これらのフィールドには、結果をフィルタする機能はありません。</p>

価格設定検索クエリーの結果の表示

確認する価格設定検索クエリーに関連する対象フォームにアクセスします。

注: 表示されるフォームは、選択した価格設定検索クエリーに応じて異なります。たとえば、顧客 (01) の価格設定検索クエリーを選択すると、[対象顧客] フォームが表示されます。また、品目 (05) の価格設定検索クエリーを選択すると、[対象品目] フォームが表示されます。価格設定検索クエリーを選択すると、選択したクエリーに対応して、以下のフィールドが表示されます。

検索条件に該当するフォームにアクセスします。

[基準日]	価格設定の有効性チェックに使用する日付を入力します。デフォルトは現在のシステム日付ですが、将来または過去の日付も入力できます。
[顧客への明示的参照]	顧客 (01) または品目 (05) の価格設定検索クエリーを使用する場合に選択します。このオプションを選択すると、[住所No.] フィールドに顧客番号があるレコードのみを表示できます。

[顧客/グループ/すべての顧客による暗示的参照]	顧客 (01) または品目 (05) の価格設定検索クエリーを使用する場合に選択します。このオプションを選択すると、[住所No.] フィールドに顧客番号がないレコードを含め、全てのレコードを表示できます。表示結果には、顧客グループに設定した詳細レコード (顧客グループのカテゴリコードに一致するため、顧客に対して有効になるレコードなど) と、全ての顧客に設定した詳細レコードが含まれます。
[両方]	顧客 (01) または品目 (05) の価格設定検索クエリーを使用する場合に選択します。顧客への明示的参照のレコードは色付きで表示されます。
[階層レベル]	調整 (08) クエリーを使用する場合、このオプション フィールドに階層レベルを入力します。

価格設定検索クエリーを再生成するには、[価格ワークベンチの処理] フォームで既存の価格設定検索クエリーを検索して、[ロー] メニューの [クエリーの再実行] をクリックします。

注: 価格設定検索クエリーを選択して対象フォームにアクセスし、[フォーム] メニューの [照会結果の再生成] をクリックしても、価格設定クエリーを再生成できます。

価格調整レコードの一括更新

[価格調整の一括改訂] フォームにアクセスします。

[開始数量更新タイプ]	F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は以下のとおりです。 A: 追加金額 \$: 一時変更金額 %: パーセント
[計算式コード]	価格計算式を示すユーザー定義コード (40/FM) の値を入力します。価格計算式は全て F4076 テーブルに保存されます。
[係数値更新タイプ]	F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は以下のとおりです。 A: 追加金額 \$: 一時変更金額 %: パーセント
[無償品あり]	価格調整が無償品情報に関連している場合は、“Y” が表示されます。[価格調整明細の改訂] フォームの任意フィールドが反転表示され、そのレコードが無償品情報に関連していることが示されます。
[オーダー明細]	受注明細グループを示すユーザー定義コード (40/SD) の値を入力します。受注明細グループを使用し、F4211 テーブルのフィールドに基づいて価格を設定します。
[部分数量への値引]	端数部分 (数量、重量、金額) に対して割引を適用するかどうかを指定します。このオプションは、係数単位を指定した場合にのみ使用できます。たとえば、2 ダース以上のオーダーに対して割引が適用される場合に、このオプションを有効にすると、2 ダース (24) 以上のオーダー全てに対して調整が適用されます。このオプションをブランクにすると、端数数量に対して

は割引は適用されません。たとえば、30 個オーダーした場合でも、割引が適用されるのは 24 個に対してのみです。値は以下のとおりです。

ブランク: 端数部分に対して割引を適用しません。

1: 端数部分に対して割引を適用します (デフォルト)。

[バスケット親ID]

例外価格設定のバスケット レコードと標準のバスケット調整を関連付けるコードを入力します。

[金額の一時変更]

F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は以下のとおりです。

A: 追加金額

\$: 一時変更金額

?: パーセント

[パーセントの追加]

F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は以下のとおりです。

A: 追加金額

\$: 一時変更金額

?: パーセント

[追加金額]

F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は以下のとおりです。

A: 追加金額

\$: 一時変更金額

?: パーセント

[係数]

オーダー行の調整方法を指定します。このフィールドの値は、[基準コード] フィールドの値と連動します。[基準コード] フィールドの定義により、このフィールドに数値またはコードのどちらを入力するかが決まります。

基準コード別の入力方法は、以下のとおりです。

1-5: 割増の場合は "10" のようにプラスの数値を入力し、割引の場合は "10-" のようにマイナスの数値を入力します。

6: [計算式コード] カラムに変動テーブルを示すコードを入力します。

7: [計算式コード] カラムに計算式を示すコードを入力します。

8: カスタム プログラムを使用して調整を計算します。[計算式コード] カラムにプログラム ID を入力します。

顧客別価格表の使い方

このセクションでは、顧客別価格表の概要と以下の方法について説明します。

- 顧客別価格表の作成と価格表構造の作成
- 調整用の価格表グループの指定
- カラム パターンを使用した価格表の調整のグループ化

顧客別価格表について

価格管理情報に基づいて顧客別価格表の作成と管理を行い、それらを顧客に転送することができます。顧客別価格表には、基本価格、有効期間内の品目別の正味価格、販売促進、取引、その他の適用済みの調整が表示されます。調整がある場合は、スケジュールによる調整と直接価格調整の両方が価格表での計算に組み込まれます。

顧客別価格表の処理では、以下のテーブルが使用されます。

- F45520
- F45521
- F45522
- F45523
- F45524
- F40UI74

価格表の作成

日付、品目、顧客などの条件に基づいて、同じ顧客に対して異なる価格表を作成できます。たとえば、1つの品目と顧客の価格表を、事業所保管場所や日付別に作成できます。価格表を作成する場合は、デフォルトの数量レベル分岐と計量単位を指定する必要があります。

価格表グループ

価格調整を割引、販売促進、税、運賃などのカテゴリにグループ化できます。価格表を作成する場合は、デフォルトの数量レベル分岐と計量単位を指定する必要があります。価格表を印刷または表示する場合に、調整をグループ化するためのカラム パターンを指定したり、選択したグループ別に調整金額を合計するかどうかを指定できます。調整は、最大 5 つのカラムでグループ化と表示が可能です。

価格表の生成

価格表の価格を生成すると、価格表の生成プログラム (R45522) が実行され、価格表構造の各レコードがロードされて、価格が生成されます。F40UI74 テーブルの調整情報を使用して、価格カラムに価格がロードされ、F45521 テーブルに価格調整ローが個別に作成されます。価格を生成できるのは、構造レコードの作成後で、価格表の生成プログラムが最終モードで実行されていない場合のみです。

注: 価格表の価格は、手動で変更することはできません。

通貨コードがブランクの場合、価格表は作成されません。

価格表の印刷

価格表を印刷すると、価格表の印刷プログラム (R45524) が実行されます。カラム パターンを指定すると、レポートにカラムが表示されます。カラム パターンを指定しない場合は、レポートの調整金額の合計カラムに全ての調整の合計が表示されます。

顧客別価格表の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格表明細]	W45520B	<p>[上級操作] (G423114)、[顧客別価格表]</p> <p>[価格表の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックするか、レコードを選択して[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>価格表を生成するには、[フォーム] メニューの [価格の生成] をクリックします。</p> <p>価格表を印刷するには、[フォーム] メニューの [価格表の印刷] をクリックします。</p>	<p>顧客別価格表と価格表構造を作成します。</p> <p>顧客別価格表を改訂します。</p> <p>価格表を生成します。</p> <p>価格表を印刷します。</p>
[品目の選択]	W45520D	[価格表明細] フォームで、[フォーム] メニューの [品目の選択] をクリックします。	価格表に含める品目を指定します。
[レベル分岐パターン]	W45520C	<p>[価格表明細] フォームで、[フォーム] メニューの [デフォルト・レベル分岐] をクリックします。</p> <p>または、[価格表明細] フォームでレコードを選択し、[ロー] メニューの [品目レベル分岐] をクリックします。</p>	デフォルトの数量レベル分岐と計量単位を入力するか、または品目固有のレベル分岐を入力します。
[価格調整の定義]	W4071A	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義]</p> <p>[調整タイプの処理] フォームで調整タイプを選択して、[選択] をクリックします。</p>	調整用の価格表グループを指定します。
[カラム・パターン]	W45520E	[価格表明細] フォームで、[フォーム] メニューの [カラム・パターンの設定] をクリックします。	<p>カラム パターンを使用して、価格表の調整をグループ化します。</p> <p>カラムと調整の表示方法を指定します。</p> <p>カラム パターン情報を指定しない場合は、全ての調整金額が 1 つのカラムにグループ化されます。</p>

価格表の作成と価格表構造の作成

[価格表明細] フォームにアクセスします。

顧客別価格表 - 価格表明細

OK(O) 検索(I) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

顧客

3001

Global Enterprises

価格表ID

21

SP

00001

価格表名

BIKES

記述

Bikes

有効開始日付

2006/05/14

有効終了日付

2006/05/14

スケジュール

.

事業所

30

Eastern Distribution Center

支払条件

001

1/10 Net 30

支払手段

通貨

USD

U.S. Dollar

レコード計量単位に基づく価格

レコードが取り込まれていません

グリッドのカスタマイズ

	品目 No.	品名	基準日	開始レベル	計量 単位	表示価格	調整コード	正味価格
--	-----------	----	-----	-------	----------	------	-------	------

[価格表明細] フォーム

[価格表名] “RETAIL” など、価格表の記述を入力します。

調整用の価格表グループの指定

[価格調整の定義] フォームにアクセスします。

[価格表から除外する] 価格調整を価格表プログラム (P45520) の処理対象から除外する場合、このチェック ボックスをオンにします。

カラム パターンを使った価格表調整のグループ化

[カラム・パターン] フォームにアクセスします。

[カラム・タイトル] (価格表カラム 1 タイトル) 価格表の 1 つ目のユーザー定義カラムのタイトルを入力します。
カラム パターン情報を指定しない場合は、全ての調整金額が 1 つのカラムにグループ化されます。このカラム 1 フィールドに値を入力することはできません。このフィールドは、調整用のデフォルトのカラムとして使用されます。

サーチ エージェントの作成

このセクションでは、サーチ エージェントの概要と作成方法について説明します。

サーチ エージェントについて

サーチ エージェントでは、比較条件を使用して複雑なクエリーを作成できます。値リストの値、値リストに含まれない値、範囲内の値、範囲外の値を選択できます。また、例示照会 (QBE) 行の比較条件を使用することもできます。条件は必要に応じて保存、管理、再利用、削除できます。サーチ エージェントを使用すると、関連する価格設定情報の確認に必要な照会を毎回行う必要がなくなります。サーチ エージェントは、価格調整の一括改訂 (P45550) プログラムと顧客別価格表 (P45520) プログラムの両方で使用されます。

関連項目:

第 6 章、「価格設定の使い方」、「価格設定ワークベンチの使い方」、67ページ

第 6 章、「価格設定の使い方」、「顧客別価格表の使い方」、73ページ

サーチ エージェントの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整の一括改訂]	W45550A	[上級操作](G423114)、[価格調整の一括改訂] サーチ エージェントを作成するテーブルとサーチ エージェント名を指定します。	サーチ エージェントは、F4511W テーブルでのみ動作します。
[サーチ・エージェントの改訂]	W45510F	[価格調整の一括改訂] フォームで、[フォーム] メニューの [サーチ・エージェントの改訂] をクリックします。 [エイリアス]、[名称]、[セキュリティ]、[すべてのフィールドを表示] の各チェックボックスで、必要な指定を行います。	サーチ エージェントの作成と改訂を行います。 注: セキュリティを有効にすると、サーチ エージェントの作成者しか改訂できません。
[値のリストの改訂]	W45510E	[サーチ・エージェントの改訂] フォームでレコードを選択し、[ロー] メニューの [値リストの改訂] をクリックします。 [値のリストの改訂] フォームで、関係タイプとサーチ エージェント値を指定します。	サーチ エージェントの検索条件を指定します。

サーチ エージェントの作成

[価格調整の一括改訂] フォームにアクセスします。

第 7 章

購買構造の利用

この章では、購買構造の概要と以下の方法について説明します。

- 価格設定用の購買構造の設定
- 購買構造の確認と改訂
- 直接価格調整の作成

購買構造について

購買構造とは、顧客の会社内の購買権限の組織構造をソフトウェアで表したものです。購買構造の各レベルは、階層と呼ばれます。階層は、社内の価格交渉を行う組織単位を表します。割引と価格交渉は、購買構造の各レベルに適用され、構造内の下位の階層に送ることができます。

購買構造を使用すると、顧客固有の複雑な価格設定を管理できます。購買構造を設定する場合は、顧客の組織構造に基づいて価格管理を設定します。たとえば、代理店など、品目を直接オーダーすることはないが価格を決定する権限を持つ組織単位に基づいて、価格を決定できます。

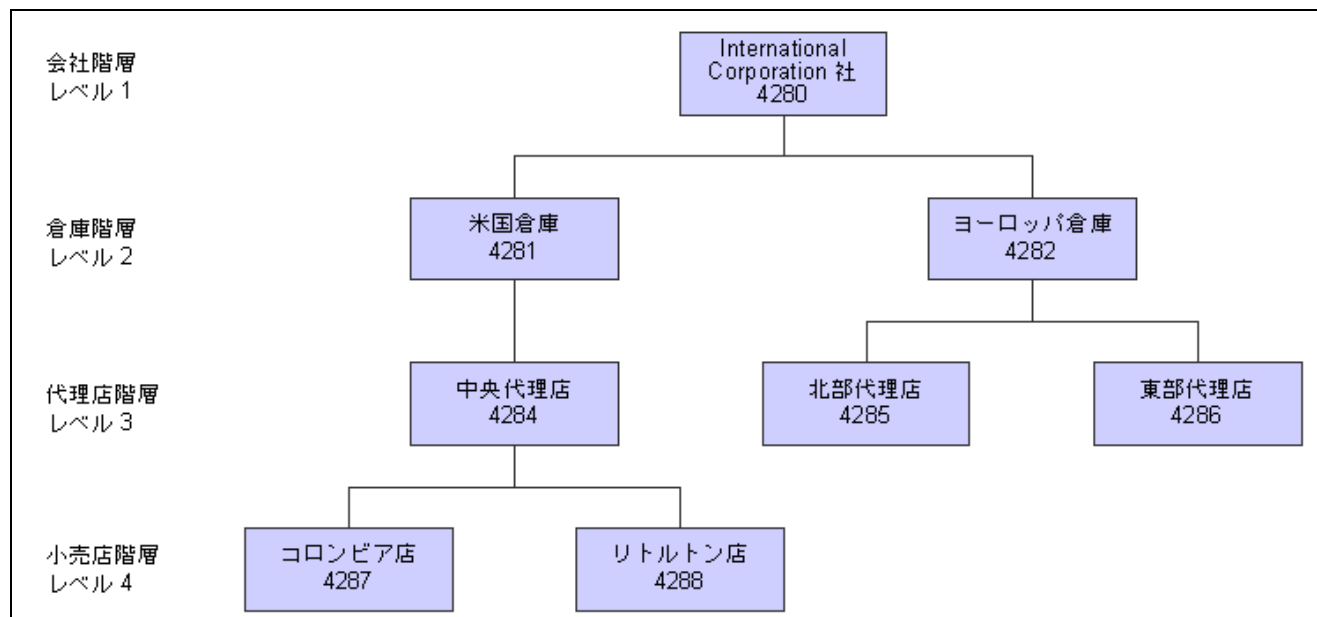
購買構造では、直接価格調整を使用します。直接価格調整とは、顧客の住所録番号と特定の価格調整を関連付ける方法です。

購買構造を設定すると、組織構造内の顧客の住所録番号間で親/子関係が設定されます。1 つの住所録レコードが親になり、その親に対して、1 つ以上の住所録レコードを子として指定できます。

購買構造の設定では、代理店（親）に提示する価格が小売店（代理店の子）にも提示されるように設定することができます。子が親の価格を継承するように購買構造を設定するには、価格調整スケジュールの改訂プログラム (P4070) の継承フラグ フィールドを選択します。

新しい会社を購買構造に追加したり、会社を構造内の別の階層レベルに移動する場合は、購買構造自体を更新します。

次の例は、組織内の購買構造を示しています。



一般的な購買構造の例

購買構造の階層レベルと継承について

会社に対して購買構造を作成する場合は、階層レベルと継承を指定します。組織構造を作成する場合は、住所録に階層レベルを設定します。継承の定義は、[価格調整スケジュールの改訂] フォームで直接価格調整を作成する際に行います。階層レベルと継承フラグ オプションに基づいて、定義する階層レベルより下の階層レベル（番号が大きい階層）が調整を継承するかどうかが決まります。

次の表は、購買構造内の各単位に適用する価格調整の例を示しています。

組織単位	住所録番号	階層レベル	継承	適用される価格調整
International Corporation 社	4280	1	する	International Corporation 社の全ての代理店（例：階層レベル 3 の中央代理店）は、全ての品目について、基本価格から 3% の割引を受けます。この割引は企業割引です。
米国倉庫	4281	2	する	米国倉庫は、品目 A の売上が 10,000 単位に達した場合に、1 単位につき 1 ドル (USD) の地域リベート（階層別リベート）を受け取ります。

組織単位	住所録番号	階層レベル	継承	適用される価格調整
中央代理店	4284	3	する	中央代理店は、5% の販売促進割引を受けます。
コロンビア店	4287	4	する	International Corporation 社の大型販売店の 1 つであるコロンビア店は、品目 A の注文数が 100 単位以上で、基本価格から 6% の割引を受けます。

コロンビア店が品目 A を 150 単位注文した場合、購買構造機能により価格調整が適用され、次の表のように正味価格が計算されます。

価格調整	単価	その他
基本価格	10.00 USD	
小売店割引 (6% 割引) コロンビア店 (4287)	.60–	
販売促進割引 (5% 割引)	.47–	
地域リベート (階層リベート)		1.00 USD
企業割引 (3% 割引)	.30–	
正味価格	8.63 USD	

価格調整スケジュールの改訂プログラムで、継承フラグを選択しないで購買構造を設定すると、コロンビア店には階層レベル割引の 6% しか適用されず、その他の階層レベルの価格調整は継承しません。

価格設定用の購買構造の設定

このセクションでは、購買構造の設定の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 特定の日付の組織構造でルートになる親の特定
- 住所録組織構造の表示および改訂プログラム (P0150) の処理オプションの設定

購買構造の設定について

顧客の購買構造は、住所録組織構造の表示プログラム (P0150) で定義します。購買構造を定義する場合は、顧客の住所録番号を使用して、構造内の親/子関係を指定します。

購買構造を設定すると、各レコードの階層レベルが自動的に設定されます。階層レベルの記述を使用すると、組織構造の親/子関係の構造を管理できます。階層記述の設定時には、以下の情報を指定します。

- 子の住所録番号に対応する親の住所録番号
- 親の住所録番号と子の住所録番号の関係に適用される有効開始日付と有効終了日付
- 構造の各階層の名前

購買構造で価格調整が処理されるには、価格管理固定情報で価格調整の決定方法を指定する必要があります。購買構造では直接価格調整が処理されるため、価格調整の決定方法は、1（価格設定の住所番号）または 2（スケジュールと住所番号）にする必要があります。

価格管理固定情報では、販売価格設定の構造タイプを指定する必要もあります。また、購買構造で価格調整を処理する場合に、出荷先住所を使用するかどうかを指定できます。

購買構造の組織概要を定義したら、構造内の階層レベルと住所録レコードごとに、直接価格調整を定義します。

関連項目:

第 7 章、「購買構造の利用」、「直接価格調整の作成」、85ページ

第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、111ページ

事前設定

このセクションのタスクを実行する前に、住所録組織構造の表示プログラム (P0150) の処理オプションで、[処理] タブの [階層記述] オプションに「1」を入力します。

価格設定用の購買構造の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[親/子構造の処理]	W0150D	[住所録組織構造] (G01311)、[構造の改訂]	親/子構造を特定します。
[親住所/子住所の改訂]	W0150A	[親/子構造の処理] フォームで[追加]ボタンをクリックします。 見出し域の[親住所No.]フィールドに親を指定し、詳細グリッドの[住所 No.]フィールドに子を指定します。 [住所 No.] フィールドで指定した子を他の子の親として使用し、次に別の子を他の子の親に使用して組織構造の作成を続行します。	階層を使用して組織構造を作成します。
[有効日付親住所レコードの検索]	W0150F	[親/子構造の処理] フォームで構造タイプと住所番号を検索し、[ロー]メニューの[階層記述]をクリックします。	特定の日付で、組織構造のルート親を特定します。
[階層記述の改訂]	W0150E	[有効日付親住所レコードの検索] フォームで有効日付を入力し、[親住所No.の検索]をクリックして[OK]をクリックします。 [階層記述の改訂] フォームで、階層番号、記述、有効開始日付、有効終了日付などの組織構造の階層記述を入力します。	階層に関する情報を入力します。

価格設定用の購買構造の設定

[親/子構造の処理] フォームにアクセスします。

[構造タイプ]

ユーザー定義コード (01/TS) の値を入力し、住所録システムに独自の階層を持つ組織構造のタイプ (電子メールなど) を指定します。

売掛管理システムに親/子組込規則を作成する場合は、この構造タイプをブランクにします。

[親住所No.]

親会社の住所録番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。このフィールドに入力した値により、F0150 テーブルの構造タイプがブランクのレコードが更新されます。この住所番号は、検証用として F0101 テーブルに存在する必要があります。以下は、親番号のある住所録レコードの例です。

親会社を持つ子会社

本社を持つ支店

請負業者の作業現場

住所録組織構造の表示および改訂 (P0150) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

以下の処理オプションでは、処理に関する値を指定できます。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. ワークフロー情報 | ワークフロー処理情報を表示するかどうかを指定します。値は以下のとおりです。
ブランク: ワークフロー処理情報を表示しません。
1: ワークフロー処理情報を表示します。 |
| 2. 階層記述 | ルート親住所の有効日付に基づく階層構造の定義を許可するかどうかを指定します。構造のルート親とは親/子構造の最上位レベルであり、親を持つことはできません。有効値は以下のとおりです。
ブランク: 階層構造を定義できません。
1: 階層構造を定義できます。 |

デフォルト

以下の処理オプションでは、デフォルト値を指定できます。

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 日付のデフォルト | 有効開始日付と有効終了日付がブランクの場合に、[親住所/子住所の改訂] フォームにデフォルトの日付をロードするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
ブランク: デフォルトの日付をロードしません。
1: デフォルトの日付をロードします。 |
| 2. デフォルト組織構造タイプ | 住所録組織構造の表示プログラムへのアクセス時に、組織構造フィールドに最初に表示される値を指定します。 |

購買構造の確認と改訂

このセクションでは、購買構造の改訂の概要と、購買構造の確認と改訂方法について説明します。

購買構造の改訂について

購買構造の確認と改訂は、購買構造の表示プログラム (P450150) で行うことができます。顧客の住所番号を入力すると、その住所番号を含む組織の購買構造が表示されます。

価格調整情報は、[購買構造の表示] フォームで確認または改訂できます。また、ルート住所 (購買構造の最上位の親) を確認することもできます。

デフォルトの購買構造タイプが表示されるようにするには、処理オプションを設定します。この処理オプションをブランクにすると、システム固定情報で指定した構造タイプが使用されます。

関連項目:

第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、111ページ

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整明細の設定」、58ページ

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整スケジュールの作成」、56ページ

購買構造の確認と改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[購買構造の表示]	W450150A	[価格照会] (G423113)、[購買構造の表示] 購買構造のルート住所を確認するには、[フォーム]メニューの[トップ]をクリックします。[名称]カラムのフォルダを展開すると、ルート(親)住所の子を表示できます。	購買構造内の関連住所と子住所を確認および編集します。
[価格設定規則の表示]	W450150C	[購買構造の表示] フォームでレコードを選択し、[ロー]メニューの[価格規則]をクリックします。	顧客に適用する価格調整(直接価格調整または価格調整スケジュール)の確認と編集を行います。 このフォームから、調整明細情報の改訂に必要なフォームにアクセスすることもできます。

購買構造の確認と改訂

[購買構造の表示] フォームにアクセスします。

直接価格調整の作成

このセクションでは、直接価格調整の概要、事前設定、および直接価格調整の作成方法について説明します。

直接価格調整について

特定の製品または製品のセットについて、価格と割引の交渉を特定の顧客と行う場合があります。顧客ごとに価格調整を行う場合は、直接価格調整を設定します。

直接価格調整では、価格と割引が顧客に直接関連付けられるため、価格を価格スケジュールに関連付ける必要がなくなります。直接価格調整と顧客の関連付けには、顧客の住所録番号が使用されます。

顧客固有の価格設定のタイミングを管理するには、直接価格調整が有効になる日付を設定します。たとえば、全ての顧客に対して 5 月末までプロモーション価格を適用しており、特定の顧客に対して 6 月末まで延長する場合は、[価格調整スケジュールの改訂] フォームの [有効終了日付] フィールドに、6 月の日付を入力します。価格の有効日付は、システム固定情報の [販売価格基準日] フィールドの値を使用して処理されます。

価格調整は、複数を同時に処理することができます。価格調整の処理は、直接価格調整として顧客番号別に行うか、調整スケジュール別に行うか、または両方で行うかを選択できます

直接価格調整の顧客番号別と調整スケジュール別の両方で価格調整を行う場合は、調整の順序に注意する必要があります。通常は、直接価格調整（顧客の住所番号別）が最初に処理され、次にスケジュールで指定した調整が処理されます。直接価格調整と調整スケジュールの両方を組み合わせた場合、調整順序を選択して価格調整の方法に反映できますが、調整を適用できるのは、それぞれ 1 回のみです。

注: 直接価格調整は必須であり、価格管理システムの購買構造機能の主要な機能です。直接価格調整は、購買構造のレベルごとに設定する必要があります。

事前設定

価格管理固定情報で、価格設定用に顧客の出荷先住所が設定されていることを確認します。

直接価格調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整スケジュールの改訂]	W4070C	[受注管理システム・セットアップ] (G4241)、[顧客請求指示] [顧客マスターの処理] フォームで、直接価格調整を適用する顧客を検索して選択し、[ロー] メニューの [価格調整スケジュール] をクリックします。	直接価格調整を作成します。

直接価格調整の作成

[価格調整スケジュールの改訂] フォームにアクセスします。

[階層レベル]

この調整を適用する構造内の階層レベルを示す番号を入力します。このレベル以下の階層に調整が適用されます。この番号は、[集計階層レベル] フィールドに指定した値以下である必要があります。購買構造では、階層レベル “1” は最上位のレベルを表します。1 より大きい値は、最上位より下の階層レベルを表します。

購買構造と階層別リポートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。

[集計階層レベル]

購買構造で集計する金額またはリポートの階層レベルを指定する番号を入力します。集計階層レベルは、受け取り先階層レベルと同じかそれ以下の値を指定します。購買構造では、階層レベル “1” は最上位のレベルを表します。1 より大きい値は、最上位より下の階層レベルを表します。

購買構造と階層別リポートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。

[受取先階層]

購買構造の受け取り先階層レベルを指定する番号を入力します。受け取り先とは、累積されたりべート金額の受け取り先です。購買構造では、階層レベル“1”は最上位のレベルを表します。1 より大きい値は、最上位より下の階層レベルを表します。

購買構造と階層別リベートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。

[継承フラグ]

購買構造で、価格調整を子の住所録番号が継承するかどうかを指定します。購買構造と階層別リベートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。値は以下のとおりです。

- 0: 価格調整を継承しません。
- 1: 価格調整を継承します。

第 8 章

一時変更検索グループの定義

この章では、一時変更検索グループの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 複合価格グループの使い方
- 価格グループ組み合わせの生成
- オーダー明細グループの定義

一時変更検索グループについて

基本価格の定義および管理の処理を簡単にするために、同様の特性を持つ顧客や品目に対して価格グループを設定します。複合価格グループは、特定の品目タイプや顧客の所在地、業種、販売量などのカテゴリコードに基づくサブグループで構成されます。一時変更検索グループとは、調整定義に指定したカテゴリコードに基づいて価格を検索する方法です。

一時変更検索グループを定義して、カテゴリを指定します。1 から 4 までのカテゴリコードを使用できます。一時変更価格グループを定義したら、調整定義に添付します。これらのフィールドを使用して顧客をグループ化することで、特定のグループに対する価格設定を定義できます。

調整定義に一時変更価格グループを入力した場合、その価格調整はこの一時変更価格グループにしか適用されません。以下の方法で品目または顧客をグループ化して、価格を定義することができます。

- 品目には、事業所品目情報のカテゴリコードを使用します。
- 顧客には、顧客マスター情報のカテゴリコードを使用します。
- 受注オーダーには、特定の受注明細フィールドおよび優先情報のデフォルト値を使用します。

調整定義の使用時には、品目レコードまたは顧客レコードに一時変更グループと一致するカテゴリコードがあるかどうかを検索されます。一致するカテゴリコードが見つかった場合は、そのカテゴリコードに定義されている調整定義が使用されます。検索はカテゴリコードのみに基づいて行われます。

オーダー明細グループを使用して、特定の受注オーダー明細制御情報に基づいたオーダー行の調整定義を作成することができます。検索はカテゴリコードに基づいて行われるため、顧客価格グループまたは品目価格グループを割り当てる必要はありません。このセクションでは、オーダー明細グループの設定方法について説明します。

受注管理では、基本価格設定および価格管理の両方でグループを使用できます。

基本価格設定

基本価格設定では、以下の処理を行うことができます。

- 簡易価格グループまたは複合価格グループのいずれかを使用します。
- 顧客請求指示で、事業所レコードの品目および顧客に各価格グループを添付します。

価格管理

価格管理では、以下の処理を行うことができます。

- 簡易価格グループまたは複合価格グループのいずれかを使用します。
- 価格調整定義に複合価格グループを添付します。

例:販売調整における一時変更検索グループの使い方

タイプとモデル年式という 2 つのカテゴリ コードによって識別される前年モデルのマウンテン バイク品目の在庫を減らすために、季節限定の販売促進を実施するとします。複合品目グループを設定して、タイプ、メーカー、色、モデル年式によってマウンテン バイクが特定されるようにします。

地域、部門、営業担当者、売上高に基づいて、顧客の複合価格グループを設定します。カテゴリ コードの部門に定義されている、マウンテン バイクを販売する顧客は、価格調整の利得を受ける対象となります。

品目グループおよび顧客グループに対して一時変更検索グループを設定し、この 2 つの一時変更検索グループを“SEASONAL”という価格調整定義に添付します。マウンテン バイクを販売する顧客が前年モデルを発注すると、この価格調整が読み込まれます。

調達管理における価格管理の使い方

調整定義に一時変更価格グループを添付した場合、その価格調整は、この一時変更価格グループにしか適用されません。以下の方法で品目または仕入先をグループ化して、価格を定義することができます。

- 品目には、事業所品目情報のカテゴリ コードを使用します。
- 購買オーダーには、該当する購買明細フィールドを使用します。
- 仕入先には、仕入先マスターのカテゴリ コードを使用します。

購買オーダーの価格管理では、複合品目グループおよび複合仕入先グループがサポートされています。基本価格設定では、複合グループはサポートされていません。

一時変更検索グループを定義して、使用するカテゴリを指定します。1 から 4 までのカテゴリを使用できます。一時変更価格グループを定義したら、調整定義に添付します。

調整定義の使用時には、品目レコードまたは仕入先レコードに一時変更グループと一致するカテゴリ コードがあるかどうかを検索されます。一致するカテゴリ コードが見つかった場合は、そのカテゴリ コードに定義されている調整定義が使用されます。検索はカテゴリ コードのみに基づいて行われます。

購買オーダーを入力する際は、ほとんどの明細情報はシステム デフォルト、仕入先マスター情報、仕入先請求指示、および品目情報から読み込まれます。これらのフィールドを使用して仕入先をグループ化することで、特定のグループに対する価格設定を定義できます。

事前設定

このセクションの操作を実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 顧客価格グループの設定
- 品目価格グループの設定

複合価格グループの使い方

このセクションでは、複合価格グループの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 複合顧客価格グループの設定
- 複合品目価格グループの設定

複合価格グループについて

基本価格の定義および管理の処理を簡単にするために、同様の特性を持つ顧客や品目に対して価格グループを設定します。複合価格グループには、簡易価格グループと同じ情報に加えてサブグループを設定します。サブグループは、特定の品目タイプ、顧客の所在地域、業種、売上高などのカテゴリコードに基づくグループです。複合顧客価格グループおよび複合品目価格グループを設定することができます。

複合価格グループは、一時変更検索グループとして使用することができます。複合価格グループを設定した後、その価格グループ名を調整定義に入力して、一時変更価格グループとして定義します。

重要: 複合価格グループは、通常の受注オーダー調整で使用できますが、価格管理を使用している場合は購買オーダー調整でしか使用できません。複合価格グループを購買オーダーで使用するには、価格管理で購買オーダー調整を設定しておく必要があります。

顧客価格グループ

複合顧客価格グループの定義では、最大 10 個のカテゴリコードを使用することができます。カテゴリコードを使用して、価格設定グループ内にサブグループを作成し、それぞれに別の価格を請求することができます。たとえば、“RETAIL”（小売）という顧客グループ内にカテゴリコードを使用してサブグループを作成し、サブグループの業種、地域、または売上高ごとに異なる価格を顧客に請求することができます。

顧客は、顧客請求指示フォームで顧客明細グループに添付しなくても、顧客明細グループに含めることができます。顧客は、顧客のカテゴリコードに応じて複数のグループに含めることができます。

入力したカテゴリコードの順序に従って、関連フォームにカテゴリコードフィールドが表示されます。カテゴリコードの順序によって、価格の検索方法が変わることはありません。

品目価格グループ

複合品目グループを使用すると、柔軟な価格設定構造の設定が可能になります。複合品目価格グループの定義では、最大 10 個のカテゴリコードを使用することができます。

たとえば、MARKER というグループに 2 種類のペン（マーカーとボールペン）がある場合、それぞれのペンタイプに別々の価格を指定できます。ペンに対するオーダーを入力すると、その品目のカテゴリコードを使用して、ペンがマーカーかボールペンかがチェックされ、該当する価格が取り込まれます。

入力したカテゴリコードの順序に従って、関連フォームにカテゴリコードフィールドが表示されます。カテゴリコードの順序によって、価格の検索方法が変わることはありません。

有効日付カテゴリコード

将来の日付で有効になるカテゴリコードの値を新規に割り当てる場合には、有効日付カテゴリコードを使用します。価格管理を使用している場合は、有効日付カテゴリコードを使用して、価格設定を割り当てる顧客グループを作成できます。価格設定の変更時には、有効日付カテゴリコードの値に基づいて、顧客グループが自動的に更新されるようにすることができます。

有効日付カテゴリ コードを有効にするには、売掛管理固定情報を使用します。売掛管理固定情報の設定時には、[顧客マスターの改訂] フォームで [フォーム] メニューの [カテゴリ・コード] を選択してカテゴリ コードの値を追加することはできません。代わりに [有効日付カテゴリ] を選択してください。有効日付カテゴリ コードに入力した値を顧客マスターのカテゴリ コードに反映するには、有効日付カテゴリ コードの更新プログラム (R03012A) を実行します。

有効日付カテゴリ コードは、F03012A テーブルに保存されます。無効となったカテゴリ コードを削除するには、有効日付カテゴリ コードの除去プログラム (R03012B) を実行します。

有効日付カテゴリ コードの値を追加する場合は、F03012A テーブルにレコードを作成します。[有効日付カテゴリ・コードの改訂] フォームでは、有効日付が異なる複数のレコードを同時に入力することができます。有効日付カテゴリ コードのレコードを追加すると、[有効日フラグ] フィールドの値が、レコードが未使用であることを示す “N” に更新されます。有効日付カテゴリ コードの更新プログラムを実行すると、有効日付カテゴリ コード レコードの値が F03012 テーブルの顧客マスターのカテゴリ コードにコピーされ、[有効日フラグ] フィールドの値は “Y” に更新されます。

重要: 有効日付カテゴリ コードのレコードを入力する際、入力するレコードと前のレコードとの関連性はありません。このため、各レコードには必要な全ての情報を入力する必要があります。たとえば、カテゴリ コード 1 にあらかじめ値が設定されている場合に、カテゴリ コード 2 に値を設定して新しいレコードを追加するとします。この場合、その新しいレコードにカテゴリ コード 1 の値をもう一度入力する必要があります。入力しないと、新しいレコードのカテゴリ コード 1 はブランクになります。

事前設定

ユーザー定義コード 40/PC に価格グループ名が設定されていることを確認します。

複合価格グループの処理に使用するフォーム





フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[顧客価格グループの定義]	W4092G	<p>[価格管理] (G4222)、[顧客価格グループの定義]</p> <p>[価格グループ定義の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>最大 10 個のカテゴリコードフィールドに値を入力して顧客価格グループのサブグループを定義し、[フォーム] メニューの [変更保存] を選択します。</p>	複合顧客価格グループを設定します。
[品目価格グループの定義]	W4092C	<p>[価格管理] (G4222)、[品目価格グループの定義]</p> <p>[価格グループ定義の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>販売、購買、その他のカテゴリコードの値を最大 10 個入力して品目価格グループのサブグループを定義し、[フォーム] メニューの [変更保存] を選択します。</p>	複合品目価格グループを設定します。

複合顧客価格グループの設定

[顧客価格グループの定義] フォームにアクセスします。

顧客価格グループの定義 - 顧客価格グループの定義 i

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

価格グループ RETAIL Retail Customers

カテゴリ・コード01	<input type="checkbox"/>	販売地域	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード21	<input type="checkbox"/>
担当者	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード12	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード22	<input type="checkbox"/>
販売地域	<input type="checkbox"/>	業種	<input type="text" value="1"/>	カテゴリ・コード23	<input type="checkbox"/>
地域	<input type="checkbox"/>	売上高	<input type="text" value="2"/>	カテゴリ・コード24	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード05	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード15	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード25	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード06	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード16	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード26	<input type="checkbox"/>
1099レポート処理	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード17	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード27	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード08	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード18	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード28	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード09	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード19	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード29	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード10	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード20	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード30	<input type="checkbox"/>

[顧客価格グループの定義] フォーム

複合品目価格グループの設定

[品目価格グループの定義] フォームにアクセスします。

品目価格グループの定義 - 品目価格グループの定義 i

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

価格グループ BICYCLE Bicycles

[販売]		仕入先レポート・コード	<input type="checkbox"/>	倉庫プロセス・グループ2	<input type="checkbox"/>
販売カタログ区分	<input type="text" value="1"/>	基準計画ファミリ	<input type="checkbox"/>	倉庫プロセス・グループ3	<input type="checkbox"/>
補助区分	<input type="text" value="2"/>	陸揚費用規則	<input type="checkbox"/>	品目プール・コード	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード3	<input type="checkbox"/>	[その他のコード]		カテゴリ・コード6	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード4	<input type="checkbox"/>	出荷条件コード	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード7	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード5	<input type="checkbox"/>	商品出荷クラス	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード8	<input type="checkbox"/>
[購買]		循環搬卸カテゴリ	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード9	<input type="checkbox"/>
商品クラス	<input type="checkbox"/>	品目寸法グループ	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード10	<input type="checkbox"/>
商品補助クラス	<input type="checkbox"/>	倉庫プロセス・グループ1	<input type="checkbox"/>		

[品目価格グループの定義] フォーム

価格グループ組み合わせの生成

このセクションでは、価格グループ組み合わせの概要および以下の方法について説明します。

- 顧客価格グループの生成
- 品目価格グループの生成

価格グループ組み合わせについて

価格グループを設定して顧客および品目にグループ名を割り当てた後、顧客価格グループと品目価格グループの関係を生成します。価格グループの関係を生成して、価格設定に使用する顧客グループと品目グループの組み合わせを定義します。作成した顧客および品目グループ情報を価格設定に使用できるように、価格グループの組み合わせを生成してください。

以下のバッチ プログラムを使って、価格グループ組み合わせを生成します。

- 顧客価格グループの生成 (R40932)
- 品目価格グループの生成 (R40931)

これらのプログラムを実行すると、F4093 テーブルにレコードが生成されます。顧客グループまたは品目グループとカテゴリ コードの使用可能な組み合わせが F4093 テーブルに保存されます。データ選択を使用して、作成した明細レコードに対して最大 5 つのグループ コードを指定することができます。コードを指定しない場合は、全てのグループに対する組み合わせが生成されます。

顧客価格グループの生成

[価格管理] (G4222) の [顧客価格グループの生成] をクリックします。

品目価格グループの生成

[価格管理] (G4222) の [品目価格グループの生成] をクリックします。

オーダー明細グループの定義

このセクションでは、オーダー明細グループの概要、およびその定義方法について説明します。

オーダー明細グループについて

オーダー明細グループを使用して、受注明細フィールドの情報に基づいて、オーダーの価格設定行に調整を作成することができます。受注オーダーを入力する際に、明細フィールドのデータの一部が、システム デフォルト、顧客マスター情報、顧客請求指示、品目情報、および優先情報から読み込まれます。

[オーダー明細価格グループの定義] フォームには、オーダー入力時には表示されないフィールドがいくつか表示されます。以下のフィールドには、優先プロファイルのデータがデフォルトで表示されます。受注管理、調達管理、またはサービス管理のうち、どのシステムで価格管理を使用しているかによって、表示される値は異なります。

- [業種]
- [最終用途]

- [価格コード 1]
- [価格コード 2]
- [価格コード 3]
- [下限等級]
- [上限等級]
- [下限濃度]
- [上限濃度]

オーダー明細グループの定義時にこれらのフィールドを使用して、特定のグループに対する価格設定を定義できます。

調達管理における価格管理の使い方

オーダー明細グループを使用して、購買明細フィールドの情報に基づいて、オーダーの価格設定行に調整を作成することができます。購買オーダーを入力する際に、システム デフォルト、仕入先マスター情報、購買指示、および品目情報から明細情報が読み込まれます。

オーダー明細グループの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[オーダー明細価格グループの定義]	W4092I	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[オーダー詳細グループ]</p> <p>[価格グループ定義の処理] フォームで価格グループを選択して、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>[追加] ボタンをクリックすると、このプログラムの処理オプションで選択した値に基づいて、価格グループタイプコードが自動入力されます。[検索] をクリックすると、その価格グループタイプコードのみが表示されます。システム デフォルトを一時変更するには、新しい価格グループタイプコードを入力して [検索] をクリックします。このタイプコードに基づいて、該当するフォームが表示されます。</p> <p>8つのフィールドに1から8までの番号を入力し、グループ化する際に使用するカテゴリコードを指定します。最高8つまでの必要な数のフィールドに値を入力できます。</p>	オーダー明細グループを定義します。

オーダー明細グループの定義

[オーダー明細価格グループの定義] フォームにアクセスします。

オーダー詳細グループ - オーダー明細価格グループの定義 i					
OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)					
<div> <div>価格グループ</div> <div>EDI</div> <div>Electronic Commerce</div> </div>					
ビジネスユニット	<input type="text" value="1"/>	運送業者No.	<input type="text"/>	価格コード 1	<input type="text"/>
会社	<input type="text"/>	輸送モード	<input type="text"/>	価格コード 2	<input type="text"/>
契約No.	<input type="text"/>	経路コード	<input type="text"/>	価格コード 3	<input type="text"/>
見出しビジネスユニット	<input type="text"/>	中継点コード	<input type="text"/>	下限等級	<input type="text"/>
支払条件	<input type="text"/>	配送区域No.	<input type="text"/>	上限等級	<input type="text"/>
支払手段	<input type="text"/>	貨物運賃取扱コード	<input type="text"/>	下限濃度	<input type="text"/>
業種	<input type="text"/>	商品出荷クラス	<input type="text"/>	上限濃度	<input type="text"/>
最終用途	<input type="text"/>	出荷条件コード	<input type="text"/>	オーダータイプ	<input type="text"/>
関税状況	<input type="text"/>				

[オーダー明細価格グループの定義] フォーム

第 9 章

補足調整の使い方

この章では、補足調整の概要と以下の方法について説明します。

- 無償品調整の作成
- 無償品カタログの使い方
- 扱い高基準アップセルの使い方
- 丸め規則の使い方
- 扱い高基準の設定
- リベート調整の使い方
- 変動価格調整の使い方
- 通過逡減の使い方
- 粗利益調整の作成
- 期間延長条件調整の作成
- シップ アンド デビット調整の使い方

補足調整について

従来の品目行ごとの割引に加えて、販売促進のための補足調整を作成することができます。たとえば、販売時に無償品を付録として付けたり、オーダーの合計金額に基づいて値引（価格再設定）を行うことにより販売促進が図れます。また、見越し調整を作成して、販売コミッションを見越し入力することもできます。

無償品は、販売促進や展示用、またはオーダーされた製品の付録として使います。たとえば、特定の製品に対して、展示ケース、ポスター、またはボタン、帽子、シャツなどの販促品を無償品として提供し、販売促進に役立てることができます。

見越し調整を行うことにより、コミッションやロイヤリティなどの仕訳を入力することができます。これにより、オーダー価格を変更することなく、各金額をトラッキングできます。

重要: 受注オーダーの価格管理では、見越し調整、シップ アンド デビット調整、および価格再設定のみを使用できます。

この章で使用する共通フィールド

集計階層レベル

購買構造で金額またはリポートを集計する階層レベルを入力します。集計階層レベルは、受け取り先階層レベル以下に設定してください。購買構造では、階層レベル 1 が最上位のレベルを意味します。階層レベルが 1 より大きくなるに従って、購買構造のレベルは低くなります。

価格管理固定情報プログラム (P41001) で価格設定の構造タイプに購買構造を設定すると、この集計階層レベル フィールドが表示されます。このフィールドは、指定階層に定義されている住所別累積番号の扱い高基準調整の集計に使用されます。

受取先階層レベル

購買構造の受け取り先階層レベルを入力します。受け取り先とは、リポートの累計金額の受け取り先です。購買構造では、階層レベル 1 が最上位のレベルを表します。階層レベルが 1 より大きくなるに従って、購買構造のレベルは低くなります。

レベル分岐タイプ

F4072 テーブル内のレベル分岐方法を指定します。サポートされているレベル分岐は以下のとおりです。

数量: 受注オーダーで指定された数量に基づいて調整値が決まります。計量単位別に調整レベル分岐を設定することができます。

重量: 受注オーダー明細行の品目に割り当てられている重量を使用して、調整レベル分岐が決まります。

金額: 受注オーダー明細行の合計金額を使用して、調整レベル分岐が決まります。通貨換算を選択した場合は、金額による全てのレベル分岐が、通貨コードの小数点表示形式に基づいて保存、表示されます。

リポート受取先

ユーザー定義コード (UDC) 40/RA に設定されている値を入力して、リポート受け取り先を指定します。この受け取り先が、顧客のリポートが規定値に達した場合に作成するクレジット オーダーの受け取り先になります。顧客と受け取り先の住所は、同じでも異なってもかまいません。受け取り先はクレジット オーダーの販売先住所となります。

仕入先リポート・タイプ

UDC 45/SR に設定されている値を入力して、リポート請求の処理方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

- 1: 受注オーダー (デビット メモ) を作成して保証請求を作成する
- 2: 購買オーダー (クレジット オーダー) を作成して保証請求を作成する

注: このフィールドは、通常の購買リポートおよび仕入先販売証明リポートに対してのみ有効です。通常の購買リポートとは、ターゲットシステムが 1 (購買) で、かつ調整制御コードが 5 (リポート) の調整のことです。仕入先販売証明リポートとは、ターゲットシステムが " " (受注)、かつ調整制御コードが 7 (販売証明リポート) の調整のことです。どちらのリポート タイプも仕入先リポートになります。

このフィールドは、リポート請求の生成プログラムで使用されます。リポート請求の生成プログラムを実行すると、リポートを請求するかどうか決まります。請求する場合は、仕入先に請求書を送付するか (リポート請求タイプが 1 の場合)、または貸方の買掛金に入力する (リポート請求タイプが 2 の場合) かのいずれかが決まります。

無償品調整の作成

このセクションでは、無償品調整の概要、事前設定、および無償品調整の作成方法について説明します。

無償品調整について

無償品は、通常は販促品として使用されます。たとえば、販売促進として、顧客がモーター オイルを 10 ケース購入した場合に、1 ケースを無料で付けることができます。無償品は、販売促進や展示用、またはオーダーされた製品の付録として使うこともできます。たとえば、展示ケース、ポスター、またはボタンや帽子などの販促品を無償品として提供し、販売促進に役立てることができます。

無償品を添付する有効な調整を作成する必要があります。無償品の基準を設定する際に、無償品の価格と数量の適用方法を定義します。また、無償品の価格が実際に販売される製品価格にどのように影響するかについても定義します。

無償品カタログに複数の無償品を指定することができます。これにより、オーダーが基準を満たした場合に、顧客はカタログ内の無償品を選択できます。オーダー品目が基準を満たし無償品カタログが提供されている場合に、ユーザーは受注オーダーまたは購買オーダーに関連付けされている無償品を参照できます。

無償品は、どの調整にも関連付けることができます。以下の項目を指定します。

- 提供する無償品の数量
- 無償品が在庫品目かどうか
- 無償品の単価（必要時）

ほとんどの場合、この価格はゼロになります。ただし、ある品目を購入すると対象品目を割引価格で購入できるといった販売促進を展開する場合は、対象品目に値引価格を指定することが可能です。

無償品調整の定義時に価格グループを入力した場合は、調整明細ではその価格グループがデフォルトとして使用され、変更することはできません。

調達管理の価格管理における無償品調整の使い方

購買オーダー時に、販売促進や展示用、またはオーダーした製品の付録として、仕入先から商品を受け取ることがあります。その場合は、受注オーダーの調整と同じ方法で、購買オーダーの無償品調整を入力します。

無償品をオーダーするためのカタログを設定することができます。無償品カタログを使用すると、仕入先から提供されている販売促進をトラッキングすることができます。無償品提供の基準を満たす数量の品目をオーダーすると、無償品カタログ プログラム (P4502) から無償品の選択を求められます。

注: 無償品カタログ プログラムでは、調達管理の行レベルでの調整がサポートされています。無償品カタログでは、購買オーダーのバスケットまたはオーダー レベルの調整はサポートされていません。

事前設定

調整を定義します。

参照: [第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」](#)、[「調整明細の設定」](#)、58 ページ

無償品調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[無償品の改訂]	W4073A	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整詳細の改訂]</p> <p>[調整明細の処理] フォームで [価格調整コード] を入力して、[追加] をクリックします。</p> <p>[優先階層の選択] で階層を選択して、[選択] をクリックします。</p> <p>[価格調整明細の改訂] フォームでレコードを追加して、[ロー] メニューの [無償品] を選択します。</p> <p>または、[調整明細の処理] フォームで、無償品が設定されている調整を検索し、[選択] をクリックします。</p> <p>[価格調整明細の改訂] フォームでレコードを選択して、[ロー] メニューの [無償品] を選択します。</p>	無償品調整の作成と改訂を行います。

無償品調整の作成について

[無償品の改訂] フォームにアクセスします。

価格/調整詳細の改訂 - 無償品の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) ロー(R) ツール(T)







開始数量 EA 通貨コード

有効開始日付 有効終了日付

レコード 1 - 2 グリッドのカスタマイズ

品目 No.	オーダー数量	単位	関連価格	行タイプ	オーダーあたり数量	無償品カタログ
4100	1	LT		S	2.00	DRINK

[無償品の改訂] フォーム

[オーダー数量]

無償品調整の対象数量を入力します。

[関連価格]

価格設定または割引方針に設定されている関連品目の価格を入力します。たとえば、1 つ買えば 2 つ目は無料の方針の場合、無料で提供される品目が関連品目になります。関連品目の数量単位で、価格を入力します。

[オーダーあたり数量]

[価格調整明細の改訂] フォームの [開始レベル] で入力した数量に加えて、追加の無償品を受け取るのに購入する必要がある数量を指定します。

たとえば、[開始レベル] の値が 10、[オーダーあたり数量] の値が 3 の場合は、13 個以上のオーダーの場合に、顧客は追加の無償品を受け取ります。

オーダー数量が定義したレベル分岐に達した場合に、顧客は無償品を受け取ります。さらに、オーダー数量が [開始レベル] フィールドの値を超過する場合は、[オーダーあたり数量] の値の倍数に達するたびに無償品を受け取ります。この例では、10 個オーダーすると最初の無償品を受け取り、さらに 3 個ごとに無償品を受け取ります。オーダーが 25 の場合、顧客は [オーダー数量] フィールドで指定した数に 5 を乗じた数の無償品を受け取ります。5 は、[開始レベル] の値の超過部分に 3 の倍数がいくつあるかを示しています。[開始レベル] の値が 10 なので、13、16、19、22、25 の計 5 回分の無償品を追加で受け取ることができます。

以下の計算が実行されます。

オーダーあたり数量係数 = ((オーダー数量) - (開始レベル)) / (オーダーあたり数量)

無償品合計数 = (無償品オーダー数量) + (無償品オーダー数量) * (オーダーあたり数量係数)

無償品カタログの使い方

このセクションでは、無償品カタログの概要、事前設定、および無償品カタログの作成方法について説明します。

無償品カタログについて

無償品カタログには、複数の無償品を指定することができます。これにより、顧客はオーダーが基準を満たした場合に受け取る無償品を選択できます。たとえば、サラダドレッシングを 10 ケース以上オーダーした顧客は、無償のサラダドレッシングを 1 ケース受け取るとします。顧客は、無償品カタログから好みのサラダドレッシングを選択します。

無償品カタログは、無償品が適用される品目、数量、またはその両方の基準をオーダーが満たした場合に有効になります。受注オーダーまたは購入オーダーで必要な品目または数量を指定すると、無償品カタログを参照するようにプロンプトが表示されます。

無償品の改訂プログラム (P4073) で、カタログに含める無償品の価格を設定します。無償品の有効日付も指定できます。

受注オーダーには、バスケットレベルまたはオーダーレベルの調整で適用される無償品の組み合わせを設定できます。無償品調整が適用される場合、そのバスケットグループまたはオーダーグループの最初の明細行に関連付けられます。

注: 複数の無償品がオーダーの同じ明細行の品目に添付される場合 (たとえば、“1 つ買えば 2 つ目は無料” の販促品を 10 買う場合)、同じ無償品が全 10 品目に付きます。明細行の無償品が分割されることはありません。

無償品の提供

オーダー入力時にオーダー品目が無償品の基準を満たすと、システムから通知があります。オーダーが基準を満たしたときに [OK] をクリックすると、無償品が提供される旨の警告メッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、無償品の提供プログラム (P45731) にアクセスして、無償品を選択します。

注: オーダーが無償品の基準を満たした場合にメッセージが表示されるようにするには、受注オーダー入力プログラム (P4210) または購買オーダー入力プログラム (P4310) で、無償品の警告メッセージを表示するための処理オプションを有効にする必要があります。

事前設定

このセクションの操作を実行するには、まず以下の操作を行う必要があります。

- 受注オーダーが無償品の基準を満たした場合にメッセージが表示されるようにするには、受注オーダー入力プログラム (P4210) の処理オプションの [処理] タブにある [デフォルトの無償品に対する警告] を設定します。
- 購買オーダーが無償品の基準を満たした場合にメッセージが表示されるようにするには、購買オーダー入力プログラム (P4310) の処理オプションの [表示] タブにある [無償品カタログ] を設定します。

無償品カタログの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[無償品カタログの改訂]	W4502B	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[無償品カタログ] [無償品カタログの処理] フォームで [追加] ボタンをクリックします。	無償品カタログの作成と改訂を行います。
[無償品の提供]	W45731A	[受注オーダー処理] (G4211)、[受注明細] [受注残および完了オーダー照会] フォームで [追加] ボタンをクリックします。 [受注オーダー明細の改訂] フォームでオーダー情報を入力して、[OK] をクリックします。	無償品カタログから無償品を提供します。 オーダー品目が無償品の基準を満たした場合、オーダー入力時にシステムから通知があります。
[無償品カタログからの品目選択]	W45731B	[無償品の提供] フォームでレコードを選択して、[ロー] メニューの [無償品カタログからの品目選択] を選択します。	無償品カタログから品目を選択します。 オーダーを照会すると、提供されている無償品がオーダーの詳細グリッドに表示されます。

無償品カタログの作成

[無償品カタログの改訂] フォームにアクセスします。

無償品カタログ - 無償品カタログの改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) ツール(T)

無償品カタログ

DRINK

Sports Drinks

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

		品目 No.	記述	有効開始 日付	期限終了 日付
<input checked="" type="radio"/>		4100	Sport Drink, Lime	2005/07/15	2005/09/05
<input type="radio"/>					

[無償品カタログの改訂] フォーム

[無償品カタログ]

無償品の基準を満たした場合に顧客が選択できる品目グループを入力します。

無償品カタログと記述を入力すると、UDC 45/FG に新しいレコードが作成されます。

扱い高基準アップセルの使い方

このセクションでは、扱い高基準のアップセルの概要、事前設定、および扱い高基準のアップセル価格の作成方法について説明します。

扱い高基準アップセルについて

顧客に価格の割引が適用される大口購買を勧める場合に、調整および規定値（パーセント）を指定して、オーダー行がアップセル通知の基準を満たしたときに通知するタイミングを決めることができます。

アップセル通知を有効にするには、受注オーダー入力プログラムの処理オプションの [扱い高アップ・セールス] タブにある [許容範囲内のアップセルに基づいた取扱高に対する警告] に規定値（パーセント）を入力してください。この規定値で、通知のタイミングを指定します。受注オーダー行でオーダーした数量をアップセルのパーセント分だけ増やした値が計算され、アップセルの機会がチェックされます。次に、その増加を行った場合に次の数量分岐に到達するかどうか判断されます。

たとえば、アップセル調整の数量分岐が 10 EA (個)、規定値が 15% に設定されているとします。オーダー数量として数量 9 を入力した場合、9 の 15% 増しは 10.35 になり次のレベル分岐の基準を満たしているため、アップセル警告が表示されます。この場合、規定値が 10% であれば、9 の 10% 増しは 9.9 なのでアップセル警告は表示されません。この例では次の計算式が使用されます。

(オーダーした数量 × 規定値 (パーセント)) + (オーダーした数量)

$$(9 \times 15\%) + 9 = 10.35$$

F4071 テーブルで扱い高基準アップセル情報が処理されます。

受注オーダー明細行入力時に、オーダー行にアップセルの機会があると、通知が表示されます。警告メッセージが表示され、[アップセルあり] フィールドにチェックマークが表示され、[ロー] メニューの [扱い高基準のアップセル] が有効になります。そのオーダー行に存在する全てのアップセルの機会が表示されます。理由コードとレベル分岐を指定して、[受注オーダー明細の改訂] フォームに選択した数量を反映させ、受注オーダー価格および価格履歴 (P4074) プログラムを更新します。

事前設定

このセクションの操作を実行するには、まず以下の操作を行う必要があります。

- 受注オーダー入力プログラムの処理オプションの [扱い高アップ・セールス] タブにある [許容範囲内のアップセルに基づいた取扱高に対する警告] に規定値 (パーセント) を定義します。
- 受注オーダーの入力時にアップセルの機会の検索に調整を含めるかどうかを価格調整の定義で指定します。

扱い高基準アップセルの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[調整タイプの数量分岐]	W40722E	<p>[受注オーダー処理] (G4211)、[受注明細]</p> <p>受注オーダーの入力ステップを実行します。</p> <p>レベル分岐を選択します。選択した数量が [受注オーダー明細の改訂] フォームに表示され、ロー終了時に受注オーダー価格が更新されます。この情報は、価格履歴プログラムに表示されます。</p>	扱い高基準のアップセル価格を作成します。

扱い高アップセル価格の作成

[調整タイプの数量分岐] フォームにアクセスします。

丸め規則の使い方

このセクションでは、丸め規則の概要、事前設定、および丸め規則の設定方法について説明します。

丸め規則について

単価の計算に適用する丸め規則を指定することができます。たとえば、丸め金額を最も近いセントの値または 50 の倍数に定義することができます。また、合計金額が 1,000.00 より大きい場合にセントを切り捨てるかどうかを指定することもできます。丸め規則は、顧客、品目、通貨コードなどに基づいて設定することができます。

丸め規則の適用箇所は、価格調整スケジュールに表示される丸め調整の順序に従います。以下の表は、丸め規則に使用される 2 つの調整スケジュールの例を示しています。

スケジュール	順序
スケジュール A	10 基本価格調整 20 販売促進割引 30 丸め調整 この例では、丸め調整は最後に処理されます。最終単価の計算前に丸め調整が行われます。
スケジュール B	10 基本価格調整 20 丸め調整 30 見越し調整 この例では、丸め調整は見越し調整の処理前に行われます。

丸め規則を使用するには、価格調整の定義 (P4071) プログラムで調整制御コードを丸め調整に指定する必要があります。丸め情報は価格調整明細フォームに表示され、受注オーダーまたは購買オーダーなどのターゲット システムの規則が計算されます。

丸め規則の処理では、以下のテーブルが使用されます。

- F4072
- F4074
- F40UI74
- F4071
- F4070

事前設定

調整制御コード UDC テーブル (40/CO) に丸め調整 UDC (8) を設定します。

丸め規則の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[丸め規則の改訂]	W95701B	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[丸め規則の設定] [丸め規則の処理] フォームで[追加] ボタンをクリックします。	丸め規則を設定します。
[調整制御の修正]	W4071C	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義] [調整タイプの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	丸め規則の調整制御コードを指定します。
[価格調整明細の改訂]	W4072A	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整詳細の改訂] [調整明細の処理] フォームで[価格調整コード] フィールドに値を入力して、[追加] ボタンをクリックします。 [優先階層の選択] フォームで優先階層を選択して、[選択] ボタンをクリックします。	丸め規則を調整に添付します。

丸め規則の設定

[丸め規則の改訂] フォームにアクセスします。

丸め規則の設定 - 丸め規則の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

丸め規則 *

mcround

丸め規則記述

multiple customer rounding

テスト・ワークベンチ

入力テスト値

出力テスト値

レコード 1 - 3

グリッドのカスタマイズ

	順序 番号	演算子1	相関 演算子	演算子 2	ブール 演算子	置換値 演算子
<input type="checkbox"/>	10	-3	>=	5		+
<input type="checkbox"/>	20	-3	<=	4		-
<input type="checkbox"/>						

[丸め規則の改訂] フォーム

[丸め規則]	丸め規則の名前を入力します。丸め規則の内容がわかる名前にします。
[丸め規則記述]	丸め規則の記述を入力します。
[順序番号]	丸め計算実行時に、丸めエンジンで使用する処理順序を入力します。
[演算子1]	[入力テスト値] の数字の検証位置を入力します。位置は、小数点との相対値で指定します。-2 は小数点の右側 2 番目の位置を指し、2 は小数点の左側 2 番目の位置を指します。たとえば、[入力テスト値] が 123.45 の場合、-1 を設定すると、小数点の右側 1 番目の位置、この場合は 4 の数字が検証されます。
[関連演算子]	関連記号を示す UDC (H95/RO) を入力します。この関連記号を使用して、[演算子1] と [演算子2] の値が検証されます。有効値は、「>」、「<」、「=」、「>=」、「<=」、または「<>」です。
[演算子2]	検証に使用する値を入力します。指定位置の数字が、関連演算子とこの値を使って指定した条件を満たす場合、ここで作成する置換規則が適用されます。
[ブール演算子]	行と行の論理関係を示す値を入力します。文字列「OR」、「AND」、またはブランクを指定します。
[置換値演算子]	システムのフィールドの詳細を説明する追加テキストを入力します。
[置換値]	置換位置で置換する値を入力します。
[置換位置]	置換位置を入力します。
[スキップ先]	計算を終了する場合は「END」、変更不要な場合はブランクにします。
[入力テスト値]	<p>行と行の論理関係を示す値を入力します。文字列「OR」、「AND」、またはブランクを指定します。</p> <p>新しい規則をテストする場合にこのフィールドを使用します。このフィールドに値を入力したら、[フォーム] メニューの [テスト] を選択します。テスト結果が [出力テスト値] フィールドに表示されます。</p>

扱い高基準の設定

このセクションでは、扱い高基準の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 扱い高基準調整の有効化
- 扱い高基準情報の設定

扱い高基準について

扱い高基準を使用すると、製品または製品グループのオーダー入力時に割引価格を提供できます。割引の基準には、金額、パーセンテージ、または再調達価格を指定します。また、扱い高基準は、一定レート価格設定または通貨逓減価格設定のいずれかに基づいて設定します。購買構造使用時は、[価格調整の定義] フォームの [集計階層レベル] の値を指定して、購買構造の金額またはリポートを集計するレベルを指定することができます。

扱い高基準調整は、クレジット オーダーの他に、特定の期間または特定のオーダー番号に対して設定することができます。前回のオーダー量と現在のオーダー量を組み合わせて、価格管理に使用するレベル分岐が決定されます。扱い高基準調整履歴の照会プログラム (P45200) を使用して、扱い高基準調整の累計を表示することができます。

注: 無償品カタログ プログラムでは、扱い高基準を使用できません。

指定した変更オーダーに対して、オーダー入力時に扱い高基準が表示されます。ただし、扱い高基準割引の対象となる既存オーダーを変更した場合は、オーダー入力時にオーダーの価格再設定は行われません。販売高レベル調整の再適用レポート (R45900) を実行して、変更したオーダーとその後のオーダーを更新する必要があります。

受注オーダー行が分割されると、F4078 テーブルと F4079 テーブルに、その情報が書き込まれます。扱い高基準処理時には、以下のテーブルも使用されます。

- F4072
- F4074
- F40UI74
- F4211

関連項目:

第 7 章、「購買構造の利用」、79ページ

第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、111ページ

事前設定

受注オーダー入力プログラム (P4210) の処理オプションの [処理] タブにある [販売高トランザクションの累計の調整] に値を指定します。

扱い高基準の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[調整制御の修正]	W4071C	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義]</p> <p>[調整タイプの処理] フォームで調整を検索して、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>[価格調整の定義] フォームの [フォーム] メニューから [調整制御の修正] を選択します。</p>	扱い高基準調整を有効にします。
[価格調整明細の改訂]	W4072A	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整詳細の改訂]</p> <p>[調整明細の処理] フォームで扱い高基準調整を検索して、[選択] ボタンをクリックします。</p>	扱い高基準情報を設定します。

扱い高基準調整の有効化

[調整制御の修正] フォームにアクセスします。

扱い高基準情報の設定

[価格調整明細の改訂] フォームにアクセスします。

[実績計量単位]	扱い高基準調整の数量の記録に使用される計量単位 (たとえば、個数は「EA」、箱数は「BX」) を入力します。
[高基準通貨]	扱い高基準価格調整の基準となる通貨コードを入力します。
[オーダー数]	扱い高基準調整用に定義されているオーダー数を入力します。

リベート調整の使い方

このセクションでは、リベート調整、リベート見越し調整、通常の購買リベート、仕入先販売証明リベート、階層別リベートの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- リベート規定値の定義
- 仕入先販売証明リベートの作成

リベート調整について

リベートは、一定期間に大量の商品またはサービスを顧客に購入してもらう目的で使用します。顧客の購買量が一定の規定値に達した場合に、顧客にリベートを提供することができます。

複数のオーダーの合計金額、合計数量、または合計重量に基づいてリベートを計算し、金額履歴テーブルに集計します。リベート金額は、総勘定元帳にも集計し負債を明確にします。

顧客の売上合計がリベート規定値に達すると、リベート金額が計算されます。この時点で、リベート受け取り先に対してクレジット オーダーを生成することができます。

リベート調整を定義し、適用対象となる各受注オーダーのうち、見越し調整する割合を指定します。

リベート見越し調整の作成例

この例では、顧客 4183、品目 CLRD100 に対して売上高リベートを定義します。

- リベート調整を定義し、総勘定元帳にリベート情報の見越しを入力します。
係数を 4% に定義し、各オーダー明細行の 4 % を総勘定元帳に見越し入力するようにします。
- リベート規定値を定義します。

100,000 を超えた場合に 2%、200,000 を超えた場合に 3% のリベートを支払うように設定します。通貨は米ドルとします。リベートの有効期間は、今年の 6 月 20 日から 12 月 31 日です。

6 月 30 日に、顧客 4183、品目 CLRD100、金額 50,000 のオーダーを入力します。

売上更新時に、売上の数量と金額が売上高実績に記録されます。売上合計はリベート規定値と比較され、リベート金額を計算する必要があるかどうかが決まります。また、総勘定元帳に仕訳が作成され、リベートの負債見込み額が計上されます。

この例では、オーダー合計が最初のリベート規定値より少ないため、リベート額は計算されません。売上高実績には次の情報が記録されます。

- オーダー実績合計 = 50,000
- リベート金額 = 0

バッチ タイプ I の仕訳が作成され、次の売上が記録されます。

- (借) 売掛金 = 50,000
- (貸) 売上 = 50,000

次の仕訳が作成され、リベート債務 (オーダー金額の 4%) が記録されます。

- (借) 見越し割引 = 2,000 (50,000 × 4%)
- (貸) リベート未払い金 = 2,000

自動仕訳 (AAI) テーブル 4280 に金額を定義し、リベート未払い金を計上する勘定科目を指定します。

顧客 4183 の品目 CLRD100 の追加オーダーを次のように入力します。

- 7 月 15 日 = 100,000
- 7 月 30 日 = 100,000

売上更新時に、売上高実績に次の項目が記録されます。

- オーダー実績合計 = 250,000
- リベート金額 = 7,500

顧客のオーダー合計が 2 番目のリベート規定値に達したため、リベート金額がオーダー実績合計の 3% で計算されました (250,000 × 0.03 = 7,500.00)。元帳に仕訳は作成されていますが、クレジット オーダーを発行するには、先にクレジット メモを投入する必要があります。

仕訳の作成では、見越し調整に定義されている 4% が引き続き使用されます。売上更新時に、この 2 つのオーダーに対して次の仕訳が作成されます。

- (借) 売掛金 = 200,000
- (貸) 売上 = 200,000
- (借) 見越し割引 = 8,000
- (貸) リベート未払い金 = 8,000

注: 元帳のリベート未払い金合計は 10,000 (2,000 + 8,000) ですが、売上高実績のリベート未払い金額は 7,500 になります。

8 月 1 日にクレジット オーダーを作成します。元帳に仕訳は作成されていますが、クレジット オーダーを発行するには、先にクレジット メモを投入する必要があります。クレジット オーダーは、投入されたクレジット メモに基づいて作成されます。クレジット オーダーの元帳クラス コードが調整から取り込まれ、使用する AAI が決まります。販売先住所には、調整で定義した受け取り先が使用されます。

次に、売上更新を実行して、クレジット オーダーの元帳仕訳を作成します。

- (借) 収益 = 7,500
- (貸) 売掛金 = 7,500

リベート金額フィールドをリセットするようにリベート規定値を定義した場合は、売上高実績テーブルは次のように更新されます。

- リベート金額 = 0
- 支払済みリベート = 7,500

リベート情報の検討

リベート実績照会プログラム (P4078) を使用して、各顧客のリベート履歴を取り込むことができます。このプログラムを使用して、過去と現在のリベート状況やリベート条件を満たすオーダーを確認できます。販売リベート履歴記録レポート (R42780) では、リベート条件を満たす顧客およびその売上高が表示されます。

リベート見越し調整について

リベート調整を定義し、適用対象となる各受注オーダーのうち、見越し調整する割合を指定します。

調整設定時に、リベート見越し調整とリベート受け取り先を指定してください。リベートの調整定義を設定しないと、その他のリベート情報にはアクセスできません。

リベート見越し調整の詳細は、価格および調整スケジュールの設定時に定義します。リベートの価格調整詳細を定義すると、見越し勘定科目に準備される金額が決まります。規定値に達した顧客に支払うリベート金額はこの見越し勘定科目から支払われます。[価格調整明細の改訂] フォームの係数フィールドと基準フィールドに入力した情報により、該当する各受注明細行に対して見越し調整するリベート金額が決まります。

顧客のリベート適用対象限度を設定するには、リベート規定値を使用します。売上高実績で累計した顧客販売合計と規定値を比較して、顧客がリベート対象であるか、どのレベルであるかが決まります。

通常の購買リベートについて

通常の購買リベートでは、顧客は仕入先から一定金額の購入を行った後に、その仕入先からリベートを受け取ることができます。通常の購買リベートは、購買オーダーにのみ適用されます。顧客は、通常の購買リベートの受け取り先としてリベート履歴に記録されます。

通常の購買リベートを顧客に適用するには、次の 2 つの方法があります。

方法	説明
売掛金請求書(デビットメモ)	デビットメモを使用し、リベート請求の生成バッチプログラム(R42770)を実行して、受注オーダーを作成します。このプログラムでは、販売先顧客に仕入先の住所番号が使用されます。受注オーダーを基に、仕入先が流通センターまたは個人に請求書金額を支払い、リベートを処理します。
買掛金貸方(クレジットオーダー)	クレジットオーダーを使用して、リベート請求の作成バッチプログラムを実行して、F4011 テーブルにクレジットオーダーを作成します。流通センターまたは個人は、貸方と仕入先への支払を相殺するか、または貸方を売掛金に移して請求書を作成します。

価格履歴プログラムで購買オーダーが作成されると、通常の購買リベートが表示されます。買掛金伝票入力(P0411)プログラムを使用して、リベートが見越し調整されます。

通常の購買リベートには、次の AAI が使用されます。

- 4515: 見越しリベート
- 4520: 未収リベート

伝票照合により、通常の購買リベートが見越し計上され、F4078 テーブルと F4079 テーブルが更新されます。通常の購買リベート処理時には、以下のテーブルも使用されます。

- F4343
- F4071
- F4074
- F40UI74

関連項目:

[第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、111ページ](#)

[第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」、53ページ](#)

仕入先販売証明リベートについて

流通業者が仕入先品目の一定量を顧客に販売した場合、仕入先販売証明リベートを使用して、仕入先からリベートを受け取ることができます。たとえば、流通センターが特定の顧客または顧客グループに新製品を販売した場合にリベートを受け取るようにすることで、仕入先は新製品の販売を促進することができます。

仕入先販売証明リベートを流通センターまたは個人に適用するには、次の 2 つの方法があります。

方法	説明
売掛金請求書(デビットメモ)	デビットメモを使用し、リベート請求の生成バッチプログラムを実行して、受注オーダーを作成します。このプログラムでは、販売先顧客に仕入先の住所番号が使用されます。受注オーダーを基に、仕入先が流通センターまたは個人に請求書金額を支払い、リベートを処理します。
買掛金貸方(クレジットオーダー)	クレジットオーダーを使用して、リベート請求の作成バッチプログラムを実行して、買掛金元帳にクレジットオーダーを作成します。流通センターまたは個人は、貸方と仕入先への支払を相殺するか、または貸方を売掛金に移して請求書を作成します。

受注オーダー入力プログラムを使用して、仕入先販売証明リベートを適用します。[価格履歴] フォームで、[フォーム] メニューの [仕入先証明の表示/非表示] を選択すると、受注オーダー行に販売証明リベートが表示されます。

注: 不要な調整は取り消してください。ただし、仕入先販売証明リベートが適用されている受注オーダー行の調整を削除する場合は、仕入先販売証明リベートを表示してから、受注オーダー行の調整を削除する必要があります。

仕入先販売証明リベートには、次の AAI が使用されます。

- 4515: 見越しリベート
- 4520: 未収リベート

受注オーダーを入力したら、売上更新バッチプログラム (R42800) を実行して総勘定元帳にリベートを転記する必要があります。このプログラムにより、F4078 テーブルと F4079 テーブルが更新されます。仕入先リベート処理時には、以下のテーブルも使用されます。

- F4071
- F4074
- F40UI74

関連項目:

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」、53 ページ

階層別リベートについて

階層別リベートは、購買構造内にリベートを定義する必要がある場合に作成します。購買構造の集計リベートは、通常のリベートとは異なります。リベートを見越し計上する階層やリベートを適用する受け取り先階層を個別に設定できます。また、購買構造の階層リベートを使用して、顧客（親）の子会社（子）にリベートを適用することができます。

階層別リベートを設定する場合は、リベートを見越し処理するレベルを指定します。また、リベートの受け取り先レベルも指定します。

価格調整スケジュール プログラムで集計階層を指定します。また、リベート集計を子の階層に適用する場合は、調整スケジュールの改訂フォームで継承フラグをオンにする必要があります。

受け取り先には、顧客の住所番号または購買構造の階層レベルのいずれかを指定します。受け取り先階層のレベルが、集計階層に定義した階層レベルと同じか、またはそれより上のレベルであることを確認してください。

受け取り先と集計値が決定すると、階層別リポートは他の全てのリポートと同様に処理されます。

事前設定

[価格管理固定情報] の [価格調整の決定方法] を、価格設定の住所番号、価格調整スケジュール、またはその両方を使用するように設定します。

関連項目:

第 7 章、「購買構造の利用」、79ページ

リポート調整の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整の定義]	W4071A	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整スケジュールの改訂]</p> <p>[調整スケジュールの処理] フォームで処理対象の調整スケジュールを検索して、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>[価格調整スケジュールの改訂] フォームで調整レコードを選択して、[ロー] メニューの [価格調整名] をクリックします。</p>	リポート調整のタイプを指定します。たとえば、リポート見越し調整を定義できます。
[価格調整スケジュールの改訂]	W4070C	調整を定義したら、[価格調整の定義] フォームで [OK] ボタンをクリックします。	価格調整に関するスケジュール情報の入力および改訂を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[リポート規定値の改訂]	W4077B	<p>[価格調整スケジュールの改訂] フォームで調整レコードを選択して、[ロー] メニューの [調整明細] をクリックします。</p> <p>[調整明細の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>[優先階層の選択] フォームで優先階層を選択して、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>[価格調整明細の改訂] フォームでレコードを選択して、[OK] ボタンをクリックします。</p> <p>[調整明細の処理] でレコードを選択して、[ロー] メニューの [リポート] をクリックします。</p> <p>[リポートの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p>	有効日付、規定値、通貨コード、単位などのリポート情報を指定します。
[調整制御の修正]	W4071C	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義]</p> <p>[調整タイプの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>[調整制御コード] の [仕入先販売証明] を選択して、調整を仕入先販売調整に指定します。</p>	通常の購買リポートを作成します。
[価格調整の定義]	W4071A	[調整制御の修正] フォームで、[OK] ボタンをクリックします。	リポートタイプ、リポートの処理方法、リポートの計算レベル (たとえば、行レベル、オーダーレベル) などのリポート情報を指定します。

リポート規定値の定義

[リポート規定値の改訂] フォームにアクセスします。

価格/調整スケジュールの改訂 - リベート 規定値の改訂 i ?

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

価格調整コード	REBATE		
住所No.	1115	品目No.	1001
有効開始日付	2004/12/14	ビジネスユニット	30
有効終了日付	2015/12/31	リベート・タイプ	1 パーセント
通貨コード	USD	リベート計算方法	1 一定レート
単位	EA		

レコード 1 - 2 グリッドのカスタマイズ ☐

<input type="checkbox"/>		規定値	リベート係数	実績フラグ リセットする
<input type="checkbox"/>		20		1
<input type="checkbox"/>				

[リベート規定値の改訂] フォーム

[規定値]

リベートを適用するかどうか決定するために販売合計値と比較する値を入力します。規定値には、数量、重量、または販売額を定義することができます。規定値タイプの定義は、[価格調整の定義] の [レベル分岐タイプ] で設定します。

[リベート係数]

リベート金額の計算方法を指定します。[リベート・タイプ] フィールドにコードを入力して、リベートの適用方法を制御します。

たとえば、一定金額を適用したり、売上合計のパーセントを計算するように指定できます。

[実績フラグ リセットする]

リセットする場合は、「1」を入力します。顧客のリベート合計が一定の値に達した状態でクレジット オーダーを作成すると、販売実績の合計がリセットされ、支払済みリベートがゼロに設定されます。

リセットしない場合は、「0」を入力します。クレジット オーダーの作成時に、販売実績の合計と支払済みリベートはリセットされず、現在の値が維持されます。

仕入先販売証明リベートの作成

[調整制御の修正] フォームにアクセスします。

変動価格調整の使い方

このセクションでは、変動価格調整の概要と、以下の方法について説明します。

- 変動調整の作成
- 計算式調整の作成

変動価格調整について

変動価格調整を使用して、価格が頻繁に変動する品目の価格および有効日付を設定します。調整は、F4075 テーブルから作成することができます。

F4075 テーブルから価格調整を作成した場合は、必ずテーブルに一時変更調整を添付します。これにより、変動価格調整に合わせて他の価格も全て一時変更できます。

計算式は、複雑な価格構造を定義するときに使用できるツールです。簡単な式から複雑な式まで自由に定義できます。計算式を定義する際、F4075 テーブルまたは F4211 テーブルのいずれかを参照できます。計算式には、計算単位と通貨コードを指定することもできます。

計算式は、複数の要素から構成されています。この要素は、特定の数値、テーブル、または数学演算を参照または指定します。計算式の各要素は、特殊文字を使って示す必要があります。これらの特殊文字は、価格設定固定情報のシステム設定時に定義します。

計算式の値は、一般的な代数式と同じようにして求められます。たとえば、計算式は以下のような形式をしています。

0.90*&GOLD

各要素の意味は、次のとおりです。

- 0.90は、90% を表しています。
- アスタリスク (*) は、乗算を表しています。
- アンパサンド (&) は、“GOLD” が変動価格コードであることを表しています。

したがって、この計算式は、品目の価格が金 (GOLD) の現行価格の 90 % であることを示しています。

変動価格調整の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整明細の改訂]	W4072A	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整 詳細の改訂]</p> <p>[調整明細の処理] フォームで[価格調整コード]を入力して、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>[優先階層の選択] フォームで変動調整の優先階層を選択して、[選択] ボタンをクリックします。</p>	適切な調整情報を入力します。
[価格変動コードの処理]	W4075C	[価格調整明細の改訂] フォームでレコードを選択して、[ロー] メニューの [価格変動] を選択します。	変動価格コード、計量単位など、価格変動調整に関する情報を指定します。
[価格計算式の改訂]	W4076A	[価格調整明細の改訂] フォームでレコードを選択して、[ロー] メニューの [価格計算式] を選択します。	<p>価格計算式調整の計算式を指定します。</p> <p>計算式で使用する要素は、システム固定情報で定義する必要があります。</p>
[テーブル・フィールドの記述]	W4076E	[価格計算式の改訂] フォームで、[フォーム] メニューの [フィールド] をクリックします。	価格計算式に F4211 テーブルのフィールドを含めます。
[価格変動コードの処理]	W4075C	[価格計算式の改訂] フォームで、[フォーム] メニューの [価格変動] をクリックします。	価格計算式に価格変動コードを含めます。

価格変動調整の作成

[価格調整明細の改訂] フォームにアクセスします。

価格計算式調整の作成

[価格計算式の改訂] フォームにアクセスします。

通過逡減の使い方

このセクションでは、通過逡減の概要と通過逡減調整の作成方法について説明します。

通過逡減について

調整の定義時に、受注オーダー一行に通過逡減に基づいて複数の割引の設定および適用ができます。通過逡減とは、あるレベル分岐または規定額に達した場合に発生する割引で、累計値に基づいて計算されます。通過逡減が適用されると、調整対象の受注明細行の単価が変更されます。通過逡減は、数量または重量を基に計算することもできます。

価格履歴フォームの基準値フィールドに割引量が、調整計算式フィールドに通過逡減式が表示されます。

また、請求書の印刷 (R42565) レポートおよび購買オーダー印刷 (R43500) レポートに通過逡減調整の基準値および係数を表示することができます。

注: 通過逡減は、バスケットレベルおよびオーダー レベルの調整には使用できません。また、通過逡減の計算は累積オーダーに対しては行われません。たとえば、顧客が月曜日に 10 トン、火曜日にさらに 10 トンの品目をオーダーした場合、価格設定はオーダーごとに行われます。複数のオーダーに対して通過逡減割引を使用するには、扱い高基準を使用して通過逡減を設定する必要があります。

通過逡減割引の例

次に基本価格 100.00 の品目の通過逡減の例を示します。この品目には、次のように割引を適用できます。

- 0 ～ 99 個: 0% 割引
- 100 ～ 199 個: 10% 割引
- 200 ～ 299 個: 20% 割引
- 300 個以上: 30% 割引

規定値を次のように設定します。

- 99 個: 10%
- 199 個: 20%
- 299 個: 30%

オーダー数量が 250 の場合、品目価格は次の方法で計算されます。

- $99 (\text{個数}) \times 100.00 (\text{価格}) = 9,900.00$
- $100 (\text{個数}) \times 90.00 (\text{価格}) = 9,000.00$
- $51 (\text{個数}) \times 80.00 (\text{価格}) = 4,080.00$
- $22,980.00 (\text{価格合計}) / 250 (\text{個数}) = 91.92 (1 \text{ 個あたりの価格})$

受注オーダーの明細行に保持できる単価は 1 つのみなので、規定値の対象となる数量ごとに通過逡減の調整を行って最終的な価格が求められます。

関連項目:

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」、53 ページ

第 9 章、「補足調整の使い方」、「扱い高基準の設定」、109 ページ

通過逡減の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整の定義]	W4071A	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義] [調整タイプの処理] フォームで、調整を定義するか、または既存の調整を検索して、[選択] ボタンをクリックします。	通過逡減調整を作成します。処理対象の調整には、行レベル調整を指定してください。
[価格調整明細の改訂]	W4072A	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整詳細の改訂] [調整明細の処理] フォームで調整行を検索して、[選択] ボタンをクリックします。	通過逡減調整の規定値を入力します。

通過逡減調整の作成

[価格調整の定義] フォームにアクセスします。

[通過逡減の使用]

通過逡減調整を使用する場合にオンにします。通過逡減調整を使用すると、各規定値レベルに該当する一連のレートに基づいて価格が計算されます。オフにすると、一定レートの調整が適用されます。一定レートの調整では、該当する規定値に基づいて価格が計算されます。

注: 通過逡減を選択した場合、この調整に粗利益調整 (基準コード 9) は追加できません。

通過逡減を選択した場合、[基本価格変更 (Y/N)] チェック ボックスをオンにすることはできません。ただし、[アップセル調整] もオンにした場合は、[基本価格変更 (Y/N)] チェック ボックスの指定は有効になります。

次以降の行に情報を入力するときには、規定値 ([開始レベル]) フィールドおよび [係数] フィールドの値以外は、最初のレコードのフィールド値が全て自動的にコピーされます。たとえば、同じ調整の異なる規定値に対して、別々の基準名や単位を指定することはできません。このため、変更可能な値は、[係数] フィールドの値のみとなります。

粗利益調整の作成

このセクションでは、粗利益調整の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 目標粗利益調整の優先詳細の定義
- 目標粗利益調整の上限と下限の定義

粗利益調整について

粗利益調整を使用して、指定したパーセント値を正味価格に追加する調整を定義できます。また、受注明細行に粗利益調整を直接入力し、価格履歴に手動で調整を作成することもできます。

優先情報を使用して、目標粗利益の最小および最大値を定義し、目標に品目、品目グループ、顧客、および顧客グループレベルを定義することができます。粗利益優先情報を使用して、最小および最大値をパーセントで定義することができます。利益がこの範囲に収まらない場合は、エラーが表示されます。

事前設定

受注オーダーで粗利益調整を使用するには、事前に受注オーダー入力プログラム (P4210) の処理オプションの [売上高総利益率] タブにある [売上高総利益率の価格設定] を有効にします。

粗利益の最小および最大値の優先情報を設定するには、UDC 40/AP に粗利益の詳細優先タイプコードを定義する必要があります。

粗利益調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整明細の改訂]	W4072A	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整詳細の改訂]</p> <p>[調整明細の処理] フォームで調整レコードを検索して、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>[基準コード] フィールドに「9」(粗利益)を入力し、[係数] フィールドに粗利益率を定義します。</p> <p>通貨コードおよび規定値計量単位を定義します。</p>	粗利益調整を指定します。
[受注オーダー明細の改訂]	W4210A	<p>[受注オーダー処理] (G4211)、[受注明細]</p> <p>[受注残および完了オーダー照会] フォームで [追加] をクリックします。</p> <p>受注オーダー情報を入力し、[粗利益率] フィールドに粗利益率を入力します。</p>	粗利益率を入力します。
[優先定義の改訂]	W4071A	<p>[詳細優先情報] (G40311)、[詳細優先情報名の改訂]</p> <p>[優先タイプの処理] フォームで、[追加] をクリックします。</p> <p>目標粗利益調整の詳細優先情報を設定します。</p>	目標粗利益調整を設定します。







ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[優先詳細の改訂]	W4072A	<p>[詳細優先情報](G40311)、[詳細優先情報詳細]の改訂</p> <p>[優先明細の処理]フォームの[優先調整名]フィールドに目標粗利益(GPM)を入力し、[追加]をクリックします。</p> <p>調整を、品目のみに適用するか、品目グループのみに適用するか、または全ての品目と顧客に適用するかを指定します。</p> <p>[優先詳細の改訂]フォームで、調整レベル、計量単位、有効日付を入力します。</p>	目標粗利益調整の優先詳細を定義します。
[優先値の改訂]	W4072D	<p>[優先詳細の改訂]フォームで、[ロー]メニューの[優先明細]を選択します。</p> <p>優先順序および目標利益の上限および下限を入力します。</p>	目標粗利益調整の上限と下限を定義します。

目標粗利益調整の優先詳細の定義

[優先詳細の改訂] フォームにアクセスします。

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先詳細の改訂


OK(O) 削除(D) キャンセル(L) ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

優先調整名 Gross Profit Target

品目 No. Forklift

レコード 1 - 2 グリッドのカスタマイズ ☐

<input type="checkbox"/>		開始レベル	規定値 計量単位	有効開始 日付	期限終了 日付
<input type="checkbox"/>		<input type="text" value="1.0000"/>	<input type="text" value="EA"/>	<input type="text" value="2004/11/04"/>	<input type="text" value="2005/01/01"/>
<input type="checkbox"/>					

[優先詳細の改訂] フォーム

この例では、目標粗利益が品目に適用されています。

目標粗利益調整の上限と下限の定義

[優先値の改訂] フォームにアクセスします。

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) ツール(T)

Preference Name GRPMT Gross Profit Target

詳細優先タイプ 19 Gross Profit Margin Target

レコード 1 - 2		グリッドのカスタマイズ <input type="checkbox"/>	
	順序No.	比較の下限	比較の上限
<input checked="" type="radio"/>	10.00	10.0000	20.0000
<input type="radio"/>			

[優先値の改訂] フォーム

[順序No.] 計算実行時に使用される処理順序を入力します。

[比較の下限] 調整の下限値を入力します。パーセントの値を指定します。たとえば、下限値に粗利益 10% を指定する場合は「10」を入力します。

[比較の上限] 調整の上限値を入力します。パーセントの値を指定します。たとえば、上限値に粗利益 20% を指定する場合は「20」を入力します。

期間延長条件調整の作成

このセクションでは、期間延長条件調整の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 期間延長条件調整の優先詳細の定義
- 期間延長条件調整の支払期間の定義

期間延長条件調整について

割引率を上げる代わりに支払期限を延長する場合に、期間延長条件調整を設定します。期間延長条件調整は、バスケットレベルの調整です。たとえば、品目のバスケットを設定しておき、オーダーが 10000 を超えている場合に、バスケット内の品目が購入されていれば、支払期限を 30 日以内の代わりに 60 日以内に変更するように調整を定義することができます。バスケットの全てのオーダー行に、延長期間が適用されます。

事業所品目に定義される単一バスケットと、期間延長条件調整を設定する場合の拡張バスケットの両方を使用することができます。

事前設定

受注明細レコードの価格再設定を有効にして期間延長条件調整を設定できるようにするには、受注明細レコードの価格再設定の繰り返しを可能に設定する必要があります。オーダー レベル/バスケット レベル価格プログラム (R42750) の処理オプションの更新オプションの入力タブにある価格再設定の繰り返し許可フィールドに「1」を入力します。

UDC 40/AP に期間延長条件の詳細優先タイプ コードを定義する必要があります。

期間延長条件調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[優先定義の改訂]	W4071A	[詳細優先情報] (G40311)、 [詳細優先情報名の改訂] [優先タイプの処理] フォームで、[追加] をクリックします。	期間延長条件の調整の詳細優先情報を設定します。
[優先詳細の改訂]	W4072A	[詳細優先情報] (G40311)、 [詳細優先情報詳細の改訂] [優先明細の処理] フォームの [優先調整名] フィールドに期間延長条件 (EXTEND) を入力し、[追加] をクリックします。 調整レベル、計量単位、有効日付を入力します。	期間延長条件調整の優先詳細を定義します。
[優先値の改訂]	W4072D	[優先詳細の改訂] フォームで、[ロー] メニューの [優先明細] を選択します。 [順序No.]、[ビジネスユニット]、および [支払条件コード] の値を入力します。	期間延長条件調整の支払期間を定義します。

期間延長条件調整の優先詳細の定義

[優先詳細の改訂] フォームにアクセスします。

期間延長条件調整の支払期間の定義

[優先値の改訂] フォームにアクセスします。

[順序No.] 計算実行時に使用される処理順序を入力します。

シップ アンド デビット調整の使い方

このセクションでは、シップ アンド デビット調整とシップ アンド デビット調整明細の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- シップ アンド デビット調整の定義
- 調整残高 (P45715) の処理オプションの設定
- シップ アンド デビット調整残高の設定

シップ アンド デビット調整について

流通業者、仕入先、および製造業者は、特定の部品や製品に関する価格およびコスト変動について契約を交わすことがよくあります。電子産業界では、この契約はシップ アンド デビット調整として知られています。

シップ アンド デビット処理は、在庫移動業務に役立つよう設計されています。この処理を使用することにより、割引価格で一定期間における販売を促進することができます。

シップ アンド デビット調整では、在庫原価は変更されません。代わりに、在庫原価は売上原価の引下げとして処理され、会社の粗利益に反映されます。したがって、この調整はコミッション金額にも影響します。

シップ アンド デビット調整は仕入先別および品目別に設定できます。また通常、シップ アンド デビット調整は時間に依存します。仕入先との間の調整用に設定した期間を指定することができます。シップ アンド デビット処理を使用すると、これらの複雑な調整およびその結果生じる請求処理を管理することができます。

注: シップ アンド デビット契約に販売リベートを含める (デザイン ウィン契約) 場合は、価格管理システムのリベート価格設定調整を使用します。

参照: 第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、111 ページ

シップ アンド デビット品目

調整に使用するシップ アンド デビット品目を設定する必要があります。商慣習に従って、各品目の組込/除外規則を設定する必要があります。

注: 各品目に設定できるのは、組込規則または除外規則のどちらか 1 つです。ビジネス プロセスの変更に伴ってシップ アンド デビット品目の組込/除外規則を変更する必要がある場合は、全品目を削除してから規則を変更し、品目を再入力する必要があります。

受注オーダー処理のシップ アンド デビット

シップ アンド デビット調整が設定されている品目およびシップ アンド デビット契約が入力されている仕入先を含む受注オーダーで [OK] をクリックすると、シップ アンド デビット調整が適用されます。処理オプションの設定に従って、サブシステムまたはバッチ処理で処理されます。

[受注残および完了オーダー照会] フォームから [シップ・アンド・デビット履歴] フォームにアクセスできます。[シップ・アンド・デビット履歴] のデータを使用して、価格設定計算式、原価情報、および契約の明細情報を検討します。また、[シップ・アンド・デビット履歴] では、粗利益の結果を確認することができます。

受注オーダーの入力でシップ アンド デビット調整を処理する際は、仕入先番号を基本仕入先番号と同じにします。基本仕入先番号は事業所品目で設定するか、またはオーダー入力時に手動で入力します。

調整は時間に依存し、常に変更の可能性があるため、出荷確認や売上更新などの処理時に調整を再評価できるようになっています。シップ アンド デビット調整は、受注明細の約束出荷日付に基づきます。実際の出荷日付が約束出荷日付と異なる場合は、契約が再度割り当てられます。

受注オーダー行に割り当てられた調整は、出荷確認時または売上更新の実行時に完了します。

受注オーダー処理時に再計算や契約の再度割り当てが自動的に行われるようにするには、次のいずれかのプログラムの処理オプションを設定します。

- 受注オーダー入力
- 保留オーダーのリリース (P43070)
- バックオーダー リリース/レポート (R42118)
- ピッキング リストの印刷 (R42520)
- 出荷確認 (P4205)
- 売上更新

技術上の考慮事項

受注オーダー処理でシップ アンド デビット調整を処理する際には、次の点を考慮してください。

コンポーネント	説明
伝票タイプ SO	シップ アンド デビット品目を含む受注オーダーを入力する場合に伝票タイプ SO を使用します。
AAI 4234	シップ アンド デビットの見越し勘定および仮勘定の AAI (4234) を設定します。
保証請求レコード/保証請求仮払仕訳の作成 (R45800)	売上更新前に、保証請求/保証請求仮払仕訳の作成プログラム (R45800) のバージョンを作成します。シップ アンド デビット調整を含むオーダーを処理するときには、顧客売上更新プログラムでこのバージョンを実行します。
コミッション履歴 (P42120)	コミッション金額の変更を検討する場合に、コミッション履歴プログラムを使用します。コミッション金額の変更は、シップ アンド デビット調整を含むオーダーの粗利益のうちの売上原価の引下げに基づいて行われます。

シップ アンド デビット保証請求

シップ アンド デビット調整の保証請求は、保証請求レコード/保証請求仮払仕訳の作成プログラムを実行すると作成されます。作成した保証請求は、承認を得るために仕入先に送ることができます。保証請求は、電子データ交換 (EDI) を使用して送信できます。

保証請求レコード/保証請求仮払仕訳の作成プログラムにより、F4576 テーブルが更新され、F4575 テーブル内の期限が終了したデータが削除されます。また、コミッション レコードも更新されます。

保証請求が承認されると、仕入先の買掛金に反映され、保証請求の金額分減らされます。保証請求の適用は、シップ アンド デビット保証請求プログラム (P4576) を使用して、手動または自動で行うことができます。

顧客売上更新プログラムを実行する際には、保証請求/保証請求仮払仕訳の作成のバージョンを作成する処理オプションを設定します。保証請求/保証請求仮払仕訳の作成プログラムを実行すると、オーダー行の借方金額合計の分だけ売上原価勘定が借方計上されます。同じ売上原価勘定の借方金額は、AAI 4234 を使用して、見越し勘定または仮勘定に入力する必要があります。また、保証請求レコード/保証請求仮払仕訳の作成プログラムにより、F4576 テーブルが更新され、F4575 テーブルの期限が終了した調整データが削除されます。

保証請求の承認は、仕入先に送信する前と仕入先から承認された後のどちらでも行えます。シップ アンド デビットの保証請求レポート (R47761Z1) を使用して、F4576Z1 テーブルの保証請求レコードを更新します。

仕入先から承認を受けたら、シップ アンド デビット更新プログラム (R47762Z1) を実行して F4576 テーブルを更新します。

注: 保証請求が却下された場合は、F4576 テーブルを手動で更新する必要があります。

シップ アンド デビット調整明細について

シップ アンド デビット調整明細では、調整計算に使用されるパラメータを指定します。調整明細では、基準コードを指定することにより柔軟な設定が行えます。シップ アンド デビット調整の基準コード (係数値方式) には、“1” または “4” を選択してください。

係数値方式は、仕入先から原価または値引率の情報が提供されているかどうかを考慮して選択します。仕入先との取引に従って、係数値方式を選択します。

シップ アンド デビット調整を設定するときに、シップ アンド デビット金額を差し引いてから品目原価をトラッキングするよう指定できます。調整定義を調整スケジュールに追加する際に、調整明細を定義することもできます。

F45715 テーブルを参照して、シップ アンド デビット調整を適用する数量と日付を確認します。原価情報および計算式に基づいて、仕入先や事業所などのシップ アンド デビット調整明細を確認することもできます。

調整残高プログラム (P45715) を使用して、数量情報を変更することができます。また、調整の有効終了日付を割り当てることもできます。

最初に、シップ アンド デビット調整の調整残高を設定します。次に、パラメータを設定し、調整明細残高の設定時に、調整の残高と明細の関係を割り当てます。

事前設定

このセクションの操作を実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- シップ アンド デビット調整の優先マスターおよび価格階層を設定します。
- 仕入先カタログの保守管理で、シップ アンド デビット品目の仕入先表示価格を設定します。
- 販売価格管理が有効になっていることを確認します。

シップ アンド デビット調整の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[伝票タイプの改訂]	W40040B	<p>[シップ・アンド・デビット処理](G4511)、[伝票タイプ保守管理]</p> <p>[伝票タイプの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>または、シップ アンド デビット処理の設定を行う伝票タイプを検索して、[選択] ボタンをクリックします。</p>	<p>シップ アンド デビット伝票タイプを設定します。</p> <p>シップ アンド デビット機能を使用する前に、シップ アンド デビット処理を使用できるように伝票タイプを設定する必要があります。</p>
[組込/除外規則の設定]	W4513C	<p>[シップ・アンド・デビット処理](G4511)、[シップ・アンド・デビット品目]</p> <p>[シップ・アンド・デビット品目の処理] フォームで品目を検索して、[フォーム] メニューの [組込/除外規則の設定] を選択します。</p>	<p>シップ アンド デビット品目を設定します。</p> <p>レコードが既に存在する場合は、組込/除外規則を変更できません。</p>
[調整制御の修正]	W4071C	<p>[シップ・アンド・デビット処理](G4511)、[調整定義]</p> <p>[調整タイプの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p>	シップ アンド デビット調整を定義します。
[価格調整の定義]	W4071A	<p>[調整制御の修正] フォームで [シップ・アンド・デビット] オプションを選択して、[OK] ボタンをクリックします。</p> <p>特定の価格グループに調整を適用するかどうかなど、シップ アンド デビット調整に関する価格調整オプションを選択します。</p>	シップ アンド デビット調整に関する価格調整情報を入力します。
[残高の改訂]	W45715B	<p>[シップ・アンド・デビット処理](G4511)、[調整残高]</p> <p>[調整残高の処理] フォームで [価格調整コード] に値を入力して、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>[優先階層の選択] フォームで優先階層を選択して、[選択] ボタンをクリックします。</p>	シップ アンド デビット調整残高を設定します。
[調整残高の処理]	W45715A	[シップ・アンド・デビット処理](G4511)、[調整残高]	シップ アンド デビット調整明細残高を設定します。

シップ アンド デビット調整の定義

[調整制御の修正] フォームにアクセスします。

仕入先とシップ アンド デビット契約を締結したら、その契約に基づいて作成される調整情報を定義する必要があります。

[ターゲット・システム] 受注管理や調達管理など、価格調整がサポートしている EnterpriseOne システムを指定します。

調整残高 (P45715) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

次の処理オプションで、調整残高プログラムでレコードを表示するかどうかを制御します。また、契約終了の警告メッセージを表示するタイミングの制御についても、この処理オプションで指定します。

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 調整残高レコード | 表示される調整残高レコードを指定します。有効値は以下のとおりです。
blank: 全てのレコードを表示する
1: アクティブなレコードのみを表示する
2: アクティブでないレコードのみを表示する |
| 2. 最小数量パーセント | 数量の最小パーセントを指定します。この値よりも少なくなると、契約終了の警告メッセージが表示されます。最小数量パーセントよりも少なくなった数量カラムは、別の色で表示されます。 |
| 3. 最小残数量 | 最小の残数量を指定します。この値よりも少なくなると、契約終了の警告メッセージが表示されます。最小残数量よりも少なくなった数量カラムは、別の色で表示されます。 |
| 4. 残日数の最小パーセント | 残日数の最小パーセントを指定します。この値よりも少なくなると、契約終了の警告メッセージが表示されます。残日数がこの最小パーセントよりも少なくなった調整の終了日付カラムは、別の色で表示されます。 |
| 5. 最小残日数 | 最小残日数を指定します。この値よりも少なくなると、契約終了の警告メッセージが表示されます。残日数がこの最小残日数よりも少なくなった調整の終了日付カラムは、別の色で表示されます。 |

処理

次の処理オプションで、調整残高レコードを変更できるかどうか制御します。

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 調整残高の変更 | 調整残高レコードの変更を可能にするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
blank: 調整残高レコードの変更を不可にする
1: 調整残高レコードの変更を可能にする |
|-------------------|---|

シップ アンド デビット調整残高の設定

[残高の改訂] フォームにアクセスします。

[連絡先]	住所番号を入力して、この契約関連の書類および発生した保証請求の送付先を指定します。
[保証請求方法]	発生した保証請求を仕入先に返送する方法を指定します。
[基準原価]	原価が F4105 テーブルの価格とは異なる場合、契約で基準とされる原価を入力します。
[係数値方法]	保証請求計算時に使用される係数値の方法を指定します。 シップ アンド デビット調整の係数値（基準コード）には、1 または 4 のいずれかを選択してください。
[最大許可数量]	契約上許される最大数量を入力します。
[契約対象最小数量]	この契約の対象となる、取引あたりのオーダー品目の最小数量を入力します。

第 10 章

価格再設定の使い方

この章では、価格再設定の概要と、以下の方法について説明します。

- バスケット マスターの使い方
- 拡張バスケット品目への調整の適用
- オーダー レベル調整の作成
- 受注オーダーの価格再設定
- 調整の改訂

価格再設定について

受注オーダーの価格を再設定する調整を定義することができます。受注オーダーの価格の再設定は、次のような理由から必要になります。

- 品目グループに対して、追加の値引きや割増を行う。
- 特別な品目や顧客に対して、異なった価格設定を行う。
- 製品ファミリ内のオーダー品目の総数、総重量、総額に基づいて一括割引を行う。

価格再設定は、オーダー金額、オーダー品目の重量、またはオーダーされた全品目の総数に基づいて行います。調整を定義する際は、バスケットまたはオーダーのどちらの価格再設定に調整を使用するかを指定する必要があります。既に価格が再設定済みのオーダー行の価格を再設定するには、オーダー明細行の価格を繰返し再設定できるように価格再設定プログラムの処理オプションを設定する必要があります。

注: 価格再設定調整は、受注オーダーに対してのみ使用できます。調達管理で価格管理を使用する場合は、購買オーダー調整の価格再設定は行えません。

価格調整変更の検討方法について

このセクションでは、以下のレポートの概要を説明します。

- 価格調整
- 価格調整の改訂
- 先日付調整追加
- 価格変更の影響を受けるオーダー (R40821)

レポートには、全ての調整と、調整に対して行われた変更がリストされます。また、レポートには、新規の調整、有効日、および新規の係数も含まれます。

注: 調整レポートを実行する際は、更新または追加調整値が一貫して適用されるように、データ選択で計量単位フィールドを含める必要があります。

価格調整の保守管理プログラム (R41840) は、テスト モードまたは最終モードで実行することができます。テスト モードでプログラムを実行すると、最終モードでプログラムを実行する前にレポートを検討して変更を加えることができます。このプログラムは、テスト モードで必要な回数だけ実行することができます。

価格調整の保守管理プログラムのバージョンを設定する際は、基準テーブルから選択されるフィールドを指定できます。特定のフィールドを選択できる機能は、全ての情報を印刷または更新しない場合に特に便利です。

また、“価格変更の影響を受けるオーダー” の整合性レポートを印刷して、調整の変更により変更が生じる可能性のあるオーダーを検討することもできます。

価格調整レポートについて

価格調整の保守管理プログラムでは、選択された各レコードの既存の調整のみが印刷されます。変更または更新は行われません。このバージョンを実行するには、全ての処理オプションをブランクにしておきます。

価格調整の改訂レポートについて

[価格調整明細の改訂] フォームを使用して、調整内容を個別に変更できます。または、価格調整の保守管理プログラムを使用して、調整の変更や追加を行えます。レポート ライターによって選択された現行の調整が、新しい調整の基準となります。

このレポートの価格調整の改訂バージョンを選択します。このバージョンは、テスト モードまたは最終モードで実行できます。

このプログラムを実行すると、各調整の新旧の係数値を示したレポートが印刷されます。このバージョンは、調整係数を入力し、処理オプションを設定して作成します。

先日付調整追加レポートについて

新しい調整を作成する場合は、先日付調整追加バージョンを選択します。このバージョンの処理オプションで、新規調整の有効日付を入力します。また、価格調整明細テーブル (F4072) を更新するかどうか処理オプションで指定できます。

既存の調整の中で最も新しい有効期限を持つ調整が、新しい調整の基準となります。作成する調整は、将来の日付で有効になると見なされます。問題を回避するために、過去の日付に対する調整は作成しないでください。また、新しい調整を作成するバージョンに対しては、順序設定を変更しないようにしてください。順序設定を変更すると、誤ったレコードが使用されます。

新しい調整は、システムによってテーブルに書き込まれる前に変更することができます。これを行うためには、調整タイプと係数を処理オプションに入力します。この情報によって、新しい調整が変更されます。

調整タイプと係数をブランクにした場合は、現行の調整から調整がコピーされます。新しい調整は作成されません。開始日付と終了日付は必ず指定します。指定しないと情報は処理されません。

テスト モードでは、これらの調整を処理した場合に発生する追加のリストが印刷されます。最終モードでは、最終モードを選択したときに作成された追加リストが印刷されます。

価格変更の影響を受けるオーダー レポートについて

“価格変更の影響を受けるオーダー”の整合性レポート(R40821)には、オーダーが作成された日付以降の調整、価格変動、計算式に対する変更に基づいて変更される可能性のあるオーダーがリストされます。

“価格変更の影響を受けるオーダー”は、受注オーダーについてのみ印刷してください。

バスケット マスターの使い方

このセクションでは、バスケット マスターの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- バスケット マスター情報の設定
- バスケット レベルの調整の作成

バスケット マスターについて

バスケット マスター プログラム (P4550) を使用して、バスケットの入力と管理を行います。バスケット名 (ユーザー定義コード (40/PI) で設定)、バスケットに含まれる全ての品目および品目グループなどバスケットの全ての特性を定義します。同じ品目を複数のバスケットに含めることができます。また、複数のバスケットを調整の対象となるオーダーに適用することもできます。

また、バスケット マスター プログラムでは、集計や調整の条件の他、品目および品目グループの価格設定規則などの品目の特性を定義できます。

集計の条件を設定する際は、バスケットへの調整の適用方法を決定するためのバスケット集計規則 (ユーザー定義コード (45/BA) で設定) を指定します。調整の適用方法は、バスケット価格設定規則 (45/BP で設定) の指定内容によっても判断されます。

バスケット マスター情報

拡張バスケットの機能を使用するには、バスケット調整の適用方法を決定する設定タスクを実行する必要があります。まず、バスケットに含める品目と品目グループを指定します。バスケットに含まれる品目に対するバスケット集計規則とバスケット価格設定規則も指定する必要があります。これらを設定することにより、バスケット全体に 1 つの値引きを指定するのではなく、特定の品目または品目グループに適用する値引きを指定できます。

バスケット集計規則には、以下のオプションがあります。

- 0: 品目または品目グループをバスケット集計に含めます。最小数量は必要ではありません。
- 1: 品目または品目グループをバスケット集計に含めます。最小数量が必要です。
- 2: 品目または品目グループをバスケット集計から除外します。最小数量は必要ではありません。

バスケット価格設定規則には、以下のオプションがあります。

- 0: 標準バスケット調整を適用します。
- 1: 例外価格設定を適用します。
- 2: 標準価格設定、例外価格設定のいずれも適用しません。

バスケット マスター プログラムでは、集計単位、バスケット集計規則、バスケット価格設定規則、有効開始日付、および期限終了日付を指定できます。それらの情報は、フォームの見出し部分のデフォルト情報となり、さらに詳細グリッドにデフォルトで表示されます。詳細グリッドには、バスケットに含まれる品目が表示されます。

マスター バスケット情報は、F4550 テーブルに保存されます。

バスケット レベル調整

バスケットの価格再設定では、バスケット価格再設定グループに基づいて品目の価格を修正できます。品目がバスケット価格再設定グループに含まれているかどうかを判別するために、受注オーダーの明細行が検索されます。品目がバスケット価格再設定グループに含まれていた場合、新しい価格でオーダー行が更新されます。

受注オーダーの価格再設定は以下の方法で行います。

- オーダー入力後、バッチ プログラムを使用して実行します。

新しい価格は、当初の受注明細行の価格に基づきます。最初にバスケット価格再設定が実行され、次にオーダーの価格再設定が実行されます。

- 対話形式でオーダーを入力しながら、受注オーダー入力明細 (P4211) から適切なオプションを選択して実行します。

バッチ プログラムによって、最初にバスケット価格再設定が実行され、次にオーダーの価格再設定が実行されます。

- 受注オーダー入力明細プログラムの処理オプションを設定した場合は、オーダー入力時に自動的に実行されます。

バスケット価格再設定グループに含まれている品目に対してオーダーを入力すると、品目の基本価格に調整が適用されます。価格再設定調整を使用するには、オーダーの価格を再設定するための機能を選択します。基本価格への変更は、価格再設定調整を反映しています。

オプションを選択することによって、調整に拡張バスケット調整を使用するように指定することもできます。拡張バスケット調整を指定した場合は、バスケット品目別調整フォームで、調整明細の例外を入力できます。拡張バスケット調整を使用しない場合は、標準のバスケット価格再設定が適用されます。

事前設定

拡張バスケット機能を有効にするには、価格調整の定義プログラム (P4071) の [バスケット・マスターの使用] オプションを選択します。

バスケット マスター情報の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[バスケット・マスターの改訂]	W4550C	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[バスケット・マスター] [バスケット・マスターの処理] フォームで [追加] ボタンをクリックします。	バスケット マスター情報を設定します。
[調整制御の修正]	W4071C	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義] [調整タイプの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。 バスケット調整の名称、タイプ、制御コードを指定します。	バスケットレベルの調整を作成します。

バスケット マスター情報の設定

[バスケット・マスターの改訂] フォームにアクセスします。

[バスケット・グループ]

品目の在庫価格グループを識別するユーザー定義コード (40/PI) の値を入力します。

在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、オーダーされた品目の数量、金額、または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てする必要があります。

[バスケット計量単位]

CS (ケース)、BX (箱) など、在庫品目の数量単位を示すユーザー定義コード (00/UM) の値を入力します。

拡張バスケット グループの集計に使用する単位を指定するコードです。このフィールドで指定した計量単位で、バスケット グループの価格調整が検索されます。このフィールドを空白にした場合は、受注オーダーの最初の調整対象行の “販売価格の計算に使用する計量単位” に基づいてバスケット グループが集計されます。

[バスケット集計規則]

品目または品目グループを、バスケット レベル集計、品目レベル集計、またはその両方に含めるかどうかを指定するコードを入力します。有効値は以下のとおりです。

空白: 品目または品目グループを集計に含めます。この値を指定した場合は、オーダーの最小数量は必要ではありません。

1: 品目または品目グループを集計に含めます。この値を指定した場合は、オーダーの最小数量が必要です。

2: 品目または品目グループを集計から除外します。

[バスケット価格設定規則]

品目または品目グループに対して、標準バスケット調整または例外価格設定のどちらを適用するかを指定するコードを入力します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 標準バスケット調整を適用します。

1: 例外価格設定を適用します。

2: 標準バスケット調整および例外価格設定のいずれも適用しません。

バスケット レベル調整の作成

[調整制御の修正] フォームにアクセスします。

[印刷しない]

選択すると、調整金額は請求書または購買オーダーに印刷されません。調整金額は単価に加算されます。

[印刷する]

選択すると、調整金額は請求書または購買オーダーに印刷されます。調整金額は単価に加算されます。

[受注明細に追加する]

選択すると、F4211 テーブルが調整明細行情報で更新されます。現行の正味価格の計算には、このタイプの調整は含まれません。このコードはオーダー レベルの調整でのみ使用します。

[総勘定元帳に見越入力を作成する]

選択すると、見越し調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、F4074 テーブルが更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

[リベート]

選択すると、リベート調整が作成されます。F4078 テーブルがオーダー明細行の数量、重量、金額で更新されます。

[請求書への印刷]

選択すると、調整金額が請求書に印刷されます。調整金額はオーダー合計に加算されますが、単価には含められません。売上更新プロセスの実行時に、この調整に対して個別の総勘定元帳および売掛金の仕訳が転記されます。

[仕入先販売証明]

選択すると、仕入先販売証明のリベート調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、F4078 テーブルがオーダー明細行の数量、重量、および金額で更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

[丸め調整]

選択すると、価格調整明細の改訂プログラム (P4072) で設定した丸め規則に基づいて、丸め調整が作成されます。調整金額は単価に加算されます。

拡張バスケット品目への調整の適用

このセクションでは、拡張バスケットの品目レベル調整の概要、事前設定、および拡張バスケットの品目への調整の適用方法について説明します。

拡張バスケット品目の品目レベルの調整について

拡張バスケットの価格再設定機能では、拡張バスケットに含まれる品目に対して品目レベルまたは品目グループレベルの調整を作成できます。この機能により、バスケット全体に標準の調整を 1 つ適用するのではなく、品目または品目グループごとにさまざまな値引きを適用できます。価格調整明細の改訂プログラムでは、例外情報を入力できます。入力可能な情報は、バスケット マスター プログラムで設定したバスケット集計規則とバスケット価格設定規則によって異なります。

拡張バスケットの品目または品目グループに例外情報を入力した後は、バスケット マスター プログラムを使用して対応するレコードを削除/変更することはできません。バスケット マスター情報の変更が必要な場合は、価格調整明細の改訂プログラムを使用して、先に例外情報を削除する必要があります。

バスケット集計規則で品目または品目グループの最小数量を必須と指定した場合は、例外情報の入力時に最小数量を指定しないと、調整は適用されません。

事前設定

価格調整タイプ プログラムの処理からアクセスする [価格調整の定義] フォームで、拡張バスケットの価格再設定機能が有効に設定されていることを確認します。

拡張バスケット品目への調整の適用に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[バスケット品目別調整]	W4072C	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格/調整 詳細の改訂]</p> <p>[調整明細の処理] フォームで [価格調整コード] に値を入力して、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>[優先階層の選択] フォームで優先階層を選択して、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>[価格調整明細の改訂] フォームで、品目グループおよび調整の入力に必要なその他の情報を入力して、[ロー] メニューから [バスケット品目別調整] を選択します。</p>	拡張バスケットの品目に調整を適用します。

拡張バスケット品目への調整の適用

[バスケット品目別調整] フォームにアクセスします。

[開始数量]

調整または優先情報が適用される値を示す数値を入力します。値は、レベル分岐の定義に応じて、数量、重量、金額のいずれかになります。

通過逡減調整以外の場合は、値がレベル分岐の値と等しくなったときに調整が適用されます。たとえば、値が数量の 10 の場合、10 またはそれ以上の数量がオーダーされたときに調整が適用されます。

通過逡減調整の場合、レベル分岐の値を超えた数量がオーダーされたときに調整が適用されます。たとえば、値が数量の 10 の場合、11 またはそれ以上の数量がオーダーされたときに調整が適用されます。

バスケット マスター プログラムで指定したバスケット集計規則とバスケット価格設定規則に応じて、このフィールドの情報を更新できます。拡張バスケットの品目に例外情報を入力しない場合は、標準バスケットの価格再設定が適用されます。

オーダー レベル調整の作成

このセクションでは、オーダー レベル調整の概要とその作成方法について説明します。

オーダー レベル調整について

オーダー グループに基づいて品目の価格を再設定するには、オーダー価格再設定を使用します。オーダーの各明細行の情報によって、オーダー グループの品目が特定されます。オーダー グループに含まれる品目については、オーダー全体に対する調整が 1 つ作成され、調整額が適用された新しいオーダー明細行が作成されます。

オーダー レベル価格再設定は、運送費に対して行を追加する際によく使用されます。入力された品目の重量、数量、その他の変数によって、追加の行品目の金額が決定されます。この追加行により、運送費が加算されます。

オーダー価格再設定グループに含まれている品目に対して、受注オーダー入力 (P4210) を使用してオーダーを入力すると、品目の基本価格に調整が適用されます。価格再設定調整を使用するには、[受注オーダー明細の改訂] フォームの [フォーム] メニューから、[オーダー価格再設定] オプションを選択します。基本価格への変更は、価格再設定調整を反映しています。また、行品目をオーダー グループに適用することもできます。

オーダー レベル調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整の定義]	W4071A	<p>[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義]</p> <p>[調整タイプの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>[調整制御の修正] フォームで、調整名を入力し、[受注明細に追加する] オプションを選択して、[OK] ボタンをクリックします。</p>	オーダーレベルの調整を作成します。

オーダー レベル調整の作成

[価格調整の定義] フォームにアクセスします。

受注オーダーの価格再設定

このセクションでは、受注オーダーの価格再設定の概要と、バスケット レベル調整またはオーダー レベル調整の適用方法について説明します。

受注オーダーの価格再設定について

受注オーダーの価格を再設定することにより、顧客に対して値引きを提供できます。以下の 3 つの方法のいずれかを使用してオーダーの価格を再設定します。

- オーダーの照会後に価格再設定を行う。
- バスケット レベルまたはオーダー レベルで価格再設定を行う。
- 自動的に価格再設定を行う。

オーダー照会後の価格再設定

オーダーを承認および再照会した後に、[フォーム] メニューから [オーダー価格再設定] を選択します。

バスケット レベルまたはオーダー レベルの価格再設定

オーダー レベル/バスケット レベル価格設定プログラム (R42750) を実行して、受注オーダーを評価し、バスケット レベルおよびオーダー レベルの調整を適用できます。バスケット レベル調整は F4074 テーブルに書き込まれ、その情報は価格履歴プログラム (P4074) で参照できます。バスケット レベル調整では、無償品が発生する場合があります。それらの無償品は新しい明細行として受注オーダーに追加されます。オーダー レベル調整は、F4074 テーブルに書き込まれません。オーダー レベル調整は、新しい明細行として受注オーダーに追加されます。オーダー レベル調整では、無償品が発生する場合があります。それらの無償品は新しい明細行として受注オーダーに追加されます。

オーダー レベル/バスケット レベル価格設定プログラムの [処理] タブの [調整前に既存レコードをクリアする] 処理オプションを使用して、既存のバスケット調整またはオーダー調整を、再作成の実行前に削除できます。既存レコードをクリアする場合に無償品の変更/削除を行わない設定を行うには、[処理] タブの [無償品レコードの保存] 処理オプションを使用します。

自動価格再設定

オーダーを承認および再照会した後に、[フォーム] メニューから [オーダー価格再設定] を選択します。

調整の改訂

このセクションでは、調整の改訂の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- オーダー入力時の調整の追加
- オーダー入力時の価格レベル分岐の変更
- 顧客リポート情報の検討

調整の改訂について

調整の改訂によって、購買オーダー調整や受注オーダー調整に対して追加調整や調整の改訂を行うことができます。

在庫品目の価格および引当可能数量は、オーダーの受注において非常に重要な要素です。[価格/引当可能数量の処理] フォームを使用して、在庫品目の価格および引当可能数量を検討します。このフォームでは、特定の品目のオーダー行に適用される価格調整の検討を迅速に行うことができます。

また、調整タイプに定義された数量分岐を検討したり、現行オーダーに対して異なる数量分岐を指定することもできます。受注オーダー入力時に、[調整タイプの数量分岐] フォームにアクセスするには、[価格/引当可能数量の処理] フォームを経由する必要があります。

受注オーダー入力プログラムから、価格/引当可能数量の照会プログラム (P4074) にアクセスできます。価格管理を使用している場合は、価格/引当可能数量の照会のバージョンを処理オプションで入力する必要があります。

変更する場合は、変更理由を示すコードも入力する必要があります。

調達管理における価格管理の使い方

購買オーダーについては、価格/引当可能数量の照会を使用して、購買オーダーを入力する前に価格調整を確認できます。[価格/引当可能数量の処理] フォームを使用して、在庫品目の価格を検討します。このフォームでは、特定の品目のオーダー行に適用される価格調整の検討を迅速に行うことができます。

また、調整タイプに定義された数量分岐を検討したり、現行オーダーに対して異なる数量分岐を指定することもできます。購買オーダー入力時に、[調整タイプの数量分岐] フォームにアクセスするには、[価格/引当可能数量の処理] フォームを経由する必要があります。

価格/引当可能数量の照会プログラムへは、購買オーダー プログラム (P4310) の [ロー] メニューからアクセスできます。

事前設定

このセクションの操作を実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- [価格管理固定情報] フォームで、価格管理の使用に関するフィールドを “Y” (使用する) に設定します。
- 価格変更が可能となるように処理オプションを設定します。
- 価格が表示されるように処理オプションを設定します。
- 価格調整を含む受注オーダーを設定します。

調整の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格履歴]	W4074D	<p>[受注オーダー処理] (G4211)、[受注明細]</p> <p>[受注残および完了オーダー照会] フォームで、価格調整を追加するオーダーを検索し、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>[受注オーダー明細の改訂] フォームで行を選択して [ロー] メニューの [価格履歴] をクリックします。</p>	オーダー入力時に調整を追加します。
[価格/引当可能数量チェック]	W4074D	<p>[受注オーダー処理] (G4211)、[受注明細]</p> <p>[受注残および完了オーダー照会] フォームで、価格調整を追加するオーダーを検索して、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>[受注オーダー明細の改訂] フォームで行を選択して、[ロー] メニューの [価格チェック] を選択します。</p>	オーダー入力時に価格レベル分岐を変更します。
[リポート実績]	W4078A	<p>[受注オーダー処理] (G4211)、[受注明細]</p> <p>[受注残および完了オーダー照会] フォームでオーダーを検索し、[フォーム] メニューの [リポート実績] を選択します。</p>	顧客のリポート情報を検討します。
[売上明細実績]	W4078C	[リポート実績] フォームで、住所番号と有効日を指定してレコードを検索し、[選択] ボタンをクリックします。	販売先住所のリポート実績を検討します。

オーダー入力時の調整の追加

[価格履歴] フォームにアクセスします。

現行のオーダー明細行に適用する調整を追加できます。交渉済みの値引きなどに対応して、この調整を行うことができます。また、どの種類の金額に対しても手動で調整することができます。

オーダー入力時の価格レベル分岐の変更

[価格/引当可能数量チェック] フォームにアクセスします。

受注オーダー入力時に、オーダーに対して顧客が受け取る値引きレベルを変更できます。価格レベルの変更は、現行のオーダーのみに適用されます。

顧客のリベート情報の検討

[リベート実績] フォームにアクセスします。

リベート見越し調整定義を使用し、実績ファイルに累積された複数のオーダーの合計金額、合計数量、合計重量に基づいて、リベートが計算されます。オーダー入力時、実績ファイルにアクセスして、顧客に追加情報を提供することができます。

第 11 章

販促 ID の使い方

この章では、販促 ID の概要と以下の方法について説明します。

- 販促状況の設定
- 販売促進情報の入力および更新
- 販売促進の関連付け

販促 ID について

販促 ID を使用して、価格管理調整、受注オーダー行、および価格履歴を販売促進に関連付けることができます。期限付きで適用される販売促進がある場合に、有効日付などの販売促進情報を設定して、調整に関連付けるか、または受注明細行に直接関連付けることができます。その後、販売促進情報は、価格調整元帳 (F4074) テーブルに記録されトラッキングされます。

調達管理でも同様に販売促進を使用することができます。仕入先から販売促進の提供がある場合は、販売促進情報の設定および定義を行い、調整に関連付けるか、または購買明細行に直接関連付けることができます。その後、販売促進情報は、F4074 テーブルに記録されトラッキングされます。

販促状況の設定

このセクションでは、販促状況の概要と設定方法について説明します。

販促状況について

販売促進を管理するために、状況を設定します。一度にアクティブにできる販促状況は 1 つのみです。販売促進の定義時に、販促状況を指定します。

販促状況の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[状況の追加]	W40P02C	[価格管理固定情報] (G4231111)、[販促状況管理] [販促状況の検索] フォームで[追加]をクリックします。	販促状況を設定します。

販促状況の追加

[状況の追加] フォームにアクセスします。

[状況記述] 販促状況コードの内容がわかるように説明を入力します。

[アクティブ状況] 販促状況がアクティブの場合にオンにします。一度にアクティブにできる販売状況は 1 つのみです。

販売促進情報の入力および更新

このセクションでは、販売促進情報の概要および販売促進の追加方法について説明します。

販売促進の管理について

販促 ID の管理プログラム (P40P03) を使用して、販売促進の有効日付などの販売促進情報を定義します。

販売促進の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[販促IDの追加]	W40P03B	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[販促IDの管理] [販促IDの検索] フォームで [追加] をクリックします。	販売促進情報の入力および更新を行います。

販売促進の追加

[販促IDの追加] フォームにアクセスします。

販促IDの管理・販促IDの追加

販促ID

PROMO5

販促名

End of Season Sales Promotion

販促状況

☒ Y

Approved

有効開始日付

2005/07/15

期限終了日付

2005/08/21

[販促IDの追加] フォーム

[販促名] 販売促進の名前を入力します。

販売促進の関連付け

このセクションでは、販売促進の関連付けの概要と以下の方法について説明します。

- 調整に対する販売促進の関連付け
- オーダーに対する販売促進の関連付け

販売促進の関連付けについて

受注管理および調達管理で販売促進を関連付けるには、以下のいずれかの方法を使用します。

- 調整定義に販促 ID を添付します。
受注オーダーまたは購買オーダー入力時に、調整の有効日付、販売促進の有効日付の順に検証が行われます。販売促進がアクティブの場合、F4074 テーブルに販売情報が記録されます。
- 受注明細行または購買明細行に販促 ID を入力します。
各明細行に複数の販売促進を関連付けることができます。
販売促進を関連付けた明細行をコピーした場合、または販売促進を関連付けた一括/見積オーダーのリリースを行った場合は、販売促進情報もコピーされます。

販売促進の関連付けに使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[価格調整の定義]	W4071A	[価格調整のセットアップ] (G4231112)、[価格調整の定義] 販売促進を関連付ける調整を検索して、[選択]をクリックします。	調整に販売促進を関連付けます。
[受注オーダー明細の改訂]	W4210A	[受注オーダー処理] (G4211)、[受注明細] [受注残および完了オーダー照会] フォームで [追加] をクリックします。	受注明細情報を入力します。
[価格履歴]	W4074D	[受注オーダー明細の改訂] フォームで明細行を選択して、[ロー] メニューの [価格履歴] をクリックします。	受注明細行に販売促進を関連付けます。
[オーダー明細]	W4310A	[購買オーダー処理] (G43A11)、[購買オーダーの入力] [オーダー見出しの処理] フォームで、[追加] をクリックします。 購買オーダー情報を入力して、[OK] をクリックします。	購買オーダー情報を入力します。
[価格履歴]	W4074D	[オーダー明細] フォームで、購買明細情報を入力して明細行を選択し、[ロー] メニューの [価格履歴] をクリックします。	購買明細行に販売促進を関連付けます。


調整に対する販売促進の関連付け

[価格調整の定義] フォームにアクセスします。[その 2] タブをクリックします。

価格調整の定義

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)



調整制御

調整コード

ADJ1

Adjustment1

ターゲット・システム
受注管理

調整制御コード

2

伝票に印刷する

調整レベル

- ☒ 行レベル調整
- ☐ バスケット・レベル調整
- ☐ オーダー・レベル調整
- ☐ 販売高レベル調整

[価格調整の定義] - [その 2] タブ (1/2)

その 1

その 2

相互排他調整

排他調整グループ

☐ 排他調整

レポート受取先

レポート受取先

受取先階層レベル

受取先住所

仕入先レポート・タイプ

レポート/扱い高基準調整

集計階層レベル

プロモーション

販促ID

☒ 販促表示制御

レポート・コード

レポート・コード 1

レポート・コード 2

レポート・コード 3

レポート・コード 4

レポート・コード 5

レポート・コード 6

価格表

価格表グループ

☐ 価格表から除外

[価格調整の定義] - [その 2] タブ (2/2)

オーダーに対する販売促進の関連付け

[価格履歴] フォームにアクセスします。

受注オーダーの例を以下に示します。

受注明細 - 価格履歴

OK 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

住所No. 4242

出荷先 4242

品目No. 220

開始数量 1.0000 EA

Touring Bike, Red

行No. 1,000

事業所 30

価格有効日付 2004/10/06

価格調整スケジュール NATIONAL

価格設定単位 EA

レコード 1 - 3

理由コード 記述	原価計 算	価 格	手 作	基準値	調整計算式	排他調整	排他 グループ	販促ID
		N	Y					
								PROMO

単位原価 0.0000

単価 654.8750

粗利益率 100.00

[価格履歴] フォーム

付録 A

EnterpriseOne 価格管理の標準ワークフロー

この付録では、EnterpriseOne 価格管理の標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Workflow Tools

EnterpriseOne 価格管理の標準ワークフロー

このセクションでは、EnterpriseOne 価格管理のワークフローについて説明します。

価格承認

このセクションでは、価格承認ワークフローについて説明します。

説明

ワークフローの概要	ユーザーが価格レコードを変更すると、レコードの状況が保留に更新されます。指定された承認者にワークフローメッセージが送信され、変更したレコードの承認要求が行われます。変更が承認されるまで、価格レコードの状況は保留のままです。
ワークフロートリガ	ユーザーが価格レコードを変更したときにワークフローが開始されます。
ワークフローアクション	指定された承認者は、価格変更が発生したワークセンターのメッセージを受信します。新価格が有効になるには、承認者による変更の承認が必要です。

ワークフロー オブジェクト

システム	45
ワークフロー オブジェクト名	JDEPRAPPR
オブジェクトID	N4502280
イベント記述/関数名	ProcessPriceChangeApproval
順序/行番号	129

EnterpriseOne 用語集

DNT - 変換なし	BLOB データの制約のため、iSeries サーバーに必要なデータソースのタイプです。
EnterpriseOne オブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネスビュー、イベントルール、バージョン、データ構造体、メディアオブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne プロセス	EnterpriseOne クライアントと EnterpriseOne サーバーでのプロセスリクエストの処理とトランザクションの実行のためのソフトウェア プロセスです。クライアントでは 1 つのプロセスが実行され、サーバーでは 1 つのプロセスの複数のインスタンスを処理することができます。EnterpriseOne プロセスをワークフロー メッセージやデータレプリケーションなどの特定のタスク専用指定することで、サーバーが大量のタスクを処理する場合でも重要なプロセスの実行を確保することができます。
FTP サーバー	ファイル転送プロトコルを通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
IServer サービス	JD Edwards 独自のサービスです。このインターネット サーバー サービスは Web サーバーに常駐し、データベースからクライアントへの Java クラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
Java アプリケーション サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネントベースのサーバーです。このサーバーは、データアクセスや永続性と共に、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータアクセスを行うためのデータベースドライバです。
JDEBASE データベースミドルウェア	クライアント/サーバー間のアクセスとプラットフォーム非依存型の API を提供する JD Edwards 独自のデータベースミドルウェア パッケージです。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すための API です。
JD Edwards EnterpriseOne データベース	“JDEBASE データベースミドルウェア”を参照してください。
jde.ini	EnterpriseOne の初期設定に必要なランタイム設定を提供する JD Edwards EnterpriseOne のファイル (または iSeries 用のメンバー) です。EnterpriseOne を実行する各マシンには、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーが含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミングツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制限、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	EnterpriseOne の主要な診断ログ ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルートディレクトリに置かれ、EnterpriseOne の起動時からの状況とエラー メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards 独自の通信ミドルウェア パッケージです。このパッケージは、ピアツーピア、メッセージベース、ソケットベースのマルチプロセス通信ミドルウェアソリューションです。EnterpriseOne の全てのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のために全ての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う “Nota Fiscal” です。

Nota Fiscal の説明も参照してください。

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。
Web アプリケーション サーバー	Web アプリケーションと、バックエンドシステムおよび電子商取引に使用されているデータベースとの間のデータ交換を可能にする Web サーバーです。
Web サーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IP プロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Web サーバーでは、ブラウザからのリクエストへの対応以外にも、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理することができます。どのようなコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Web サーバーとして使用できます。
Windows ターミナル サーバー	マルチ ユーザー機能を持つサーバーであり、このサーバーに接続することで、それ自体では Windows ソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも Windows アプリケーションを使用することができます。全てのクライアント処理は、Windows ターミナル サーバーで集中的に実行され、画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみがネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル サーバー間で転送されます。
XAPI イベント	システム呼び出しを使用して EnterpriseOne のトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XML サービス	EnterpriseOne システムからイベントをリクエストし、別の EnterpriseOne システムから応答を受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XML ディスパッチ	EnterpriseOne で受信する全ての XML ドキュメントへの応答のための、単一のエン트리 ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XML トランザクション	事前定義済みのトランザクション タイプを使用して EnterpriseOne にデータをリクエストしたり、EnterpriseOne からデータを受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。XML トランザクションではインターフェイステーブル機能が使用されます。
XML トランザクション サービス (XTS)	EnterpriseOne のフォーマットではない XML ドキュメントを EnterpriseOne で処理可能なフォーマットに変換するサービスです。このサービスでは、応答時に、変換されたドキュメントが元の (発信側の) XML フォーマットに戻されます。
XML リスト	EnterpriseOne データベース情報のチャンク単位でのリクエスト/受信を可能にするインタオペラビリティ機能です。
Z イベント	インターフェイス テーブル機能を使用して EnterpriseOne トランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムに通知を提供するサービスです。
Z テーブル	EnterpriseOne 以外のデータを保存し、EnterpriseOne 用に変換することができるワークテーブルです。EnterpriseOne データの取得にも Z テーブルを使用できます。Z テーブルはインターフェイス テーブルとも呼ばれます。
Z トランザクション	EnterpriseOne データベースへの更新のためにインターフェイス テーブルで正しくフォーマットされたサードパーティのデータです。
アクティビティ ルール	フロー内でオブジェクトがあるポイントから次のポイントに進むための条件です。

アプリケーション一時変更	代替的なデータ辞書項目の記述であり、現在のオブジェクトのシステムコードに基づいて EnterpriseOne や World で表示されます。
アプリケーション サーバー	ネットワーククライアントに共有されるアプリケーションを含む、ローカル エリア ネットワーク内のサーバーです。
イベントルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行される操作に基づく処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
イベントルールビジネス関数 (NER)	C 言語ではなく、イベントルールを使用して作成され、カプセル化された再利用可能なビジネスロジックです。イベントルールビジネス関数は、“NER” とも呼ばれます。NER は、複数のプログラムの複数の場所で再利用することができます。このモジュラー性の高さによって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
インターフェイス テーブル	“Z テーブル” を参照してください。
インタオペラビリティ モデル	サードパーティシステムから EnterpriseOne への接続やアクセスを行うための機能です。
インテグレーション サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、各種のオペレーティングシステムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
埋め込みイベントルール	特定のテーブルやアプリケーションのためのイベントルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。“イベントルールビジネス関数”とは機能的に対照を成すルールです。
エスカレーション モニター	処理待ちのリクエストや活動を監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過すると、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチプロセスです。
エラー表示の有効化	EnterpriseOne におけるフォームレベルのプロパティであり、有効時にはアプリケーション エラーのエラー メッセージがフォーム上に表示されます。
エンタープライズ サーバー	EnterpriseOne や World のデータベースとロジックを格納するサーバーです。
オープン データ アクセス (ODA)	データの集計とレポートの作成のために、SQL ステートメントを使用して EnterpriseOne のデータを抽出することができるインタオペラビリティ モデルです。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	EnterpriseOne では、ランタイム環境のオブジェクトリクエストブローカーおよび制御センターとして機能します。OCM によって、ビジネス関数、データ、バッチアプリケーションのランタイム ロケーションを追跡します。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCM では、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセス先が指定されます。
オブジェクトライブラリアン	アプリケーションのビルドに再利用可能な全てのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクトライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、EnterpriseOne オブジェクトの作成、変更、使用の制御も行われます。オブジェクトライブラリアンは複数の環境(生産環境や開発環境など)に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動することができます。
オブジェクトライブラリアン マージ	前のリリースでオブジェクトライブラリアンに加えられた全ての変更を新規リリースのオブジェクトライブラリアンに統合するプロセスです。
オフライン機能	サーバーと接続されていないユーザーがトランザクションを入力し、後にサーバーに接続してそれらのトランザクションをアップロードすることができる処理モードです。

拡張プランニングエージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読み込みに使用できる EnterpriseOne のツールです。APAg は、リレーショナル データベース、フラットファイル フォーマットおよび XML のような他のデータまたはメッセージエンコーディング形式によるデータソースへのアクセスをサポートしています。
活動	EnterpriseOne の Form Design Aid で使用される、スケジュール機能をもつエンティティであり、カレンダー上で指定した時間の量を表します。
仮定処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で入力されたように、取引の金額を表示することができる処理です。
環境ワークベンチ	インストール ワークベンチプロセスの実行時に、各環境の環境情報とオブジェクト構成マネージャテーブルを、プランナ データソースからシステム リリース番号のデータソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準の会計処理と 52 期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、日付を指定して EnterpriseOne の各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や金額を確認することができます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画することが合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
原価要素	EnterpriseOne 製造管理において、特定の品目 (資材費、人件費、間接費など) の原価の一要素を表します。
コスト割当	EnterpriseOne 収益性分析のプロセスであり、リソースのトレースや、活動やコストオブジェクトへの配賦に使用されます。
コネクタ	EnterpriseOne とサードパーティアプリケーションの間でのロジックとデータの共有を可能にするコンポーネントベースのインタオペラビリティ (相互運用) モデルです。EnterpriseOne コネクタアーキテクチャには Java コネクタと COM コネクタが含まれています。
コントロールテーブル マージ	顧客が変更したコントロール テーブルを新規リリースのデータに統合するプロセスです。
コントロールテーブル ワークベンチ	インストール ワークベンチの処理中に、プランで指定したデータ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー時変更テーブルを更新するバッチアプリケーションを実行するアプリケーションです。
サーバーワークベンチ	インストール ワークベンチプロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ データソースからシステム リリース番号データソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
差異	<p>キャピタル アセット マネジメントでは、1 つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した原価の差を意味します。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne プロジェクト原価管理と JD Edwards EnterpriseOne 製造管理では、同じ品目に対する 2 つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差は設計差異です。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。</p>
最終モード	データレコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードのレポート処理モードの 1 つです。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne 製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。稼働可能な日数に基づいて構成部品と作業指示のスケジュールを設定

	できるように、このカレンダーには作業日のみが連続的に表示されます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するために、Microsoft Word 6.0(またはそれ以上のバージョン)の文書と EnterpriseOne のレコードをマージするアプリケーションです。雇用の証明に関する書式などの文書の印刷に、差し込み印刷ワークベンチを使用することができます。
サブスクリバテーブル	F98DRSUB テーブルを指しています。このテーブルは F98DRPUB テーブルと共にパブリッシャサーバーに置かれ、各パブリッシュ済みテーブルの全てのサブスクリバマシンの識別に使用されます。
3 方向伝票突合せ	EnterpriseOne 調達管理および外注管理で、入荷情報と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。3 方向突合せでは、入荷レコードを使用して伝票を作成します。
施設	原価のトラッキング対象となる業務の単位の 1 つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワークセンター、事業所などがあります。施設は、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
従業員ワークセンター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含む全ての EnterpriseOne メッセージを送受信するための中心のロケーションです。各ユーザーには、アクティブ メッセージなど、ワークフローやその他のメッセージを含むメールボックスが割り当てられます。
出力ストリーム アクセス (OSA)	EnterpriseOne のインターフェイスを設定し、別のソフトウェア パッケージ (Microsoft Excel など) にデータを渡して処理を実行することができるインタオペラビリティ モデルです。
処理オプション	このデータ構造によって、ユーザーはバッチ プログラムやレポートの実行を制御するパラメータを指定することができます。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などができます。
スペック	EnterpriseOne オブジェクトの完全な説明です。各オブジェクトには固有の仕様またはアプリケーションのビルドに使用される名称があります。
スペックテーブル マージ ワークベンチ	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、スペックテーブルを更新するバッチ アプリケーションを実行するアプリケーションです。
スペック マージ	オブジェクトライブラリアン マージ、バージョンリスト マージ、およびセントラル オブジェクト マージで構成されるマージ機能です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合することができます。
スポットレート	トランザクションレベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先されます。
3 ステップ処理	EnterpriseOne でのバッチトランザクションの入力、検討と承認、転記のタスクを指します。
整合性テスト	社内の貸借一致手順を補足するために使用するプロセスであり、問題のある残高情報やデータ不整合の特定とレポート作成を行うことができます。
セグメント間編集	コンフィギュレーション品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能のコンフィギュレーションのオーダーを防ぐことができます。
選択	メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して Enter キーを押します。

セントラルオブジェクト マージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、次の（新規の）リリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル サーバー	クライアントマシンに配布されるソフトウェアの、最初にインストールされたバージョン（セントラルオブジェクト）の格納用に指定されたサーバーです。EnterpriseOne の典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン（セントラルサーバー）にロードされます。次に、セントラルサーバーにつながっている各種のワークステーションに向けてソフトウェアのコピーがプッシュアウトされます（またはワークステーションからダウンロードされます）。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損した場合には、常にセントラルサーバー上にある変更前のオブジェクトのセット（セントラルオブジェクト）にアクセスすることができます。
相殺/仮勘定	EnterpriseOne Financial Management の一般会計勘定科目であり、仕訳入力（相殺（貸借一致））処理に使用されます。たとえば、相殺/仮勘定を使用して、EnterpriseOne 一般会計の配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行うことができます。
即時バッチ オブワン	処理をクライアントワークステーション上で実行してから、後続の処理のために全てを一度にサーバーアプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアントアプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。 “ダイレクト接続”と“オフライン処理”も参照してください。
ターミナル サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク、ホストコンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続することができます。
代替通貨	取引通貨（国内のみの取引の場合は国内通貨）として指定した通貨と異なる通貨です。 EnterpriseOne Financial Management では、代替通貨を使用して、領収書や支払の入力を発行時と異なる通貨で行うことができます。
ダイレクト接続	クライアントアプリケーションとサーバーアプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “即時バッチ オブワン”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
チャート	EnterpriseOne の情報の表形式の表示であり、ソフトウェアのフォームに表示されます。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にはレポートに使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、さまざまな通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応することができます。
突き合わせ伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、EnterpriseOne Financial Management では、入金請求書の突き合わせ伝票であり、支払が支払伝票の突き合わせ伝票です。
データソース ワークベンチ	インストールワークベンチの処理中に、インストールプランに定義された全てのデータソースを、プランナのデータソースに含まれるデータソースマスターとテーブル/データソースサイジングテーブルから、システムのリリース番号のデータソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データソースプラン詳細レコードも更新されます。
データベース サーバー	データベースの管理やクライアントマシンの検索を実行するローカルエリアネットワーク内のサーバーです。

テーブルアクセス管理 (TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を処理する EnterpriseOne コンポーネントです。TAM には、データ辞書定義、アプリケーション/レポート仕様、イベントルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブルイベントルール	データベーストリガに添付されるロジックであり、トリガに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。EnterpriseOne では、イベントルールをアプリケーションイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有です。テーブルイベントルールでは、テーブルレベルでの埋め込みロジックを提供します。
テーブル変換	EnterpriseOne と、EnterpriseOne 以外のテーブルを使用するサードパーティシステムとの間でデータ交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
テーブル変換ワークベンチ	EnterpriseOne と、EnterpriseOne 以外のテーブルを使用するサードパーティシステムとの間でデータ交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
デプロイメントサーバー	複数のエンタープライズサーバーとクライアントマシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
電子データ交換 (EDI)	EnterpriseOne システムとサードパーティシステムの間で、コンピュータ間の業務トランザクションデータの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティモデルです。EDI を使用する会社は、EDI 標準フォーマットからその会社のシステムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、TP モニターによって、分散環境でのデータの整合性が守られます。TP モニターには、データの検証と端末画面のフォーマットのプログラムが含まれる場合もあります。
トランザクションセット	複数のセグメントで構成されている電子的ビジネストランザクション (電子データ交換標準ドキュメント) です。
トリガ	データ辞書項目に固有の複数のイベントの 1 つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるデータ辞書項目にロジックを添付することができます。
トリガ イベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済みの、特定のワークフローイベントです。
2 重価格設定	商品やサービスに 2 つの通貨で価格を設定するプロセスです。
2 方向伝票突合せ	EnterpriseOne 調達管理および外注管理で、購買明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録しません。
バックツール バックプロセス	EnterpriseOne ワークフロー管理で使用されるプロセスであり、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれています。
パッケージ	EnterpriseOne オブジェクトは、デプロイメントサーバーからのパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージは、部品表やキットに例えることができ、ワークステーションに必要なオブジェクトと、インストールプログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようにデプロイメントサーバー上の位置情報を含んでいます。パッケージは、デプロイメントサーバー上のセントラルオブジェクトの特定時点のスナップショットでもあります。
パッケージビルド	ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの既存ユーザーへの反映を容易に行うことができるソフトウェアアプリケーションです。また、EnterpriseOne では、パッケージビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済みバージョンを指す場合もあります。たとえば、使用中の ERP ソフトウェアのアップグレード時に、パッケージビルドの実行を指示されたとします。

	<p>“パッケージビルド”という用語について、以下のコンテキストを検討してください。“パッケージビルド時に実行されるビジネス関数のグローバルビルドでは新規の関数が自動的に含められるため、配布の準備が整うまでビジネス関数を本稼働用パスコードに転送しないでください。”このように、パッケージビルドを作成するプロセスが“パッケージビルド”と呼ばれる場合もあります。</p>
パッケージ ロケーション	<p>パッケージとそのパッケージのレプリケート(複製)オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、¥¥deployment server¥release¥path_code¥package¥package name に置かれます。このパスの下サブディレクトリに、パッケージ用のレプリケートオブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。</p>
パッケージ ワークベンチ	<p>インストール ワークベンチプロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ データソースからシステムリリース番号データソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージプラン詳細レコードも更新されます。</p>
バッチ サーバー	<p>バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチサーバーにデータベースは格納されず、対話型アプリケーションも実行されません。</p>
バッチ処理	<p>サードパーティシステムから EnterpriseOne にレコードを転送する処理です。</p> <p>EnterpriseOne Financial Management では、バッチ処理を使用して、EnterpriseOne 以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータを EnterpriseOne 売掛管理や EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送することができます。また、顧客レコードや仕入先レコードを含む住所録情報を EnterpriseOne に転送することも可能です。</p>
パブリッシャ	<p>パブリッシュされたテーブルを受け持つサーバーです。F98DRPUB テーブルでは、企業内の全てのパブリッシュ済みテーブルとそれらに関連付けられたパブリッシャの識別が行われます。</p>
パブリッシュされたテーブル	<p>マスターテーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシャマシンに格納される F98DRPUB テーブルにより、企業内の全てのパブリッシュされたテーブルとそれらに関連付けられたパブリッシャが識別されます。</p>
バージョンリスト マージ	<p>バージョンリスト マージを実行すると、新規リリースにおいて有効なオブジェクトとそれらの処理オプションデータの、非 XJDE および非 ZJDE バージョンの仕様が維持されます。</p>
ビジネス関数	<p>ユーザーによって作成される命名済みの再利用可能なビジネス ルールとログのセットであり、イベントルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数では、トランザクションやそのサブセット(在庫チェック、作業オーダーの発行など)を実行することができます。また、ビジネス関数には API も含まれているため、フォーム、データベーストリガ、または EnterpriseOne 以外のアプリケーションからも呼び出すことができます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベントルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成することができます。ビジネス関数の作成には、イベントルール、または C などの第 3 世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、Credit Check (与信チェック) や Item Availability (在庫照会) が挙げられます。</p>
ビジネスビュー	<p>アプリケーションやレポートでデータが使用されている複数の EnterpriseOne テーブルから特定の列を選択するための手段として使用される機能です。ビジネスビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネスビューには実際のデータは含まれていません。ビジネスビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作することができます。</p>
ビジュアル アシスト	<p>ユーザーがコントロールに属するデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。</p>

ファイル サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。ユーザーにはリモート ディスクドライブとして表示されるディスクサーバーと異なり、ファイル サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、保存しているファイルを管理し、要求をユーザー リクエスト ファイルとして維持して、それらのファイルの更新も行う高度な機能が備えられています。
プリスティン環境	EnterpriseOne のデモ データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用する EnterpriseOne 環境です。研修環境にも使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要です。
プリント サーバー	ネットワークとプリンタの間のインターフェイスであり、ネットワーククライアントはこれを利用してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信することができます。コンピュータ、独立したハードウェア デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアでもプリンタサーバーとして使用することができます。
プルレプリケーション	データを個別のワークステーションにレプリケートする方法の 1 つです。プルレプリケーションのレプリケーション先のマシンは、EnterpriseOne のデータレプリケーション ツールを使用して、プル サブスクライバとしてセットアップされます。プル サブスクライバに変更、更新、削除が通知されるのは、その情報を要求した場合のみです。要求は、通常は起動時に、プル サブスクライバから F98DRPCN テーブルが置かれているサーバーにメッセージの形式で送信されます。
プロキシサーバー	企業などがセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
プログラム一時修正 (PTF)	磁気テープやディスクで提供される、JD Edwards ソフトウェアの変更です。
プロジェクト	EnterpriseOne で使用される、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナです。
プロモーション パス	ワークフロー内でオブジェクトやプロジェクトが進む、指定された工程です。標準的なプロモーション サイクル (パス) は以下のとおりです。 11>21>26>28>38>01 このパスでは、11 は検討待ちの新規プロジェクト、21 はプログラミング、26 は品質管理テスト/検討、28 は品質管理テスト/検討の完了、38 は本稼働、01 はサイクルの完了を表します。標準的なプロジェクト プロモーション サイクルの工程内で、開発者は、開発パスコードからオブジェクトをチェックアウトし、チェックインしてから、それらのオブジェクトをプロトタイプ パスコードにプロモートします。次に、オブジェクトは、工程の完了の前に、本稼働用のパスコードに移されます。
編集コード	レポートやフォームの特定の値がどのように表示/フォーマットされるかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザー入力を事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
補足データ	マスターで管理されない全ての情報のタイプを指す用語です。補足データは、通常、従業員、応募者、購買要求、作業 (従業員の技能、取得学位、語学力など) に関する追加情報です。補足データを使用して、組織が要求するあらゆる情報を追跡管理することができます。 たとえば、標準のマスター (住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター) とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理することができます。このような汎用データベースを使用すると、EnterpriseOne システム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。
本稼働用環境	ユーザーが EnterpriseOne ソフトウェアを実務使用する EnterpriseOne 環境です。

本稼働レベル ファイル サーバー	通常はユーザー サポート サービスと共に提供される、品質保証付きの商品化されたファイル サーバーです。
マスター テーブル	“パブリッシュされたテーブル”を参照してください。
マスター ビジネス関数 (MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新のための中心のロケーションとして機能する対話型のマスター ファイルです。マスター ビジネス関数によって、データ入力フォームとテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター 関数によって、全ての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セットが、関連するプログラムに提供されます。MBF には、データベースの情報の追加、更新、削除の整合性を確保するロジックが含まれています。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、後続のレコード グループの制御情報が識別または提供されます。
見積オーダー	EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストであり、そこから購買オーダーを作成できます。 EnterpriseOne 受注管理では、受注オーダーに対してまだ引当を行っていない顧客の品目情報と価格情報を指します。
明細情報	たとえば、伝票支払品目や受注オーダー明細行など、EnterpriseOne のトランザクションの個別の行に関連する情報です。
メッセージアダプタ	サードパーティ システムから EnterpriseOne に接続し、メッセージング キューを使用したデータの交換を行うためのインタオペラビリティ モデルです。
メッセージ センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含む全ての EnterpriseOne メッセージを送受信するための中心のロケーションです。
メッセージング サーバー	メッセージング API を使用して、他のプログラムで使用するために送信されるメッセージを処理するサーバーです。メッセージング サーバーには、通常、関数を実行するためにミドルウェア プログラムが配備されます。
メディア ストレージ オブジェクト	テーブル フォーマットにまとめられていない、Gxxx、xxxGT、または GTxxx のいずれかの命名規則を使用するファイルです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを顧客のユーザー一時変更テーブルに追加するプロセスです。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
用語一時変更	特定の EnterpriseOne または World のフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的な説明です。
リアルタイム イベント	システム呼び出しを使用して EnterpriseOne のトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムに通知を提供するサービスです。
リフレッシュ	EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を、新規リリースや PTF/Cum アップデートリリース (B73.2 や B73.2.1 など) に正しく対応させるための変更機能です。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド プロンプト機能です。
レプリケーション サーバー	セントラル オブジェクトのクライアント マシンへのレプリケーションを受け持つサーバーです。

ロケーションワークベンチ	インストールワークベンチプロセスの実行時に、インストールプランに定義された全てのロケーションを、プランナデータソースの保管場所マスターからシステムデータソースにコピーするアプリケーションです。
ロジックサーバー	アプリケーションプログラムにビジネスロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティンオブジェクトは、セントラルサーバーからロジックサーバーに複製されます。EnterpriseOneやWorldソフトウェアの実行時に、ロジックサーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
ワークグループサーバー	マスターネットワークサーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループサーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
ワークフロー	ビジネスプロセスの一部または全体の自動化を意味する用語です。自動化されたプロセス(ワークフロー)の実行時には、ドキュメント、情報、タスクは、手順規則に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対する1つのエントリポイントからのアクセスを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne 支払サイクルワークベンチ(P07210)を使用して、給与計算、支払レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用される全てのプログラムにアクセスすることができます。EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ(P90CD020)、ラインスケジューリングワークベンチ(P3153)、計画ワークベンチ(P13700)、監査人ワークベンチ(P09E115)、支払サイクルワークベンチなどが用意されています。

索引

AAI

- 4234 - シップ アンド デビット 21
- 4270 - 価格調整 21
- 4280 - 未払リベート 21
- 4515 - 見越しリベート 115
- 4520 - 未収リベート 115
- 価格管理での使用 20
- 価格管理における設定 21
- [勘定科目の改訂] フォーム 21
- システム設定の必須情報 15
- 見越し 12
- 無償品調整について 6

Advanced Pricing 15

- implementing for Brazil, additional steps 7

BP450150 プログラム 84

Customer Connection Web サイト xii

F03012A テーブル 92

F03012 テーブル 92

F4011 テーブル 114

F4070 テーブル 107

F4071 テーブル 107, 114, 115

F4072 テーブル 67, 107, 110

F4074 テーブル 107, 110, 114, 115, 141

F4075 テーブル 119

F4078 テーブル 110, 114, 115

F4079 テーブル 110, 114, 115

F4093 テーブル 95

F40UI74 テーブル 74, 107, 110, 114, 115

F4105 テーブル 35

F41061 テーブル 35

F4211 テーブル 110, 119

F4343 テーブル 114

F4510 テーブル 68

F4511W テーブル 68

F45520 テーブル 74

F45521 テーブル 74

F45522 テーブル 74

F45523 テーブル 74

F45524 テーブル 74

F45715 テーブル 129

F4575 テーブル 128

F45762Z1 テーブル 129

F4576Z1 テーブル 128

F4576 テーブル 128

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 xi

MMA Partners xii

P0150 プログラム

- 処理オプション 84
- 用途 81

P4073 プログラム 103

P4078 プログラム 113

P41002 プログラム 11

P4101 プログラム 28

P45200 プログラム 110

P45501 プログラム

- 価格設定検索クエリーの生成 68, 70
- 検索クエリーの再生成 69
- 検索クエリーの削除 69
- 検索クエリーの表示 71
- 用途 10, 67

P45715 プログラム

- 処理オプション 131
- 用途 129

P45731 プログラム 104

PeopleBook

- 注文 xii

PeopleCode の表記規則 xiv

R03012A プログラム 92

R03012B プログラム 92

R407201 プログラム

- 処理オプション 65
- 用途 64

R40821 レポート 135

R40932 プログラム 95

R41840 プログラム 134

R42750 プログラム 141

R42770 プログラム 114

R45210 プログラム

- 処理オプション 41
- 用途 40

R45502 プログラム 68, 70

R45503 プログラム 69

R45522 プログラム 74

R47761Z1 プログラム 128

R47762Z1 プログラム 129

Repasse 22

system setup

Brazilian price adjustment codes 15
 Repasse 22

あ

[値のリストの改訂] フォーム 77
 扱い高アップセル 12, 105
 扱い高基準 12
 扱い高基準価格割引
 扱い高基準価格割引について 109
 設定 111
 扱い高基準調整 111
 扱い高基準調整の履歴プログラム
 (P45200) 110
 アプリケーションの基礎 xi
 粗利益調整
 粗利益調整について 122
 目標限度の作成 125
 目標調整の優先詳細の作成 124

い

一時変更検索グループ
 一時変更検索グループについて 89
 価格管理 90
 調達管理における価格管理の使い方 90
 例(販売) 90
 一括更新エンジン 67
 一般会計(価格管理とのインテグレーション) 6
 印刷・製本されたドキュメンテーション xii

う

売掛管理(価格管理とのインテグレーション) 5

お

[親/子構造の処理] フォーム 83
 [親住所/子住所の改訂] フォーム 83
 オンライン価格交渉 13
 [オーダー明細価格グループの定義]
 フォーム 96
 オーダー明細グループ 95, 97
 [オーダー明細] フォーム 148
 オーダーレベル調整 140
 オーダーレベル/バスケットレベル価格
 設定プログラム(R42750) 141

か

買掛管理(価格管理とのインテグレーション) 5
 階層 51
 価格管理について 48
 基本価格設定の改訂 38
 基本価格設定を表す図 36
 基本価格優先階層について 36
 受注管理での使用(図) 48
 調達管理での使用(図) 49
 定義 51, 52
 優先マスターの設定 51
 [階層記述の改訂] フォーム 83
 階層別リポート
 階層別リポートについて 115
 規定値の作成 117
 価格管理
 階層 48
 概要 1
 価格調整(各タイプ) 11
 機能 9
 システム インテグレーション 5
 受注管理用の導入(追加ステップ) 7
 調達管理での使用 13
 調達管理のシステム固定情報 16
 調達管理ビジネス プロセス 3
 調達管理用の導入(追加ステップ) 7
 導入 6
 ビジネス プロセス(受注管理) 2
 見越し 10
 利点 9
 価格管理固定情報(設定) 17
 価格管理固定情報フォーム 17, 19
 価格グループ
 簡易 28
 組み合わせの生成 95
 顧客グループの定義 28
 品目グループの定義 28
 複合 28
 価格グループ関係 95
 [価格計算式の改訂] フォーム 120
 価格再設定
 オーダーレベル調整について 140
 価格再設定について 133
 価格再設定調整 12
 価格承認
 一時保留価格 29
 価格承認について 28
 既存価格の有効化 40

- 現行価格 29
- 状況コード 29
- 承認要求の検討 31
- ワークフロー管理 13
- ワークフロー処理 30
- ワークフロー設定の改訂 32
- 価格承認変換プログラム (R45210)
 - 処理オプション 41
 - 用途 40
- 価格設定階層 52
 - 定義 51
- [価格設定規則の表示] フォーム 85
- 価格設定検索クエリー
 - 価格設定検索クエリーについて 68
 - 結果の表示 68, 71
 - 再生成 69
 - 削除 69
 - 生成 70
- 価格設定ワークベンチ解決ステップ プログラム (R45502) 68
- 価格設定ワークベンチ事前解決プログラム (R45502) 70
- 価格設定ワークベンチのクエリー詳細の削除プログラム (R45503) 69
- 価格設定ワークベンチ プログラム (P45501)
 - 価格設定検索クエリーの生成 68, 70
 - 検索クエリーの再生成 69
 - 検索クエリーの削除 69
 - 検索クエリーの表示 71
 - 用途 10, 67
- 価格調整
 - 扱い高アップセル 12
 - 扱い高基準 12
 - 粗利益 61
 - 一時変更価格 11
 - 改訂について 142
 - 価格再設定 12
 - 価格調整について 43
 - 期限付き価格 11
 - 基本価格の割合 11
 - 基本価格パーセント 59
 - 原価 + 金額 61
 - 原価 + 金額のパーセンテージ 59
 - 原価の割合 11
 - 原価パーセント 59, 61
 - 現行正味価格の割合 11
 - 現行正味価格パーセント 59
 - 現行正味仕入先価格/在庫原価パーセント 61
 - 顧客のカスタム プログラム 11
 - 先日付調整の追加について 133
 - 仕入先価格/在庫原価パーセント 61
 - シップ アンド デビット 13
 - 指定金額 11
 - 受注管理のシステム処理の使い方 44
 - 数式 11
 - スケジュールでの複数調整の使用 (図) 43
 - 多通貨価格設定 11
 - 調整明細の確認 43
 - 調達管理のシステム処理の使い方 46
 - 追加金額 59, 61
 - 追加計算式金額 60, 62
 - 追加変動金額 60, 62
 - 定義の作成 43
 - バッチ改訂について 133
 - 変更 133
 - 無償品 12
 - ユーザー プログラム追加金額 61, 62
 - レベル分岐 12
 - レポートについて 133
- [価格調整スケジュールの改訂] フォーム 57, 86, 116
- 価格調整の一括改訂 67
- [価格調整の一括改訂] フォーム 70, 77
- 価格調整の改訂 133
- 価格/調整の生成プログラム (R407201)
 - 処理オプション 65
 - 用途 64
- [価格調整の定義] フォーム 54, 116, 148
- 価格調整の排他
 - 価格調整の排他について 54
 - 指定 56
 - 販売促進品目の使用 54
- 価格調整の保守管理プログラム (R41840) 134
- [価格調整明細の改訂] フォーム 63, 108, 111, 120, 123
- 価格調整レコードの一括更新 67
- 価格のスピード承認 (承認要求) 32
- 価格表 74
- 価格表の生成プログラム (R45522) 74
- [価格表明細] フォーム 75
- 価格変更の影響を受けるオーダー レポート (R40821) 135
- [価格変動コードの処理] フォーム 120

価格明細(設定) 63
 価格履歴(アップセル通知) 105
 [価格履歴] フォーム 143, 148
 価格レベル分岐 143
 [価格ワークベンチの処理] フォーム 70
 拡張バスケット
 価格再設定における例外情報について 139
 品目に対する品目レベルの調整について 139
 品目への調整の適用 139
 カタログ 36, 103
 [カラム・パターン] フォーム 75
 簡易価格グループ 28
 [勘定科目の改訂] フォーム 21
 関連ドキュメンテーション xii

き

期間延長条件調整
 期間延長条件調整グループについて 125
 支払条件の定義 126
 優先明細の定義 126
 期限付き価格 11
 基準コード
 粗利益 61
 基本価格パーセント 59
 原価 + 金額 61
 原価 + 金額のパーセンテージ 59
 原価パーセント 59, 61
 現行正味価格パーセント 59
 現行正味仕入先価格/在庫原価パーセント 61
 仕入先価格/在庫原価パーセント 61
 受注管理 59
 調達管理 61
 追加金額 59, 61
 追加計算式金額 60, 62
 追加変動金額 60, 62
 ユーザー プログラム追加金額 61, 62
 基本価格設定
 一時変更検索グループについて 89
 価格グループ組み合わせの検討 95
 基本価格設定について 25
 在庫原価の検討 35
 仕入先価格の取得 36
 受注管理での計算 26
 受注管理における価格管理との比較 10
 受注管理の価格レベルの定義 28

受注管理の顧客グループの定義 28
 受注管理の品目グループの定義 28
 設定 39
 調達管理 35
 優先階層について 36
 優先階層の改訂 38
 [基本価格の改訂] フォーム 39
 共通フィールド xvi

く

[組込/除外規則の設定] フォーム 130

け

警告 xv
 計量単位換算 - 品目プログラム (P41002) 11
 原価計算方式 35
 ケース管理(価格管理とのインテグレーション) 6

こ

ご意見 xvi
 購買オーダー(販売促進情報) 54
 購買価格レベル 35
 購買構造
 階層レベルと継承について 80
 階層レベルと継承(例) 80
 改訂 84
 確認 84
 構造(例) 79
 購買構造について 79
 設定 81
 用途 12
 購買構造(組織構造のルート親の特定) 83
 購買構造の確認と改訂 84
 [購買構造の表示] フォーム 85
 購買構造の表示プログラム (P450150) 84
 顧客価格グループ
 価格グループ組み合わせの生成 95
 顧客価格グループについて 10
 複合価格グループの設定 93
 複合グループの設定 91
 顧客価格グループの生成プログラム (R40932) 95
 [顧客価格グループの定義] フォーム 93
 顧客グループ
 定義 28

顧客請求指示 (システム設定要件) 16
 顧客別価格表
 印刷 74
 価格表グループの作成 74
 価格表グループの指定 76
 価格表構造の作成 74, 75
 カラム パターンの定義 74
 顧客別価格表について 74
 生成 74
 調整用グループの指定 74
 用途 10
 固定情報
 システム設定の必須情報 15
 設定 16, 17
 調達管理 16
 ご要望 xvi
 [コントロール・パネル] フォーム 70

さ

在庫管理 (価格管理とのインテグレーション) 5
 [残高の改訂] フォーム 130
 [サーチ・エージェントの改訂] フォーム 77
 サービス管理 (価格管理とのインテグレーション) 5

し

仕入先価格 36
 仕入先指示 (システム設定要件) 16
 仕入先販売証明レポート 114
 仕入先レポート 114
 事業所固定情報 (設定) 16
 事業所品目 (システム設定要件) 16
 システム インテグレーション
 一般会計 6
 売掛管理 5
 買掛管理 5
 ケース管理 6
 在庫管理 5
 サービス管理 5
 受注管理 5
 調達管理 5
 システム固定情報フォーム 17
 システム設定
 AAI 15, 20, 21
 価格調整明細 58
 価格明細 63
 基本価格設定 39

顧客請求指示 16
 固定情報 15, 16, 17
 異なる通貨を使用した調整の設定 64
 仕入先指示 16
 住所録要件 16
 販促 ID の状況 145
 標準計量単位 16
 品目マスターと事業所品目の要件 16
 陸揚費用 16
 シップ アンド デビット契約
 契約処理 13
 シップ アンド デビット更新プログラム (R47762Z1) 129
 シップ アンド デビット調整
 残高の設定 131
 シップ アンド デビット調整について 126
 定義 131
 保証請求について 128
 明細について 129
 シップ アンド デビットの保証請求レポート (R47761Z1) 128
 自動仕訳, 参照: AAI
 従業員待ち行列マネージャ (承認要求) 32
 住所録 (システム設定要件) 16
 住所録組織構造の表示および改訂プログラム (P0150)
 処理オプション 84
 用途 81
 受注オーダーの入力
 オーダーに対する販売促進の関連付け 149
 価格再設定 141
 価格調整の検討と変更 142
 価格レベル分岐の変更 143
 調整の追加 143
 [受注オーダー明細の改訂] フォーム 143, 148
 受注管理
 一時変更検索グループ (例) 90
 階層図 48
 価格管理とのインテグレーション 5
 価格管理とのインテグレーション (ビジネス プロセス) 2
 価格レベルの定義 28
 基準コード 59
 基本価格設定 25
 基本価格設定と価格管理の比較 10

基本価格設定を使用した価格の計算 26
 顧客グループの定義 28
 調整と調整スケジュールの使用（システム処理） 44
 導入（追加ステップ） 7
 品目グループの定義 28
 [状況の追加] フォーム 145
 承認要求の検討
 従業員待ち行列マネージャ 31
 承認要求 31

す

スケジュール
 作成 56, 57
 受注管理の使い方（システム処理） 44
 スケジュールについて 43, 56
 調達管理での価格管理の割り当て 57
 調達管理の使い方（システム処理） 46
 複数の調整からの設定（図） 43

せ

請求書
 柔軟な請求書印刷の詳細設定 12
 販売促進情報の表示 54
 前提知識 xi

そ

相互参照 xv
 組織構造（ルート親の特定） 83

た

対象フォーム 70
 多通貨価格設定 11

ち

注 xiv
 注意事項 xiv
 調整残高プログラム (P45715)
 処理オプション 131
 用途 129
 調整タイプの数量分岐 106
 [調整残高の処理] フォーム 130
 [調整制御の修正] フォーム 54, 108, 111, 116, 130, 137
 調整定義

価格調整に対する販売促進の関連付け 148

作成 53
 調整定義について 53

調達管理

一時変更検索グループについて 90
 オーダー明細グループ 96
 階層図 49
 価格管理とのインテグレーション 5, 13

価格管理とのインテグレーション（ビジネス プロセス） 3

価格管理のシステム固定情報 16

価格設定について 33

基準コード 61

購買オーダーの価格計算（システムの処理） 33

仕入先価格の取得 36

調整スケジュールの割り当て 57

調整と調整スケジュールの使用（システム処理） 46

導入（追加ステップ） 7

標準リポートの作成 114

無償品調整について 101

直接価格調整

作成 86

直接価格調整について 85

つ

追加ドキュメンテーション xii

通過逡減

通過逡減について 121

割引例 121

通過逡減調整

作成 122

通常の購買リポート 114

て

[テーブル・フィールドの記述] フォーム 120

と

ドキュメンテーション

印刷・製本 xii

関連 xii

は

[バスケット品目別調整] フォーム 139
 バスケット マスター

設定 137
 バスケット マスターについて 135
 [バスケット・マスターの改訂] フォーム 137
 バスケット レベル調整
 作成 138
 バスケット マスター情報の設定 137
 バスケット レベル調整について 136
 販促 ID
 オーダーに対する販売促進の関連付け 149
 管理 146
 調整に対する販売促進の関連付け 148
 販促 ID について 145
 販促状況の設定 145
 販売促進情報の入力および更新 146
 販売促進の関連付け 147
 [販促IDの追加] フォーム 146
 販売促進情報 54
 販売促進品目
 請求書と購買オーダーへの表示 56
 排他調整の使用 54
 排他調整の重複の解決 54

ひ

表記規則 xiv
 標準計量単位 (システム設定要件) 16
 品目価格グループ
 価格グループ組み合わせの生成 95
 設定 91
 定義 28
 品目価格グループについて 10
 複合グループの設定 94
 [品目価格グループの定義] フォーム 93
 [品目の選択] フォーム 75
 品目マスター
 購買価格レベル 35
 システム設定要件 16
 販売価格レベル 28
 品目マスター プログラム (P4101) 28

ふ

複合価格グループ
 複合価格グループについて 28, 91
 複合顧客価格グループの設定 91, 93
 複合品目価格グループの設定 91, 94
 複数計量単位 11
 フレキシブル請求書印刷明細 12

へ

変動価格調整 119

ほ

補足調整 99

ま

丸め規則 106, 108
 [丸め規則の改訂] フォーム 108

み

見越し調整
 用途 12
 リポート見越し調整の作成 (例) 112

む

無償品カタログ
 作成 104
 無償品カタログについて 103
 [無償品カタログからの品目選択] フォーム 104
 [無償品カタログの改訂] フォーム 104
 無償品調整
 カタログの処理 103
 作成 101, 102
 調達管理での使用 101
 無償品調整について 101
 無償品の提供 104
 用途 12
 [無償品の改訂] フォーム 102
 無償品の改訂プログラム (P4073) 103
 [無償品の提供] フォーム 104
 無償品の提供プログラム (P45731) 104

ゆ

有効日付カテゴリ コード
 追加 92
 有効化 91
 有効日付カテゴリ コードの更新プログラム (R03012A) 92
 有効日付カテゴリ コードの除去プログラム (R03012B) 92
 [優先階層の改訂] フォーム 38, 51
 [優先階層の選択] フォーム 39
 [優先値の改訂] フォーム 126
 [優先定義の改訂] フォーム 126
 優先マスター
 使用 51
 設定 50, 52

[優先マスターの改訂] フォーム 51

リ

陸揚費用（システム設定要件） 16

[リベート規定値の改訂] フォーム 116

リベート実績照会プログラム (P4078) 113

リベート請求の作成プログラム
(R42770) 114

リベート調整

階層について 115

検討 113

顧客情報の検討 144

仕入先販売証明リベートの作成 114,
118

調達管理での作成 114

使い方 111

見越し作成 113

用途 12

リベート規定値の作成 117

リベート調整について 111

履歴の印刷 113

れ

レベル分岐 12

[レベル分岐パターン] フォーム 75

連絡先 xvi

わ

ワークフロー管理（価格承認） 13